

四街道市男女共同参画市民意識調査

報告書

平成25年2月

四 街 道 市

目次

I 調査の概要	1
1. 調査の目的	2
2. 調査方法	2
3. 調査項目	2
4. 回収率と回収サンプル数	2
5. 報告書を読む際の注意事項	3
6. 標本誤差について	3
7. 比較分析に使用した「内閣府男女共同参画社会に関する世論調査」の概要	4
II 調査結果	5
1. 回答者属性	6
(1) 性別	6
(2) 年代	7
(3) 職業	8
2. 男女平等に対する考え方について	9
(1) 男女の地位の平等	9
(2) 男女の平等意識の時系列比較	24
(3) 男女の平等意識の全国(内閣府調査(平成24年度))との比較	25
(4) 男は仕事、女は家庭の考え方	26
(5) 男は仕事、女は家庭の考え方の全国(内閣府調査(平成24年度))との比較	28
3. 男女共同参画社会の実現について	29
(1) 男女共同参画社会実現に対する評価について	29
(2) 男女共同参画社会の実現に必要なこと	31
4. ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)について	33
(1) ワーク・ライフ・バランスの認知	33
(2) 「仕事」と「家庭生活」や「地域活動」への関わり方	35
(3) 「仕事」と「家庭生活」や「地域活動」への関わり方の時系列比較	37
(4) 「仕事」と「家庭生活」や「地域活動」への関わり方の全国との比較	38
(5) 「家庭生活」のための時間	39
(6) 働きやすい環境づくり	41
(7) 家事の分担	43
(8) 家事の分担の時系列比較	64
5. 災害時の避難について	66
6. 女性の就業のあり方や現状について	68
(1) 女性の就業のあり方	68
(2) 女性の就業のあり方の時系列比較	73
(3) 女性の就業のあり方の全国(内閣府調査(平成24年度))との比較	74
(4) 職場における性別による格差	75
(5) 職場における性別による格差の時系列比較	77
7. 子育てについて	78
(1) 子どもの性別と子育てのあり方	78
(2) 子どもの性別と子育てのあり方の時系列比較	89
8. 女性の人権について	90
(1) 女性の人権が侵害されていると感じるとき	90
(2) 女性の人権が侵害されていると感じるときの時系列比較	92
(3) セクシュアル・ハラスメントの経験の有無	93
(4) セクシュアル・ハラスメントの経験の有無の時系列比較	95
(5) ドメスティック・バイオレンス(DV)の経験の有無	96
(6) ドメスティック・バイオレンス(DV)の経験の有無の時系列比較	100
9. 男女共同参画に関する法律やことば等について	101
(1) 男女共同参画に関する法律やことばの認知	101
(2) 男女共同参画に関する法律やことばの認知の時系列比較	102
10. 各設問のその他回答一覧	103
11. 自由意見一覧	109
III 調査票	117

I 調査の概要

1. 調査の目的

一人ひとりの人権が尊重され責任を分かち合い、男女が共に個性と能力を十分に発揮することができる「男女共同参画社会」の形成に対して、市民がどのような意見を持っているのか、「男女共同参画社会」の実現のためにどのようなことを市に求めているのかなどを調査し、平成26年度からの次期「男女共同参画推進計画」策定のための基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査方法

- ・調査地域 : 四街道市全域
- ・調査対象 : 市内に居住する満20歳以上の男女
- ・対象者数 : 2,000人(男女各1,000人)
- ・抽出方法 : 住民基本台帳による無作為抽出
- ・調査方法 : 郵送配布・郵送回収法
- ・調査時期 : 平成24年11月9日～11月29日

3. 調査項目

- 男女平等に対する考え方について(問1～問2)
- 男女共同参画社会の実現について(問3)
- ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)について(問4～問7)
- 災害時の避難について(問8)
- 女性の就業のあり方や現状について(問9～問10)
- 子育てについて(問11)
- 女性の人権について(問12～問14)
- 男女共同参画に関する法律やことば等について(問15)

4. 回収率と回収サンプル数

- ・配布数 2,000人
- ・有効回答者数 892人
- ・有効回答率 44.6%

5. 報告書を読む際の注意事項

- ① アンケート集計は、各設問の単純集計と性別集計、性別×年代別のクロス集計を行った。
- ② 分析では、平成13年度、19年度に行った調査と共通の質問があるものについては時系列比較を行った。
- ③ 内閣府世論調査「男女共同参画社会に関する調査」平成24年10月実施と共通の質問があるものについては比較を行った。
- ④ 回収されたサンプル数は性別と年代別の割合に偏りが見られる。そのため、全体値の見方に注意が必要である。
- ⑤ 表中の比率(%)は、全て回答者数を母数として算出しており、その都度表示している。表示は小数点以下第2位を四捨五入しているため、比率(%)の合計値が100%にならない場合がある。
- ⑥ 複数回答は質問の特性上、比率(%)の合計値は100%にならない。

6. 標本誤差について

今回の無作為抽出法による調査の場合は、ここで出された数値(%)をそのまま20歳以上の全市民の回答として単純に置き換えると、多少の誤差が生じる。

統計学的には、次式で標本誤差を計算して、20歳以上の全市民の回答を推測する。(信頼度95%)

標本誤差の算定式

$$b = \pm 2 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b=標本誤差 N=母集団数(73,892人*)

n=比率算出の基数 P=回答比率

*平成24年9月30日現在の20歳以上住民基本台帳人口

今回の意識調査(n=892)における回答比率別標本誤差

回答比率	標本誤差
10%または90%	±2.0
20%または80%	±2.7
30%または70%	±3.1
40%または60%	±3.3
50%	±3.3

7. 比較分析に使用した「内閣府男女共同参画社会に関する世論調査」の概要

内閣府 男女共同参画社会に関する世論調査

1. 調査対象

- (1) 母集団 全国20歳以上の日本国籍を有する者
- (2) 標本数 5,000人
- (3) 抽出方法 層化2段無作為抽出法

2. 調査時期

平成24年10月11日～10月28日

3. 調査方法

調査員による個別面接聴取法

4. 回収結果

- (1) 有効回収数(率)3,033人(60.7%)
- (2) 調査不能数(率)1,967人(39.3%)

II 調查結果

1. 回答者属性

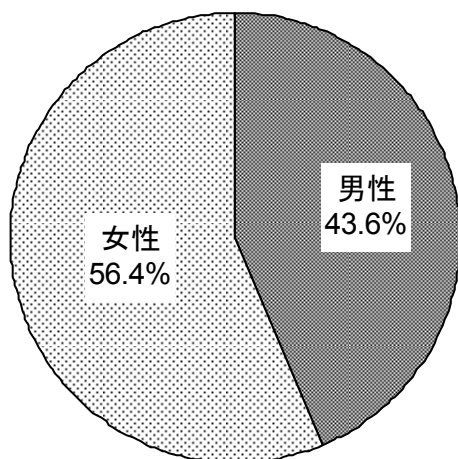
有効回収数は892票であり、集計分析に十分な数の回答が得られた。

回収されたサンプルは性別では女性が6割弱となっている。年代別では60歳代と70歳代以上の割合が高く、特に60歳以上の合計が49.8%とほぼ半数を占め、年代階層での偏りがみられた。

(1) 性別

回答者の性別は、男性が43.6%（389人）、女性が56.4%（503人）となっている。

図表 II-1 回答者の性別

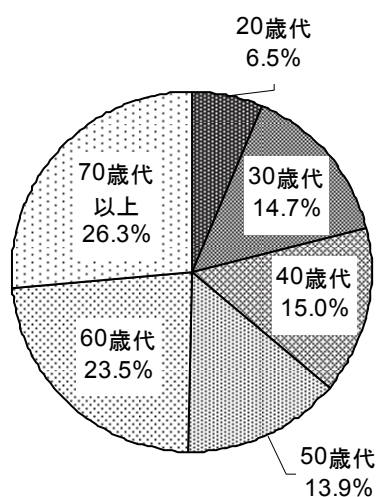


性別	回答数(件)	構成比(%)
男性	389	43.6
女性	503	56.4
サンプル数	892	100.0

(2) 年代

回答者の年代は、70歳代以上が26.3% (235人)と最も高く、次いで60歳代が23.5% (210人)、40歳代が15.0% (134人)、30歳代が14.7% (131人)、50歳代が13.9% (124人)、20歳代が6.5% (58人)となっている。60歳代以上で約半数を占めている。

図表Ⅱ-2 回答者の年代

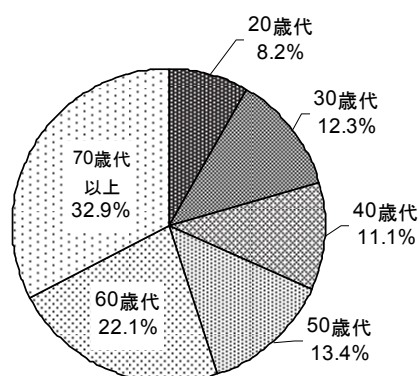


年代	回答数(件)	構成比(%)
20歳代	58	6.5
30歳代	131	14.7
40歳代	134	15.0
50歳代	124	13.9
60歳代	210	23.5
70歳代以上	235	26.3
サンプル数	892	100.0

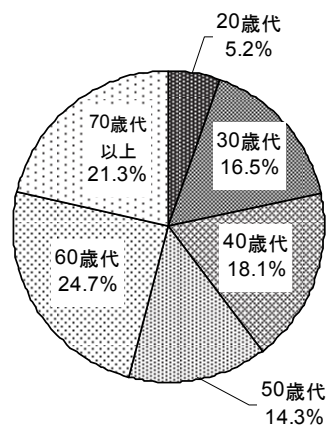
回答者の性別ごとに年代をみると、男性回答者(図表Ⅱ-3)は、70歳代以上が32.9%と最も高く、60歳代(22.1%)、50歳代(13.4%)が続き、50歳代以上が男性全体の約68%を占めている。

女性回答者(図表Ⅱ-4)は、60歳代が24.7%と最も高く、70歳代以上(21.3%)、40歳代(18.1%)が続き、60歳代以上が半数近くを占めている。

図表Ⅱ-3 男性回答者の年代



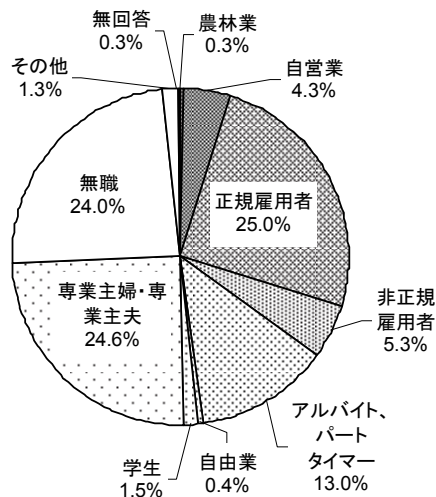
図表Ⅱ-4 女性回答者の年代



(3) 職業

回答者の職業は正規雇用者が25.0% (223人)と最も高くなっている。次いで専業主婦・専業主夫が24.6% (219人)、無職が24.0% (214人)と続き、約4分の3を占めている。他にアルバイト・パートタイマーが13.0% (116人)などとなっている。

図表Ⅱ-5 回答者の職業

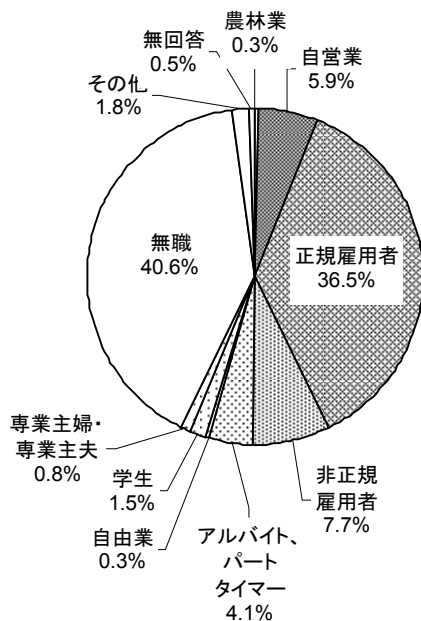


職業	回答数(件)	構成比(%)
農林業	3	0.3
自営業(商・工・サービス等)	38	4.3
正規雇用者(会社員・商店・医療施設等職員・サービス業・公務員等)	223	25.0
非正規雇用者(派遣社員・契約社員・嘱託等)	47	5.3
アルバイト、パートタイマー	116	13.0
自由業(画家・作家等)	4	0.4
学生	13	1.5
専業主婦・専業主夫	219	24.6
無職	214	24.0
その他	12	1.3
無回答	3	0.3
サンプル数	892	100.0

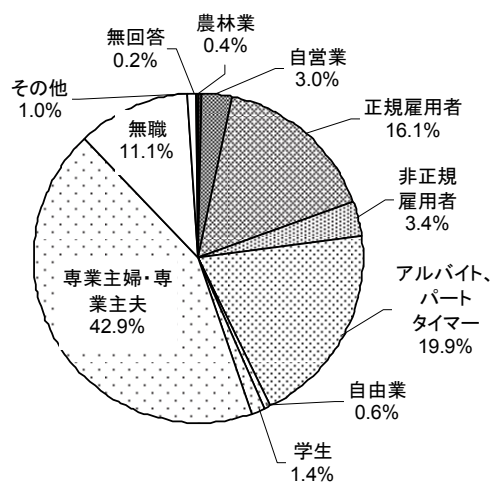
回答者の性別で職業をみると、男性回答者(図表Ⅱ-6)は、無職が40.6%と最も高く、正規雇用者(36.5%)、非正規雇用者(7.7%)が続いている。

一方、女性回答者(図表Ⅱ-7)は、専業主婦が42.9%と半数近くを占め、アルバイト・パートタイマー(19.9%)、正規雇用者(16.1%)が続いている。

図表Ⅱ-6 男性回答者の職業構成比



図表Ⅱ-7 女性回答者の職業構成比



2. 男女平等に対する考え方について

(1) 男女の地位の平等

問1.あなたは、次のような場面で、男女の地位は平等になっていると思いますか。①～⑦の各項目について、1つずつ選んで○をつけてください。(それぞれ1つずつ選択)

要 旨

7つの項目の分野は、「男性の方が優遇されている（非常に優遇されている＋どちらかといえば優遇されている）」と回答した人の割合が、「女性の方が優遇されている（非常に優遇されている＋どちらかといえば優遇されている）」という回答を上回っている。また、「男性の方が優遇されている（同）」と回答した人は「学校教育の場で」を除いて「平等」と回答した人の割合をも上回っている。全体的に生活や社会の場面で平等ではなく、男性が優遇されているという意識が強いといえる。

性別の回答をみると、女性は全分野で「男性の方が優遇されている(同)」と回答した人の割合が男性よりも高くなっている。「平等」と回答した人の割合は男性が高くなっている。女性は男性よりも不平等を感じ、男性が優遇されている社会と意識しているといえる。

分野別では、「男性の方が優遇されている(同)」と回答した人の割合が最も高かったのは、「社会通念・慣習・しきたり等において」(80.6%)、次いで「政治の場で」(74.7%)、「社会全体として」(73.3%)の順となっている。

一方、「平等」と回答した人の割合は、「学校教育の場で」(66.0%)が最も高く、次いで「法律や制度の上で」(41.1%)であった。

前回調査(平成19年度)と比較すると、「家庭生活の中で」では、今回調査において、「平等」が7ポイント高く、「男性の方が優遇されている(同)」が9ポイント低くなっている。それ以外の分野も変動はあるものの、それほどの変動はなく、家庭生活以外では、男性が優遇されていると感じている傾向に変わりはないといえる。

全ての分野で、市民の意識は内閣府調査(平成24年度)に比べ「男性の方が優遇されている(同)」と回答した人の割合が高く、「平等」は低くなっている。

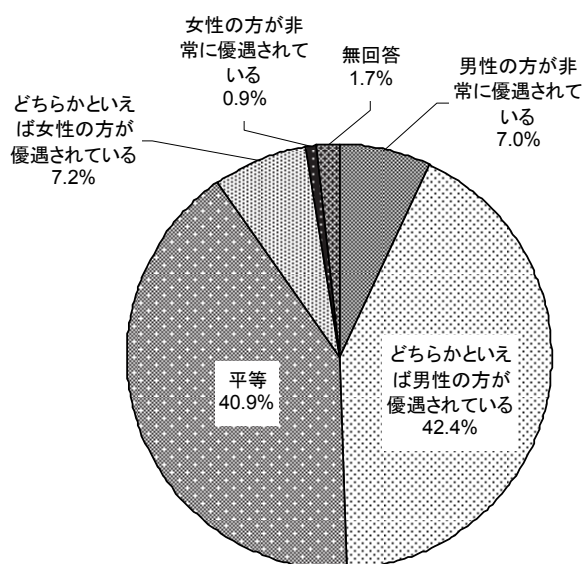
①家庭生活の中で

家庭生活の中の男女平等意識は、「男性の方が優遇されている(非常に優遇されている(7.0%) + どちらかといえば優遇されている(42.4%))」は49.4%であり、ほぼ半数は男性が優遇されていると感じている。

一方で、「女性の方が優遇されている(非常に優遇されている(0.9%) + どちらかといえば優遇されている(7.2%))」と感じている割合は8.1%で、女性の方が優遇されていると感じている人は少ない。

また「平等」と感じている人は40.9%で、5人に2人の割合となっている。

図表Ⅱ-8 家庭生活の中で



項目	回答数(件)	構成比(%)	
男性の方が優遇	計	440	49.4
	非常に	62	7.0
	どちらかといえば	378	42.4
平等	365	40.9	
女性の方が優遇	計	72	8.1
	非常に	8	0.9
	どちらかといえば	64	7.2
無回答	15	1.7	
サンプル数	892	100.0	

家庭生活の中の男女平等意識について、性別にみると、男性は「男性の方が優遇されている(同)」と感じる人の割合が40.6%となっているが、女性では56.0%と半数を超えている。一方、「平等」では男性は50.4%と半数を超えているが、女性は33.6%と3分の1程度である。

性別・年代別にみると、男性の20歳代、30歳代では「男性の方が優遇されている(同)」と感じている人は30%以下だが、40歳代では51.2%と半数を超えている。年代の高い層では、50歳代(36.5%)、60歳代(41.9%)、70歳代以上(46.1%)が半数以下となっている。男性は、男性が優遇されているという意識が女性に比べて低い反面、「平等」という意識はどの年代でも半数前後と比較的高くなっている。女性の40歳代以上では「男性の方が優遇されている(同)」と感じている人が過半数となっているが、20歳代(26.9%)、30歳代(45.8%)は半数以下となっている。

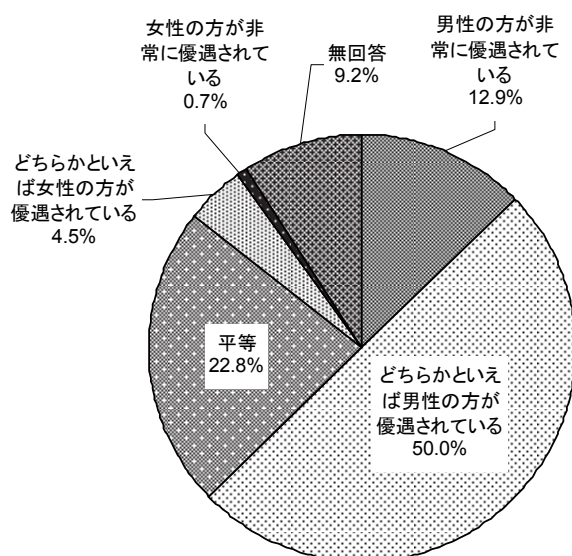
図表Ⅱ-9 「家庭生活の中で」の男女平等意識（性別・年代別）

	合計	男性			平等	女性			無回答	
		男性の方が優遇	非常に	いどちらかと		女性の方が優遇	非常に	いどちらかと		
全体	892	49.4	7.0	42.4	40.9	8.1	0.9	7.2	1.7	
男性	計	389	40.6	4.1	36.5	50.4	7.4	0.5	6.9	1.5
	20歳代	32	28.1	3.1	25.0	56.3	12.5	3.1	9.4	3.1
	30歳代	48	27.1	-	27.1	60.4	12.5	-	12.5	-
	40歳代	43	51.2	9.3	41.9	41.9	7.0	-	7.0	-
	50歳代	52	36.5	7.7	28.8	50.0	11.5	-	11.5	1.9
	60歳代	86	41.9	3.5	38.4	53.5	4.7	1.2	3.5	-
	70歳代以上	128	46.1	3.1	43.0	46.1	4.7	-	4.7	3.1
女性	計	503	56.0	9.1	46.9	33.6	8.6	1.2	7.4	1.8
	20歳代	26	26.9	-	26.9	57.7	11.5	-	11.5	3.8
	30歳代	83	45.8	4.8	41.0	38.6	15.7	1.2	14.5	-
	40歳代	91	61.6	12.1	49.5	34.1	4.4	-	4.4	-
	50歳代	72	54.1	9.7	44.4	30.6	12.5	4.2	8.3	2.8
	60歳代	124	60.5	11.3	49.2	33.1	4.8	0.8	4.0	1.6
	70歳代以上	107	62.6	9.3	53.3	26.2	7.4	0.9	6.5	3.7

②職場で

職場の中の男女平等意識は、「男性の方が優遇されている(非常に優遇されている(12.9%) + どちらかといえば優遇されている(50.0%))」と感じている人の割合は62.9%と高くなっているが、「女性の方が優遇されている(非常に優遇されている(0.7%) + どちらかといえば優遇されている(4.5%))」と感じた人の割合は5.2%と大幅に下回っている。また「平等」と感じている人は22.8%と低くなっている。

図表Ⅱ-10 職場で



	項目	回答数(件)	構成比(%)
男性 され の方 が 優 遇	計	561	62.9
	非常に	115	12.9
	どちらかといえば	446	50.0
	平等	203	22.8
女性 され の方 が 優 遇	計	46	5.2
	非常に	6	0.7
	どちらかといえば	40	4.5
	無回答	82	9.2
	サンプル数	892	100.0

職場における男女平等意識について、性別にみると、男性では「男性の方が優遇されている(同)」と感じている人の割合は57.9%、女性では66.8%と男性よりも高くなっている。

性別・年代別にみると、男性は40歳代以上で「男性の方が優遇されている(同)」と感じている人の割合が5割を超えて高くなっている。特に、70歳代以上が64.9%で最も高く、次いで60年代が62.8%で、高齢者が高い傾向となっている。

また20歳代から50歳代で「平等」と考える人の割合が3割を超えているが、60歳以上では2割程度と低くなっている。

女性では、30歳代以上は「男性の方が優遇されている(同)」と感じている人の割合が比較的高く、30歳代(63.9%)、40歳代(62.7%)、50歳代(69.4%)、60歳代(74.2%)、70歳代以上(67.3%)となっている。また20歳代は「平等」と感じている人の割合が42.3%と他の年代に比べ最も高く、年代が上がるほどその意識が低くなっている。

図表Ⅱ-11 「職場で」の男女平等意識（性別・年代別）

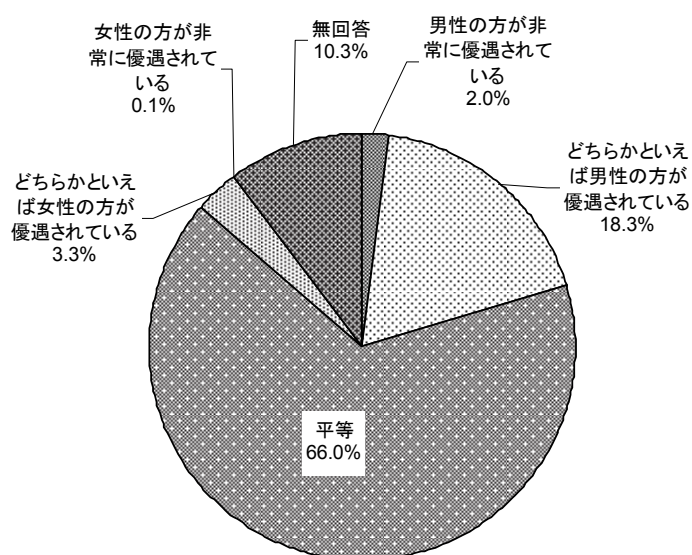
	合計	男性の方が優遇			平等	女性の方が優遇			無回答	
		非常に	いどちらばかと	非常に		いどちらばかと				
全体	892	62.9	12.9	50.0	22.8	5.2	0.7	4.5	9.2	
男性	計	389	57.9	8.0	49.9	26.7	7.7	1.0	6.7	7.7
	20歳代	32	46.9	3.1	43.8	37.5	12.5	3.1	9.4	3.1
	30歳代	48	37.6	6.3	31.3	39.6	16.7	4.2	12.5	6.3
	40歳代	43	60.5	9.3	51.2	32.6	7.0	-	7.0	-
	50歳代	52	55.7	3.8	51.9	30.8	11.5	-	11.5	1.9
	60歳代	86	62.8	9.3	53.5	19.8	10.5	1.2	9.3	7.0
	70歳代以上	128	64.9	10.2	54.7	20.3	-	-	-	14.8
女性	計	503	66.8	16.7	50.1	19.7	3.2	0.4	2.8	10.3
	20歳代	26	46.1	3.8	42.3	42.3	7.6	3.8	3.8	3.8
	30歳代	83	63.9	15.7	48.2	27.7	6.0	-	6.0	2.4
	40歳代	91	62.7	14.3	48.4	29.7	3.3	-	3.3	4.4
	50歳代	72	69.4	12.5	56.9	19.4	2.8	-	2.8	8.3
	60歳代	124	74.2	25.8	48.4	12.1	0.8	-	0.8	12.9
	70歳代以上	107	67.3	15.0	52.3	8.4	2.8	0.9	1.9	21.5

③学校教育の場で

学校教育の場の男女平等意識は「平等」という意識が66.0%と高くなっている。

「男性の方が優遇されている(非常に優遇されている(2.0%) + どちらかといえば優遇されている(18.3%))」と感じている人の割合は20.3%となっている。「女性の方が優遇されている(非常に優遇されている(0.1%) + どちらかといえば優遇されている(3.3%))」と感じている人の割合は3.4%と低くなっている。

図表Ⅱ-12 学校教育の場で



項目	回答数(件)	構成比(%)
男性の方が優遇	計	181
	非常に	18
	どちらかといえば	163
平等	589	66.0
女性の方が優遇	計	30
	非常に	1
	どちらかといえば	29
無回答	92	10.3
サンプル数	892	100.0

学校教育の場での男女平等意識で、性別にみると、男性は「平等」と感じている人の割合は72.5%、女性では61.0%で、男性が平等という意識が高くなっている。「男性の方が優遇されている(非常に優遇されている+どちらかというに優遇されている)」は、男性が13.1%に対して、女性は25.9%となっている。

性別・年代別にみると、男性はどの年代でも「男性の方が優遇されている(同)」が20%以下で低く、「平等」と感じている人はどの年代でも70%前後と高くなっている。

女性では、40歳代、50歳代、60歳代は「男性の方が優遇されている(同)」が30%前後となっているが、20歳代、30歳代は20%以下と低くなっている。また、「平等」と感じている人の割合は40歳代以下では70%前後となっているが、50歳代以上では50%前後となっている。

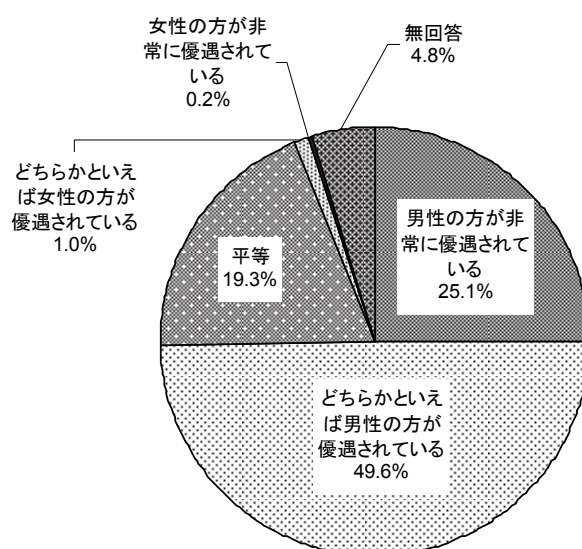
図表Ⅱ-13 「学校教育の場で」の男女平等意識（性別・年代別）

	合計	男性の方が優遇			平等	女性の方が優遇			無回答	
		非常に	いどちらか	非常に		いどちらか				
全体	892	20.3	2.0	18.3	66.0	3.4	0.1	3.3	10.3	
男性	計	389	13.1	0.8	12.3	72.5	5.2	0.3	4.9	9.3
	20歳代	32	9.4	3.1	6.3	84.4	6.3	-	6.3	-
	30歳代	48	14.6	-	14.6	66.7	10.4	-	10.4	8.3
	40歳代	43	9.3	-	9.3	79.1	9.3	-	9.3	2.3
	50歳代	52	13.5	-	13.5	73.1	7.7	-	7.7	5.8
	60歳代	86	16.3	2.3	14.0	69.8	4.7	1.2	3.5	9.3
	70歳代以上	128	12.5	-	12.5	71.1	0.8	-	0.8	15.6
女性	計	503	25.9	3.0	22.9	61.0	2.0	-	2.0	11.1
	20歳代	26	15.4	-	15.4	69.2	11.5	-	11.5	3.8
	30歳代	83	19.3	-	19.3	75.9	1.2	-	1.2	3.6
	40歳代	91	28.6	3.3	25.3	67.0	-	-	-	4.4
	50歳代	72	30.6	1.4	29.2	58.3	4.2	-	4.2	6.9
	60歳代	124	33.1	6.5	26.6	49.2	1.6	-	1.6	16.1
	70歳代以上	107	19.6	2.8	16.8	57.9	0.9	-	0.9	21.5

④政治の場で

政治の場の男女平等意識は、「男性の方が優遇されている(非常に優遇されている(25.1%) + どちらかといえば優遇されている(49.6%))」と感じている人の割合は74.7%と高く、「女性の方が優遇されている(非常に優遇されている(0.2%) + どちらかといえば優遇されている(1.0%))」と感じている人の割合は1.2%で大幅に下回っている。「平等」と感じている人の割合は19.3%となっている。

図表Ⅱ-14 政治の場で



	項目	回答数(件)	構成比(%)
男性 されの て方 いが 優 遇	計	666	74.7
	非常に	224	25.1
	どちらかといえば	442	49.6
	平等	172	19.3
女性 されの て方 いが 優 遇	計	11	1.2
	非常に	2	0.2
	どちらかといえば	9	1.0
	無回答	43	4.8
	サンプル数	892	100.0

政治の場では、「男性の方が優遇されている(同)」と感じている人は、性別にみると、男性では63.0%、女性は83.7%で、女性が20ポイント以上高くなっている。

性別・年代別にみると、男性は60歳代以下で「男性の方が優遇されている(同)」が65%前後で、年代間での差は僅少となっている。20歳代と30歳代で「平等」意識がそれぞれ31.3%で、40歳代、50歳代では20%前半と低くなっている。

女性は、ほぼどの年代でも「男性の方が優遇されている(同)」が80%前後で高く、年代間での差は僅少となっている。

図表Ⅱ-15 「政治の場で」の男女平等意識（性別・年代別）

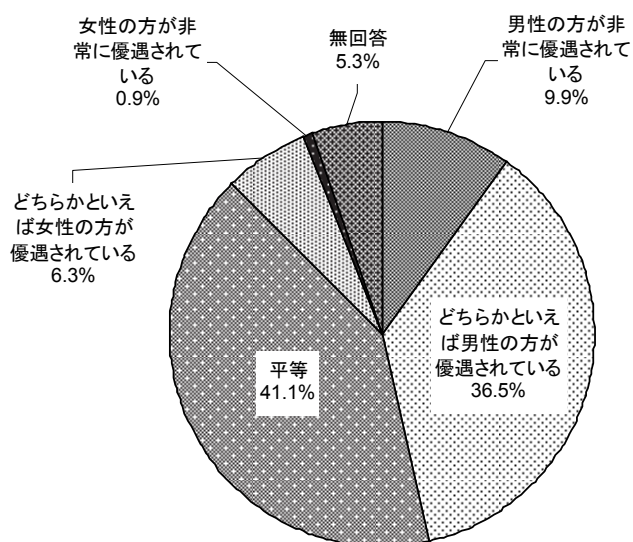
	合計	男性			平等	女性			無回答	
		男性の方が優遇	非常に	いど えち ばら かと		女性の方が優遇	非常に	いど えち ばら かと		
全体	892	74.7	25.1	49.6	19.3	1.2	0.2	1.0	4.8	
男性	計	389	63.0	15.7	47.3	31.1	2.4	0.3	2.1	3.6
	20歳代	32	65.7	18.8	46.9	31.3	3.1	3.1	-	-
	30歳代	48	60.5	16.7	43.8	31.3	4.2	-	4.2	4.2
	40歳代	43	76.7	18.6	58.1	20.9	2.3	-	2.3	-
	50歳代	52	73.1	17.3	55.8	21.2	3.8	-	3.8	1.9
	60歳代	86	68.6	15.1	53.5	26.7	2.3	-	2.3	2.3
	70歳代以上	128	50.8	13.3	37.5	41.4	0.8	-	0.8	7.0
女性	計	503	83.7	32.4	51.3	10.1	0.4	0.2	0.2	5.8
	20歳代	26	80.7	26.9	53.8	15.4	-	-	-	3.8
	30歳代	83	91.5	37.3	54.2	6.0	-	-	-	2.4
	40歳代	91	86.8	35.2	51.6	9.9	-	-	-	3.3
	50歳代	72	84.7	34.7	50.0	13.9	-	-	-	1.4
	60歳代	124	85.5	35.5	50.0	4.8	0.8	0.8	-	8.9
	70歳代以上	107	72.9	22.4	50.5	15.9	0.9	-	0.9	10.3

⑤法律や制度の上で

法律や制度の上での男女平等意識では、「男性の方が優遇されている(非常に優遇されている(9.9%) + どちらかといえば優遇されている(36.5%))」と感じている人は46.4%となっている。「平等」と感じている人は41.1%で高くなっている。

「女性の方が優遇されている(非常に優遇されている(0.9%) + どちらかといえば優遇されている(6.3%))」の7.2%を上記2項目は大幅に上回っている。

図表Ⅱ-16 法律や制度の上で



項目		回答数(件)	構成比(%)
男性 され の方 が 優 遇	計	414	46.4
	非常に	88	9.9
	どちらかといえば	326	36.5
	平等	367	41.1
女性 され の方 が 優 遇	計	64	7.2
	非常に	8	0.9
	どちらかといえば	56	6.3
無回答		47	5.3
サンプル数		892	100.0

法律や制度の上で男女平等意識について性別にみると、男性は「平等」と感じている人の割合は54.5%と過半数を占めているが女性では30.8%と20ポイント以上低くなっている。「男性の方が優遇されている(同)」では男性が30.1%、女性は59.0%で、女性の方が28.9ポイント高くなっている。

性別・年代別にみると、男性は30歳代を除いて「男性の方が優遇されている(同)」が30%前後となっている。「平等」はどの年代でも最も高く、また、年代が上になるほど高くなり、70歳代以上では64.1%となっている。

女性は20歳代以外の年代で「男性の方が優遇されている(同)」が高く、それぞれ過半数を占めている。「平等」の意識では30歳代以上では3割前後となっているが、20歳代では46.2%と高くなっている。

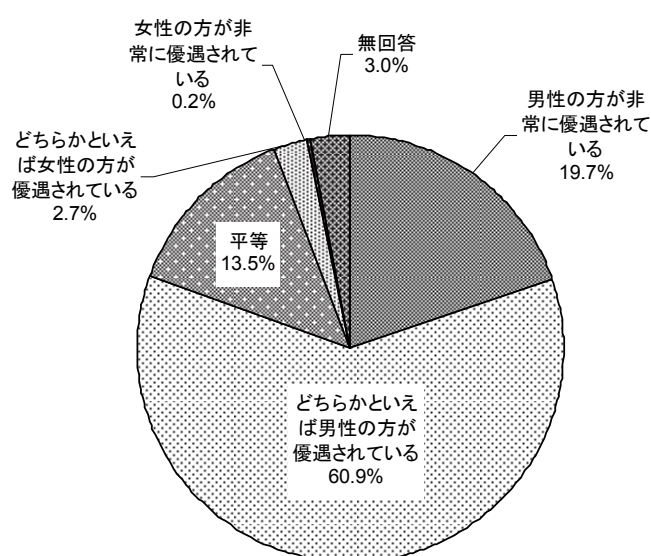
図表Ⅱ-17 「法律や制度の上で」の男女平等意識（性別・年代別）

	合計	男性の方が優遇			平等	女性の方が優遇			無回答	
		非常に	いど えち ばら かと			非常に	いど えち ばら かと			
全体	892	46.4	9.9	36.5	41.1	7.2	0.9	6.3	5.3	
男性	計	389	30.1	4.1	26.0	54.5	11.9	2.1	9.8	3.6
	20歳代	32	34.4	6.3	28.1	37.5	28.1	3.1	25.0	-
	30歳代	48	20.9	4.2	16.7	47.9	29.2	6.3	22.9	2.1
	40歳代	43	41.9	7.0	34.9	44.2	11.6	2.3	9.3	2.3
	50歳代	52	30.8	5.8	25.0	48.1	19.2	1.9	17.3	1.9
	60歳代	86	30.2	3.5	26.7	59.3	5.8	2.3	3.5	4.7
70歳代以上	128	28.1	2.3	25.8	64.1	2.3	-	2.3	5.5	
女性	計	503	59.0	14.3	44.7	30.8	3.6	-	3.6	6.6
	20歳代	26	46.2	7.7	38.5	46.2	3.8	-	3.8	3.8
	30歳代	83	61.5	16.9	44.6	30.1	6.0	-	6.0	2.4
	40歳代	91	68.1	13.2	54.9	25.3	4.4	-	4.4	2.2
	50歳代	72	55.6	13.9	41.7	36.1	2.8	-	2.8	5.6
	60歳代	124	62.1	16.1	46.0	24.2	2.4	-	2.4	11.3
70歳代以上	107	51.4	13.1	38.3	36.4	2.8	-	2.8	9.3	

⑥社会通念・慣習・しきたり等において

社会通念・慣習・しきたり等では「男性の方が優遇されている(非常に優遇されている(19.7%) + どちらかといえば優遇されている(60.9%))」が80.6%と高く、「女性の方が優遇されている(非常に優遇されている(2.7%) + どちらかといえば優遇されている(0.2%))」の2.9%を大幅に上回っている。一方、「平等」は13.5%となっている。

図表Ⅱ-18 社会通念・慣習・しきたり等において



項目		回答数(件)	構成比(%)
男性の方が優遇	計	719	80.6
	非常に	176	19.7
	どちらかといえば	543	60.9
平等		120	13.5
女性の方が優遇	計	26	2.9
	非常に	2	0.2
	どちらかといえば	24	2.7
無回答		27	3.0
サンプル数		892	100.0

社会通念・慣習・しきたりにおける男女平等意識について性別をみると、「男性の方が優遇されている(同)」と感じている人の割合が男女ともに最も高く、男性は76.6%、女性は83.7%となっている。

性別・年代別にみると、男性は40歳代以上で「男性の方が優遇されている(同)」が80%前後であるが、20歳代、30歳代では50%台と低くなっている。

女性はどの年代でも「男性の方が優遇されている(同)」が70%を超えている。

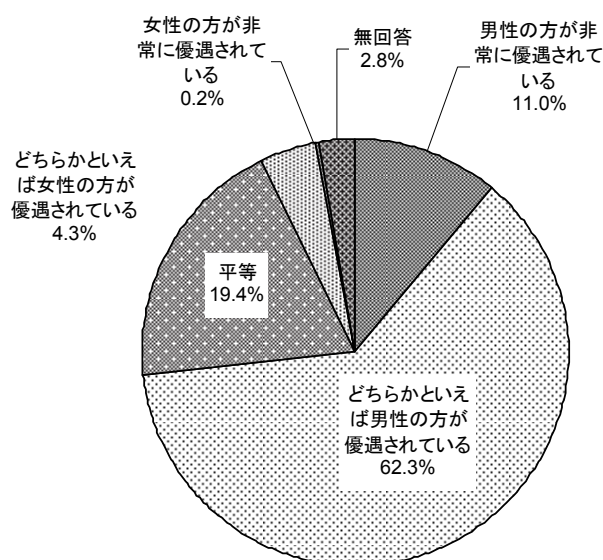
図表Ⅱ-19 「社会通念・慣習・しきたり等において」の男女平等意識（性別・年代別）

	合計	男性の方が優遇			平等	女性の方が優遇			無回答	
		非常に	いどちら ばらかと			非常に	いどちら ばらかと			
全体	892	80.6	19.7	60.9	13.5	2.9	0.2	2.7	3.0	
男性	計	389	76.6	12.1	64.5	15.7	5.4	0.5	4.9	2.3
	20歳代	32	56.3	12.5	43.8	21.9	21.9	6.3	15.6	-
	30歳代	48	54.2	10.4	43.8	27.1	16.7	-	16.7	2.1
	40歳代	43	86.0	20.9	65.1	11.6	2.3	-	2.3	-
	50歳代	52	80.8	13.5	67.3	9.6	7.7	-	7.7	1.9
	60歳代	86	87.2	11.6	75.6	10.5	1.2	-	1.2	1.2
	70歳代以上	128	78.2	9.4	68.8	17.2	-	-	-	4.7
女性	計	503	83.7	25.6	58.1	11.7	1.0	-	1.0	3.6
	20歳代	26	73.1	15.4	57.7	23.1	-	-	-	3.8
	30歳代	83	83.1	26.5	56.6	13.3	2.4	-	2.4	1.2
	40歳代	91	86.8	28.6	58.2	13.2	-	-	-	-
	50歳代	72	88.9	25.0	63.9	9.7	-	-	-	1.4
	60歳代	124	87.9	26.6	61.3	5.6	1.6	-	1.6	4.8
	70歳代以上	107	75.7	24.3	51.4	15.0	0.9	-	0.9	8.4

⑦社会全体として

社会全体の男女平等意識では、「男性の方が優遇されている(非常に優遇されている(11.0%) + どちらかといえば優遇されている(62.3%))」が73.3%と高く、「女性の方が優遇されている(非常に優遇されている(0.2%) + どちらかといえば優遇されている(4.3%))」の4.5%を大幅に上回っている。一方、「平等」は19.4%となっている。

図表Ⅱ-20 社会全体として



項目	回答数(件)	構成比(%)
男性 されの て方が 優遇	計	654 73.3
	非常に	98 11.0
	どちらかといえば	556 62.3
平等	173 19.4	
女性 されの て方が 優遇	計	40 4.5
	非常に	2 0.2
	どちらかといえば	38 4.3
無回答	25 2.8	
サンプル数	892 100.0	

社会全体における男女平等意識を性別にみると、「男性の方が優遇されている(同)」と感じている人の割合が男女とも最も高く、男性は63.5%、女性は80.9%で、女性が17ポイント以上高くなっている。

性別・年代別にみると男性は40歳代以上で「男性の方が優遇されている(同)」と感じている人の割合は60%前後だが、20歳代と30歳代では半数を下回っている。「平等」と感じている人の割合では20歳代(40.6%)と30歳代(31.3%)が他の年代に比べて高くなっている。女性は20歳代を除いた年代で「男性の方が優遇されている(同)」が70%を超え、特に50歳代では90%を超えている。

図表Ⅱ-21 「社会全体として」の男女平等意識（性別・年代別）

	合計	男性			平等	女性			無回答	
		男性の方が優遇	非常に	いどちらか		女性の方が優遇	非常に	いどちらか		
全体	892	73.3	11.0	62.3	19.4	4.5	0.2	4.3	2.8	
男性	計	389	63.5	4.9	58.6	27.2	6.9	0.5	6.4	2.3
	20歳代	32	43.8	-	43.8	40.6	15.6	3.1	12.5	-
	30歳代	48	47.9	8.3	39.6	31.3	18.8	2.1	16.7	2.1
	40歳代	43	72.1	9.3	62.8	23.3	4.7	-	4.7	-
	50歳代	52	59.6	1.9	57.7	26.9	11.5	-	11.5	1.9
	60歳代	86	71.0	4.7	66.3	23.3	4.7	-	4.7	1.2
	70歳代以上	128	68.0	4.7	63.3	26.6	0.8	-	0.8	4.7
女性	計	503	80.9	15.7	65.2	13.3	2.6	-	2.6	3.2
	20歳代	26	53.8	3.8	50.0	26.9	11.5	-	11.5	7.7
	30歳代	83	77.1	15.7	61.4	16.9	4.8	-	4.8	1.2
	40歳代	91	83.5	19.8	63.7	14.3	2.2	-	2.2	-
	50歳代	72	90.3	11.1	79.2	9.7	-	-	-	-
	60歳代	124	84.6	16.1	68.5	8.9	2.4	-	2.4	4.0
	70歳代以上	107	77.6	17.8	59.8	14.0	0.9	-	0.9	7.5

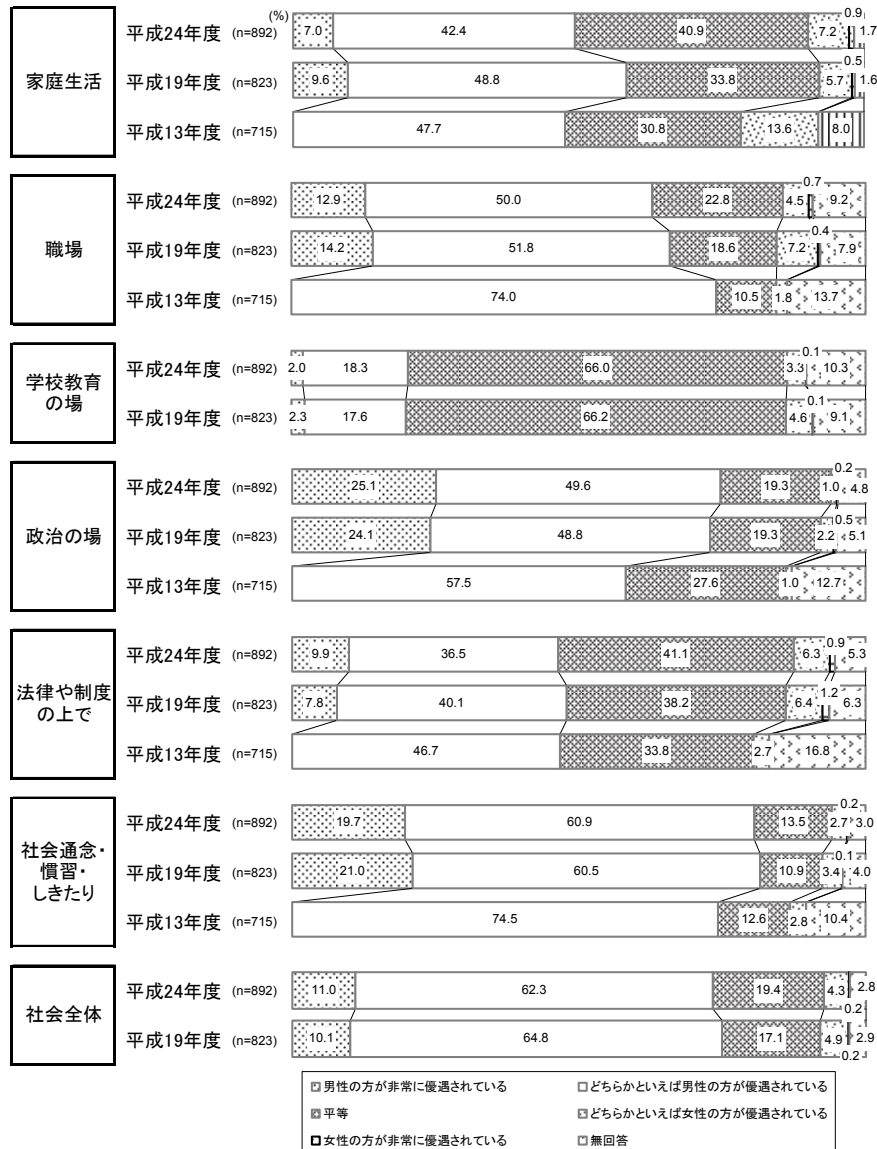
(2) 男女の平等意識の時系列比較

過去2回の調査の中で、一定の変化をしてきたのは「職場」の意識で、「男性の方が優遇されている(同)」が減少傾向(平成24年度:62.9%、平成19年度:66.0%、平成13年度:74.0%)にある。

また、「家庭生活」「法律や制度の上で」では、「平等」と感じている割合は増加している。

一方、「政治の場」や「社会通念・慣習・しきたり」では「男性の方が優遇されている(同)」が高く、「平等」が低くなっている。

図表Ⅱ-22 男女の平等意識の推移



※1 平成13年度調査の質問では質問文、選択肢共にワーディングが次のように19年度、24年度と異なっている。

(13年度調査の質問)： 問1 あなたは、今の世の中、次のような項目で男女は平等になっていると思いますか。(1~6の各項目について1つずつ選んで○をつけてください。) 選択肢 (男性が優位、女性が優位、平等である、わからない)

※2 13年度のデータは、グラフでは「男性が優位」を「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の項目に、「女性が優位」を「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の項目に、「わからない」は「無回答」に含めて表示している。

※3 13年度調査では「学校教育の場」「社会全体」に関する質問はない。

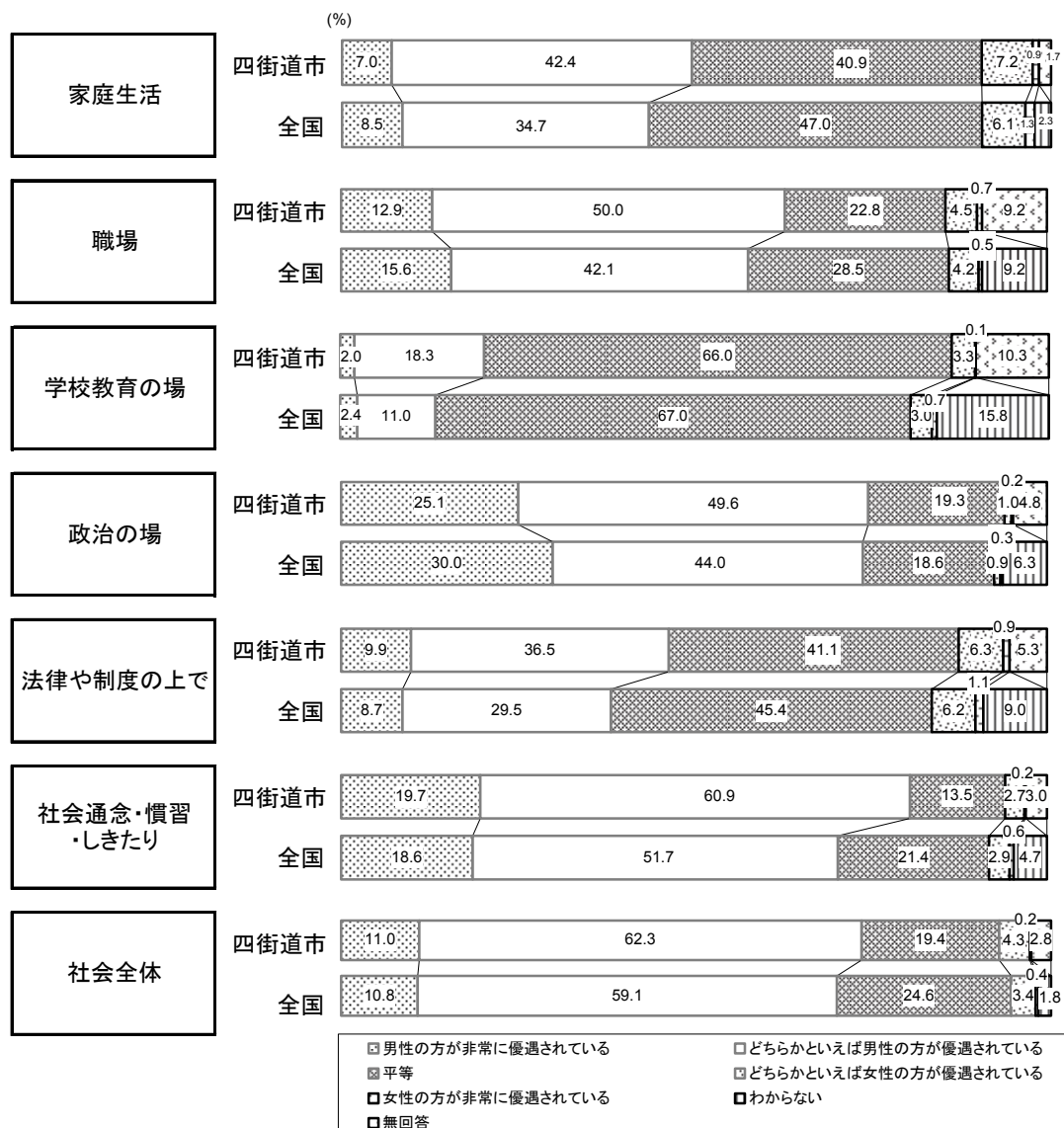
(3) 男女の平等意識の全国(内閣府調査(平成24年度))との比較

内閣府調査(平成24年度)は面接調査のため無回答はなく、「わからない」と回答されており、完全に同一な調査とはいえないが、同じ項目を聞いているので、比較を行った。

全ての分野で、四街道市は内閣府調査(平成24年度)に比べ「男性の方が優遇されている(同)」が高く、「平等」が低くなっている。

「学校教育の場」の「平等」意識は四街道市、内閣府調査(平成24年度)共に60%以上と高くなっている。

図表Ⅱ-23 内閣府調査(平成24年度)との比較



※ 全国は内閣府世論調査「男女共同参画社会に関する世論調査」平成24年10月実施のもの。全体の母数はN=3,033。

(4) 男は仕事、女は家庭の考え方

問2.あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どう思いますか。1つ選んで○をつけてください。(1つ選択)

要旨

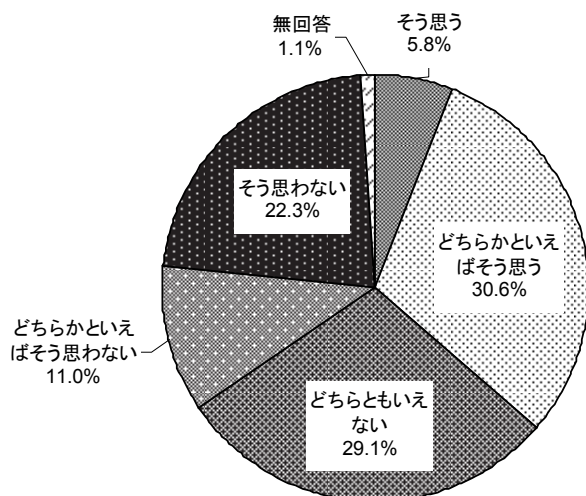
「男は仕事、女は家庭」というように、性別によって行動を分ける慣習や考え方(性別役割分業)に肯定的(そう思う+どちらかといえばそう思う)な人の割合は男性が高く、否定的(そう思わない+どちらかといえばそう思わない)な人の割合は女性の方が高くなっている。

性別役割分業に肯定的(同)な人は男女共に60歳代、70歳代以上が比較的高くなっている。

「男は仕事、女は家庭」という考え方は、前回調査(平成19年度)に比べて「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「そう思わない」が微減し、「どちらともいえない」と「どちらかといえばそう思わない」は微増している。

「男は仕事、女は家庭」という考え方の「そう思う(そう思う+どちらかといえばそう思う)」は36.4%で、「そう思わない(そう思わない+どちらかといえばそう思わない)」の33.3%をやや上回っている。「どちらともいえない」と感じている人の割合は29.1%となっている。

図表Ⅱ-24 「男は仕事、女は家庭」という考え方について



項目	回答数(件)	構成比(%)
そう思う	52	5.8
どちらかといえばそう思う	273	30.6
どちらともいえない	260	29.1
どちらかといえばそう思わない	98	11.0
そう思わない	199	22.3
無回答	10	1.1
サンプル数	892	100.0

「男は仕事、女は家庭」という考え方は、性別で見ると、男性は「そう思う(そう思う(8.0%) + どちらかといえばそう思う(37.5%))」と感じている人の割合が45.5%で、「そう思わない(そう思わない(18.5%) + どちらかといえばそう思わない(8.2%))」の26.7%を上回っている。

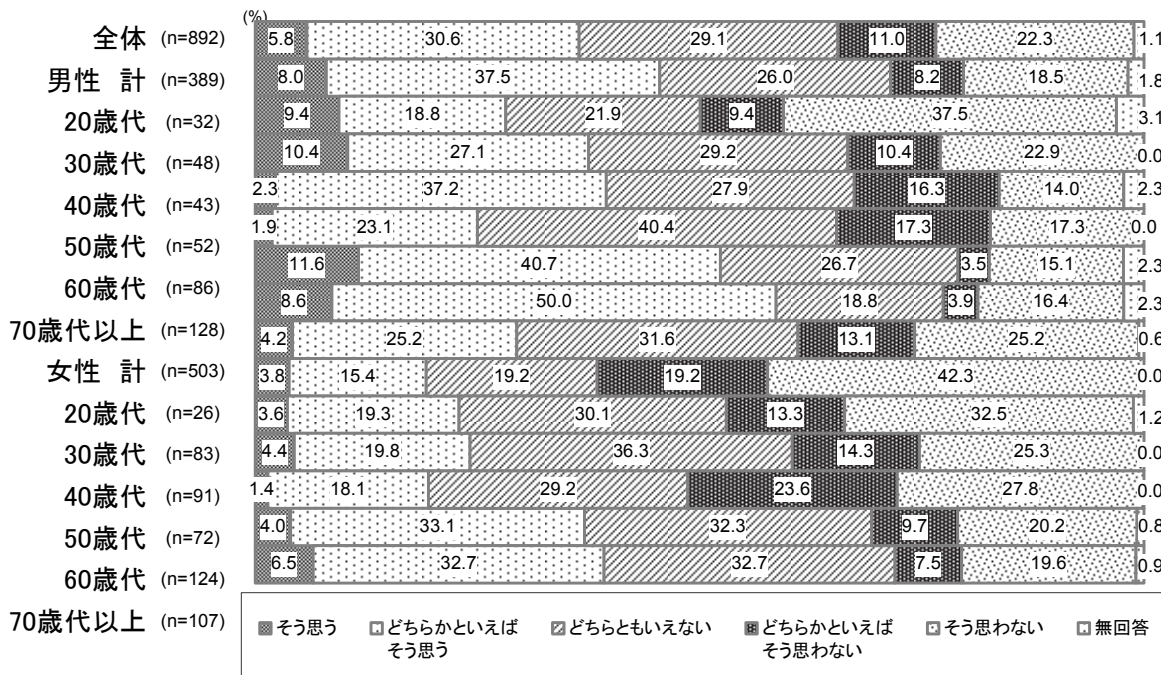
女性は「そう思う(同)」が29.4%で、「そう思わない(同)」の38.3%を下回っている。

性別・年代別で見ると、男性のうち60歳代と70歳代以上は「そう思う(同)」が比較的高く、50歳代は「どちらともいえない」が高くなっている。

女性のうち60歳代と70歳代以上は「そう思う(同)」が30%以上で他の年代に比べ、高くなっている。

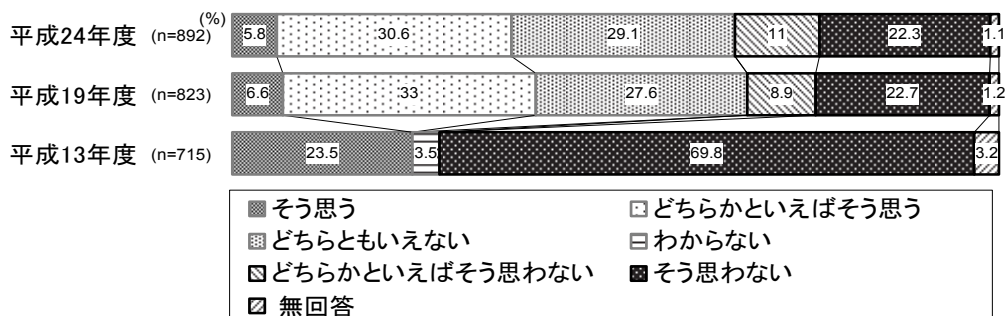
「そう思わない(同)」と感じている人の割合は20歳代(61.5%)、50歳代(51.4%)で高くなっている。

図表Ⅱ-25 「男は仕事、女は家庭」という考え方(性別・年代別)



「男は仕事、女は家庭」という考え方では、前回調査(平成19年度)に比べ「そう思う(同)」が3.2ポイント低く、「どちらともいえない」と「そう思わない(同)」がそれぞれ1.7ポイント高くなっている。

図表Ⅱ-26 「男は仕事、女は家庭」という考え方の推移



※前々回調査(平成13年度)は質問文、選択肢が異なり単純な比較はできない。質問文と、項目、選択肢は下記のとおり。

問2 あなたは、男性と女性の役割分担のあり方について、どう思いますか。(1~4の各項目について、1つずつ選んで○をつけてください。)

項目1 「男は仕事、女は家庭」だと思う

選択肢 そう思う、そう思わない、わからない

(5) 男は仕事、女は家庭の考え方の全国(内閣府調査(平成24年度))との比較

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、内閣府調査(平成24年度)に類似質問があり、比較を行った。ただし、調査方法、質問文、選択肢が異なるため、単純な比較はできない。

「男は仕事、女は家庭」に賛成する回答、反対する回答共に四街道市調査が全国調査を下回っている。

図表Ⅱ-27 「男は仕事、女は家庭」という考え方の内閣府調査(平成24年度)との比較

問2.あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どう思いますか。1つ選んで○をつけてください。

	合計	そう思う (小計)	そう思う	どちらかといえば そう思う	そう思わない (小計)	どちらか い え ば そ う 思 わ な い	そう思わ ない	どちらとも い え な い	無回答
四街道市	892	36.4	5.8	30.6	33.3	11.0	22.3	29.1	1.1

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について

	合計	賛成 (小計)	賛成	どちらか と い え ば 賛 成	反対 (小計)	どちらか と い え ば 反 対	反対	わから な い
全国	3,033	51.6	12.9	38.7	45.1	27.9	17.2	3.3

※ 全国は内閣府世論調査「男女共同参画社会に関する世論調査」平成24年10月実施のもの。全体の母数はN=3,033。質問文と選択肢は下記のとおり

Q7 家庭生活について、あなたの御意見をお伺いします。この中から1つだけお答えください。

夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである

- (ア) 賛成
- (イ) どちらかといえば賛成
- (ウ) どちらかといえば反対
- (エ) 反対
- わからない

3. 男女共同参画社会の実現について

(1) 男女共同参画社会実現に対する評価について

問3(1). 市の男女共同参画推進計画でめざしている「性別にかかわらず、だれもが個人として尊重され、個性を發揮できる社会」の実現について、どう思いますか。1つ選んで○をつけてください。(1つ選択)

要旨

男女共同参画社会の実現を「とても良いことだと思う」(58.4%)と「まあ良いことだと思う」(32.6%)の両者を合わせると91.0%と高く、実現への合意形成はできていると考えられる。

実現するために必要なことでは「子育てや介護中であっても仕事が続けられたり、いったん仕事を辞めても再就職ができる企業が増える」が最も高く、「男女ともに積極的に育児・介護に関わるようにする」「労働時間の短縮やフレックスタイム制、在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しが進む」が続いている。

「性別にかかわらず、だれもが個人として尊重され、個性を發揮できる社会」の実現を「とても良いことだと思う」と感じている人は58.4%と半数を超え、「まあ良いことだと思う」は32.6%であり、両者を合わせると、91.0%と非常に高くなっている。

「良いことだと思わない(まったく良いことだと思わない(0.6%)+あまり良いことだと思わない(1.3%))」と感じている人は約2%と低くなっている。

図表Ⅱ-28 男女共同参画社会実現に対する評価

項目	回答数(件)	構成比(%)
とても良いことだと思う	521	58.4
まあ良いことだと思う	291	32.6
どちらとも言えない	59	6.6
あまり良いことだと思わない	12	1.3
まったく良いことだと思わない	5	0.6
無回答	4	0.4
サンプル数	892	100.0

男女共同参画社会の実現を「良いことだと思う(とても良いことだと思う(58.4%)
+まあ良いことだと思う(32.6%))」と感じている人は性別で見ると男性は88.7%、
女性は92.8%で、また性別に関わらず、どの年代も8割を超え、性別・年代別共
に非常に高くなっている。

図表Ⅱ-29 男女共同参画社会実現に対する評価(性別・年代別)

	合 計	と と も 良 い こ と だ と 思 う	ま あ 良 い こ と だ と 思 う	ど ち ら と も 言 え な い	あ ま り 良 い こ と だ と 思 わ な い	ま っ た く 良 い こ と だ と 思 わ な い	無 回 答	
全体	892	58.4	32.6	6.6	1.3	0.6	0.4	
男性	計	389	56.3	32.4	8.5	2.1	0.8	-
	20歳代	32	59.4	34.4	3.1	-	3.1	-
	30歳代	48	43.8	43.8	8.3	2.1	2.1	-
	40歳代	43	62.8	32.6	4.7	-	-	-
	50歳代	52	51.9	32.7	13.5	1.9	-	-
	60歳代	86	53.5	32.6	10.5	3.5	-	-
	70歳代以上	128	61.7	27.3	7.8	2.3	0.8	-
女性	計	503	60.0	32.8	5.2	0.8	0.4	0.8
	20歳代	26	57.7	42.3	-	-	-	-
	30歳代	83	65.1	31.3	2.4	-	1.2	-
	40歳代	91	53.8	38.5	4.4	1.1	-	2.2
	50歳代	72	63.9	31.9	4.2	-	-	-
	60歳代	124	59.7	27.4	8.9	1.6	0.8	1.6
	70歳代以上	107	59.8	33.6	5.6	0.9	-	-

(2) 男女共同参画社会の実現に必要なこと

問3(2).(1)で「1. とても良いことだと思う」、「2. まあ良いことだと思う」、「3. どちらとも言えない」と回答した方にうかがいます。(それ以外の方は問4にお進みください。)男女共同参画社会を実現するためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(複数選択可)

要旨

男女共同参画社会の実現に必要なことでは、「子育てや介護中であっても仕事が続けられたり、いったん仕事を辞めても再就職ができる企業が増える」「男女ともに積極的に育児・介護に関わるようにする」「労働時間の短縮やフレックスタイム制、在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しが進む」が5割を超えている。性別・年代別では、「子育てや介護中であっても仕事が続けられたり、いったん仕事を辞めても再就職ができる企業が増える」が女性では、20歳代、30歳代は8割を超え、高くなっている。

男女共同参画社会を実現するために必要なことでは「子育てや介護中であっても仕事が続けられたり、いったん仕事を辞めても再就職ができる企業が増える」と感じている人が64.3%と最も高くなっている。次いで「男女ともに積極的に育児・介護に関わるようにする」が51.8%、「労働時間の短縮やフレックスタイム制、在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しが進む」が51.3%でこの三項目が半数を超えている。

図表Ⅱ-30 男女共同参画社会の実現に必要なこと

項目	回答数(件)	構成比(%)
子育てや介護中であっても仕事が続けられたり、いったん仕事を辞めても再就職ができる企業が増える	560	64.3
男女ともに積極的に育児・介護に関わるようにする	451	51.8
労働時間の短縮やフレックスタイム制、在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しが進む	447	51.3
男女ともに積極的に家事に関わるようにする	426	48.9
保育施設やサービス、高齢者・疾病の方の入所施設や介護サービスが充実する	411	47.2
男女ともに育児休業を取得する人が増える	386	44.3
議会議員や審議会等の委員等の政策・方針決定過程に参画する女性の割合や企業や団体等での管理・監督的業務に従事する者(部長・課長等)に占める女性の割合が上がる	382	43.9
男は仕事、女は家庭という性別による固定的な役割分担意識を持つ人が減る	364	41.8
法律や制度の面で見直しを行う	355	40.8
男女共同参画が良いことだと考える人たちが増える	325	37.3
女性や男性の生き方・悩みに関する相談の場や、男女の平等と相互の理解・協力についての学習機会が充実する	294	33.8
その他	22	2.5
わからない	17	2.0
無回答	45	5.2
サンプル数	871	100.0

男女共同参画社会を実現するために必要なことのうち全体の上位3項目を性別で見ると、「子育てや介護中であっても仕事が続けられたり、いったん仕事を辞めても再就職ができる企業が増える」は男性は57.4%、女性は69.6%、「男女ともに積極的に育児・介護に関わるようにする」は男性は41.3%、女性は59.8%、「労働時間の短縮やフレックスタイム制、在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しが進む」で男性は47.4%、女性は54.4%で、男性より女性が高くなっている。

一方、「男女共同参画が良いことだと考える人たちが増える」は男性は40.2%、女性は35.1%で、男性がやや高くなっている。

上位の三項目を中心に、女性の年代間では20歳代、30歳代の若い年代で比較的高くなっている。

図表Ⅱ-31 男女共同参画社会の実現に必要なこと(性別・年代別)

		合計	子育てや介護中であっても再就職ができる企業が増える	男女ともに積極的に育児・介護に関わるようにする	労働時間の短縮やフレックスタイム制、在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しが進む	男女ともに積極的に家事に関わるようにする	保育施設やサービス、高齢者・疾病の方の入所施設や介護サービスが充実する	男女ともに育児休業を取得する人が増える	議会議員や審議会等の委員等の政策・方針決定過程に参加する者(部長・課長等)に占める女性の割合が上がる	意識を持つ人が減る	法律や制度の面で見直しを行う	男女共同参画が良いことだと考える人たちが増える	女性や男性の生き方・悩みに関する相談の場や、男女の平等と相互の理解・協力についての学習機会が充実する	その他	わからない	無回答
	全体	871	64.3	51.8	51.3	48.9	47.2	44.3	43.9	41.8	40.8	37.3	33.8	2.5	2.0	5.2
男性	計	378	57.4	41.3	47.4	42.6	41.3	41.3	40.2	35.7	38.1	40.2	33.1	3.2	1.1	9.3
	20歳代	31	54.8	48.4	48.4	51.6	38.7	58.1	19.4	16.1	35.5	22.6	38.7	-	-	3.2
	30歳代	46	58.7	52.2	65.2	47.8	45.7	50.0	28.3	32.6	34.8	26.1	30.4	4.3	2.2	8.7
	40歳代	43	67.4	39.5	53.5	48.8	48.8	53.5	41.9	41.9	48.8	37.2	34.9	4.7	-	4.7
	50歳代	51	58.8	37.3	49.0	37.3	47.1	39.2	35.3	25.5	41.2	39.2	23.5	5.9	-	13.7
	60歳代	83	55.4	45.8	42.2	47.0	39.8	32.5	45.8	36.1	30.1	39.8	39.8	3.6	-	12.0
	70歳代以上	124	54.8	34.7	41.1	35.5	36.3	36.3	47.6	43.5	40.3	51.6	31.5	1.6	2.4	8.9
女性	計	493	69.6	59.8	54.4	53.8	51.7	46.7	46.7	46.5	42.8	35.1	34.3	2.0	2.6	2.0
	20歳代	26	84.6	73.1	69.2	69.2	34.6	76.9	38.5	46.2	34.6	30.8	34.6	-	7.7	-
	30歳代	82	84.1	67.1	75.6	65.9	62.2	57.3	53.7	45.1	40.2	25.6	30.5	3.7	2.4	-
	40歳代	88	68.2	62.5	62.5	64.8	51.1	50.0	40.9	46.6	40.9	23.9	34.1	-	-	1.1
	50歳代	72	62.5	58.3	44.4	45.8	52.8	41.7	40.3	38.9	45.8	37.5	26.4	1.4	-	4.2
	60歳代	119	63.9	58.0	44.5	46.2	46.2	35.3	52.9	51.3	44.5	40.3	34.5	1.7	1.7	2.5
	70歳代以上	106	67.0	51.9	45.3	45.3	53.8	44.3	45.3	47.2	44.3	45.3	42.5	3.8	6.6	2.8

4. ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)について

(1)ワーク・ライフ・バランスの認知

問4 あなたは、「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を知っていますか。1つ選んで○をつけてください。

要 旨

ワーク・ライフ・バランスという言葉の内容理解率は19.3%、知名率は35.7%で、合計した認知率は55.0%であり、過半数がこの言葉を聞いたことがある。

性別にみると、男性は内容理解率が女性よりも高く、性別・年代別では、男女共、50歳代以上の年代の認知率は、40歳代以下の年代よりも高くなっている。

ワーク・ライフ・バランスという言葉の内容理解（言葉も内容も知っている）は19.3%、知名（言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない）は35.7%。合計した認知率は55.0%となっている。

図表Ⅱ-32 ワーク・ライフ・バランスの認知

項目	回答数(件)	構成比(%)
言葉も内容も知っている (内容理解)	172	19.3
言葉は聞いたことがあるが、 内容までは知らない (知名)	318	35.7
言葉も内容も知らない	358	40.1
無回答	44	4.9
サンプル数	892	100.0

ワーク・ライフ・バランスという言葉の内容理解(同)は男性(25.4%)が女性(14.5%)よりも高くなっている。ただし知名(同)では男女共(男性35.5%、女性35.8%)ほとんど変わらない。

内容理解と知名を合計した認知率は、男性50歳代以上では6割を超え、女性は、知名率が50歳代、60歳代は比較的高く、半数を超えている。

図表Ⅱ-33 ワーク・ライフ・バランスの認知（性別・年代別）

	合計	言葉も内容も知っている (内容理解)	言葉は聞いたことがあ るが、内容は知らない (知名)	言葉も内容も知らない	無回答	
全体	892	19.3	35.7	40.1	4.9	
男性	計	389	25.4	35.5	35.0	4.1
	20歳代	32	31.3	21.9	43.8	3.1
	30歳代	48	25.0	20.8	50.0	4.2
	40歳代	43	23.3	34.9	39.5	2.3
	50歳代	52	40.4	28.8	30.8	-
	60歳代	86	26.7	38.4	30.2	4.7
	70歳代以上	128	18.0	45.3	30.5	6.3
女性	計	503	14.5	35.8	44.1	5.6
	20歳代	26	23.1	23.1	53.8	-
	30歳代	83	12.0	32.5	54.2	1.2
	40歳代	91	15.4	29.7	54.9	-
	50歳代	72	15.3	41.7	31.9	11.1
	60歳代	124	12.1	43.5	35.5	8.9
	70歳代以上	107	15.9	33.6	43.0	7.5

(2)「仕事」と「家庭生活」や「地域活動」への関わり方

問5(1) あなたの現在の「仕事」と、「家庭生活」や「町内会・ボランティア等の地域活動」への関わり方は1～5のうちどれにあてはまりますか。1つ選んで○をつけてください。

要旨

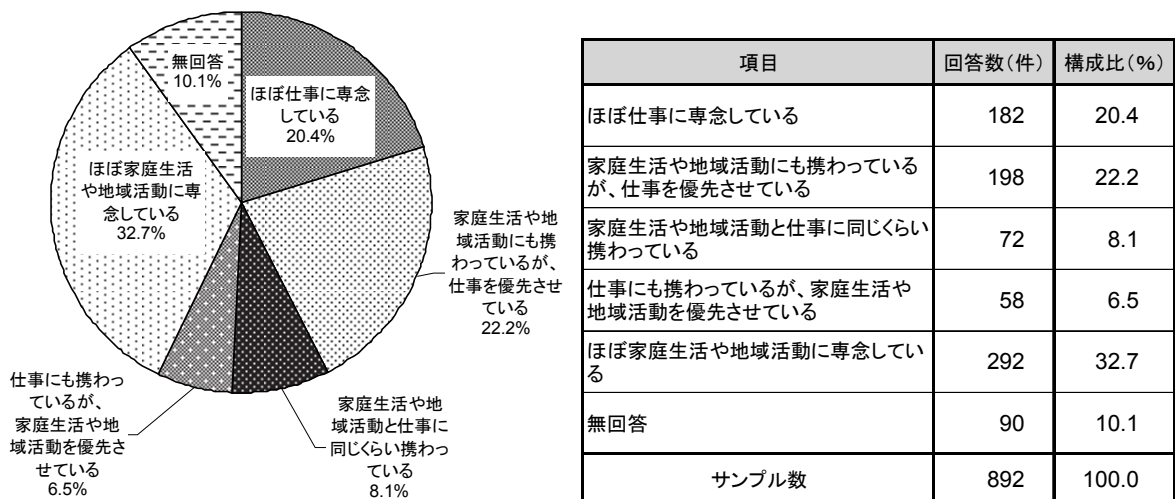
現在の「仕事」と「家庭生活」「町内会・ボランティア等の地域活動」のうち、「ほぼ家庭生活や地域活動に専念している」(32.7%)が3割強と最も高く、「家庭生活や地域活動にも携わっているが、仕事を優先させている」(22.2%)、「ほぼ仕事に専念している」(20.4%)が2割強と続いている。

男性は、「ほぼ仕事に専念している」(31.1%)と「家庭生活や地域活動にも携わっているが、仕事を優先させている」(28.0%)の両者を合わせると約6割と高く、また年代別でも、50歳代より若い層は8割以上となっている。

女性は、「ほぼ家庭生活や地域活動に専念している」(40.0%)と「仕事にも携わっているが、家庭生活や地域活動を優先させている」(9.3%)の両者を合わせると約5割で、男性よりも23.1ポイント高くなっている。

「仕事」「家庭生活」「町内会・ボランティア等の地域活動」への関わり方は、「ほぼ仕事に専念している」は20.4%、「家庭生活や地域活動にも携わっているが、仕事を優先させている」は22.2%、「ほぼ家庭生活や地域活動に専念している」は32.7%で、全体の4分の3を占めている。

図表Ⅱ-34 「仕事」と「家庭生活」や「地域活動」への関わり方



性別で見ると、男性は「ほぼ仕事に専念している」は31.1%で最も高く、「家庭生活や地域活動にも携わっているが、仕事を優先させている」(28.0%)、「ほぼ家庭生活や地域活動に専念している」(23.4%)が高くなっている。「ほぼ仕事に専念している」と「家庭生活や地域活動にも携わっているが、仕事を優先させている」は女性よりも高くなっている。

女性は「ほぼ家庭生活や地域活動に専念している」は40.0%で最も高く、「家庭生活や地域活動にも携わっているが、仕事を優先させている」(17.7%)「ほぼ仕事に専念している」(12.1%)が続いている。

特に「ほぼ家庭生活や地域活動に専念している」は男性よりも高くなっている。

性別・年代別で見ると、男性は、50歳代より若い年代では「ほぼ仕事に専念している」と「家庭生活や地域活動にも携わっているが、仕事を優先させている」の両者を合わせると80%以上となっている。女性は20歳代と40歳代を除く年代は「ほぼ家庭生活や地域活動に専念している」と「仕事に携わっているが、家庭生活や地域活動を優先させている」が40%以上と高くなっている。

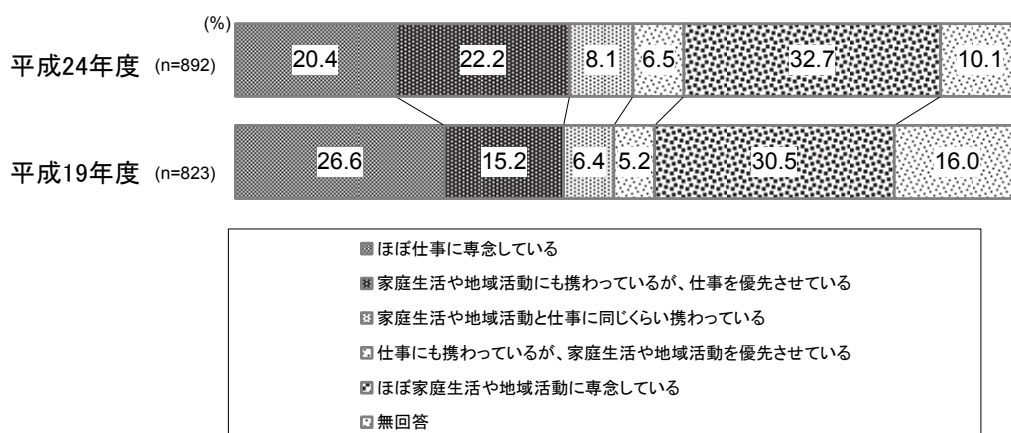
図表Ⅱ-35 「仕事」と「家庭生活」や「地域活動」への関わり方（性別・年代別）

	合計	ほぼ仕事に専念している	家庭生活や地域活動にも携わっているが、仕事を優先させている	同じくらい携わっているが、仕事に専念している	仕事にも携わっているが、家庭生活や地域活動を優先させている	ほぼ家庭生活や地域活動に専念している	無回答	
全体	892	20.4	22.2	8.1	6.5	32.7	10.1	
計	389	31.1	28.0	3.9	2.8	23.4	10.8	
男性	20歳代	32	65.6	15.6	3.1	3.1	6.3	6.3
	30歳代	48	52.1	41.7	-	-	4.2	2.1
	40歳代	43	55.8	32.6	-	2.3	9.3	-
	50歳代	52	36.5	51.9	5.8	1.9	-	3.8
	60歳代	86	20.9	38.4	2.3	3.5	30.2	4.7
	70歳代以上	128	10.9	7.8	7.0	3.9	44.5	25.8
計	503	12.1	17.7	11.3	9.3	40.0	9.5	
女性	20歳代	26	46.2	11.5	15.4	7.7	11.5	7.7
	30歳代	83	13.3	18.1	13.3	8.4	45.8	1.2
	40歳代	91	12.1	29.7	18.7	17.6	20.9	1.1
	50歳代	72	18.1	27.8	8.3	13.9	29.2	2.8
	60歳代	124	6.5	16.9	10.5	7.3	47.6	11.3
	70歳代以上	107	5.6	2.8	5.6	2.8	57.0	26.2

(3)「仕事」と「家庭生活」や「地域活動」への関わり方の時系列比較

前回調査（平成19年度）に比べて、「家庭生活や地域活動にも携わっているが、仕事を優先させている」は7ポイント、「ほぼ家庭生活や地域活動に専念している」は2.2ポイント上昇し、「ほぼ仕事に専念している」は6.2ポイント減少した。

図表Ⅱ-36 「仕事」と「家庭生活」や「地域活動」への関わり方の推移



(4)「仕事」と「家庭生活」や「地域活動」への関わり方の全国との比較

内閣府調査（平成24年度）に類似した質問があるので比較した。調査方法、質問形式、質問文、選択肢の全てが異なるため、類似選択肢を併置するに留めた。

図表Ⅱ-37 「仕事」と「家庭生活」や「地域活動」への関わり方の内閣府調査(平成24年度)との比較

四街道市		全国	
	構成比(%)		構成比(%)
ほぼ仕事に専念している	20.4	(ア)「仕事」を優先している	26.1
家庭生活や地域活動にも携わっているが、仕事を優先させている	22.2		
家庭生活や地域活動と仕事に同じくらい携わっている	8.1	(エ)「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	21.1
		(オ)「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	3.7
		(キ)「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	5.2
仕事にも携わっているが、家庭生活や地域活動を優先させている	6.5	(イ)「家庭生活」を優先している	32.8
ほぼ家庭生活や地域活動に専念している	32.7	(ウ)「地域・個人の生活」を優先している	2.7
		(カ)「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	6.8
無回答	10.1	わからない	1.6
サンプル合計	100.0	サンプル合計	100.0

※ 全国は内閣府世論調査「男女共同参画社会に関する世論調査」平成24年10月実施のもの。全体の母数はN=3,033。質問文と選択肢は下記のとおり

Q8 生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」(地域活動・学習・趣味・付き合い等)の優先度についてお伺いします。

(2) それでは、あなたの現実(現状)に最も近いものをこの中から1つだけお答えください。

- (ア)「仕事」を優先している
- (イ)「家庭生活」を優先している
- (ウ)「地域・個人の生活」を優先している
- (エ)「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
- (オ)「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- (カ)「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- (キ)「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- わからない

(5)「家庭生活」のための時間

問5(2) あなたは、「家庭生活」のための時間は十分取れていると思いますか。1つ選んで○をつけてください。

要旨

家庭生活のための時間が「十分取れている」(34.9%)と「まあ取れている」(41.1%)の合計は7割を超え、性別に見ても男性7割、女性8割が取れていると感じている。年代別では男性の50歳代より若い年代では、5割程度しか「取れている(十分取れている+まあ取れている)」と感じていない。

家庭生活のための時間が「十分取れている」は34.9%、「まあ取れている」は41.1%で、両者を合わせると76.0%と4人のうち3人は時間を取れていると感じている。

「全く取れていない」は2.4%、「あまり取れていない」は17.4%で両者を合計すると19.7%が取れていないと感じている。

図表Ⅱ-38 「家庭生活」のための時間

項目	回答数(件)	構成比(%)
十分取れている	311	34.9
まあ取れている	367	41.1
あまり取れていない	155	17.4
全く取れていない	21	2.4
わからない	24	2.7
無回答	14	1.6
サンプル数	892	100.0

家庭生活のための時間において、男性は「十分取れている」が29.3%、「まあ取れている」は40.6%で、両者を合わせると69.9%となっている。

女性では、「十分取れている」は39.2%、「まあ取れている」は41.6%で、両者を合わせると80.8%となり、男性より10.9ポイント高くなっている。

また、男性は「あまり取れていない」が21.3%、「全く取れていない」が4.6%、両者を合わせると25.9%で、女性と比べ11ポイント高くなっている。特に50歳代より若い年代では40%以上が取れていないと感じている。

図表Ⅱ-39 「家庭生活」のための時間（性別・年代別）

	合計	十分取れている	まあ取れている	あまり取れていない	全く取れていない	わからない	無回答	
全体	892	34.9	41.1	17.4	2.4	2.7	1.6	
男性	計	389	29.3	40.6	21.3	4.6	2.3	1.8
	20歳代	32	28.1	18.8	28.1	12.5	9.4	3.1
	30歳代	48	8.3	41.7	41.7	6.3	2.1	-
	40歳代	43	11.6	39.5	39.5	9.3	-	-
	50歳代	52	15.4	34.6	42.3	5.8	1.9	-
	60歳代	86	31.4	52.3	8.1	3.5	2.3	2.3
	70歳代以上	128	47.7	40.6	6.3	0.8	1.6	3.1
女性	計	503	39.2	41.6	14.3	0.6	3.0	1.4
	20歳代	26	19.2	38.5	23.1	-	19.2	-
	30歳代	83	38.6	38.6	20.5	-	2.4	-
	40歳代	91	24.2	50.5	19.8	3.3	2.2	-
	50歳代	72	31.9	40.3	26.4	-	1.4	-
	60歳代	124	46.8	46.0	5.6	-	0.8	0.8
	70歳代以上	107	53.3	32.7	4.7	-	3.7	5.6

(6)働きやすい環境づくり

問6 あなたが、男性ならば男性にとって、女性ならば女性にとって働きやすい環境づくりには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください

要旨

働きやすい環境として、「働く場が多い」「安心して結婚、出産ができる」「育児休業、介護休業が取りやすい」などが半数より高くなっている。

男性は「能力発揮の場」「経営者・管理職の意識の変化」が高く、女性は「安心して結婚、出産ができる」「育児休業、介護休業が取りやすい」など出産や育児に関する項目や「昇進・昇給等に男女の差別的取り扱いがない」「女性が働くことに対する家族や周囲の理解と協力」など平等な扱いや働くこと自体への理解に関する項目も高くなっている。

働きやすい環境として「働く場が多い」が60.7%で最も高く、次いで「安心して結婚、出産ができる」54.3%、「育児休業、介護休業が取りやすい」52.5%、「育児休業制度、介護休業制度の充実」51.8%、「結婚、育児、介護のために退職した職員の再雇用制度の充実」50.9%と続いている。

図表Ⅱ-40 働きやすい環境づくり

項目	回答数(件)	構成比(%)
働く場が多い	541	60.7
安心して結婚、出産ができる	484	54.3
育児休業・介護休業が取りやすい	468	52.5
育児休業制度・介護休業制度の充実	462	51.8
結婚、育児、介護のために退職した職員の再雇用制度の充実	454	50.9
昇進・昇給等に男女の差別的取り扱いがない	419	47.0
育児施設等の整備	416	46.6
能力発揮の場が多い	400	44.8
時間外労働の縮減	398	44.6
経営者・管理職の意識の変化	382	42.8
女性が働くことに対する家族や周囲の理解と協力	379	42.5
育児休業・介護休業中の賃金等の充実	354	39.7
介護施設等の整備	328	36.8
男性が家事・育児をすることに対する家族や周囲の理解と協力	311	34.9
非正規雇用者の待遇改善	309	34.6
フレックスタイム制や在宅勤務等の普及	308	34.5
男性の意識の変化	305	34.2
女性自身の自覚・意欲・能力の向上	290	32.5
男は仕事、女は家庭という性別による固定的な役割分担意識を持つ人が減る	279	31.3
その他	16	1.8
特にない	8	0.9
わからない	12	1.3
無回答	18	2.0
サンプル数	892	100.0

男性は「能力発揮の場」(53.0%)「経営者・管理職の意識の変化」(47.3%)などが女性よりも高く、自分自身の仕事のやりがいや人間関係に関する項目で高くなっている。

女性は「安心して結婚、出産ができる」(63.0%)「育児休業、介護休業が取りやすい」(63.2%)など出産や育児に関する項目が高い。また「昇進・昇給等に男女の差別的取り扱いがない」「女性が働くことに対する家族や周囲の理解と協力」など女性が働くことへの平等な扱いや理解に関する項目も高くなっている。

図表Ⅱ-41 働きやすい環境づくり (性別・年代別)

	合計	働く場が多い	安心して結婚、出産ができる	育児休業・介護休業が取りやすい	育児休業制度・介護休業制度の充実	結婚した職員、育児の再雇用のために退職した職員に再雇用制度の充実に退	昇進・昇給等に男女の差別的取り扱いがない	育児施設等の整備	能力発揮の場が多い	時間外労働の縮減	経営者・管理職の意識の変化	女性が働くことに対する家族や周囲の理解と協力	
		等育児休業・介護休業中の賃金	介護施設等の整備	協力する家事・育児の理解と	男性が家事・育児をする理解と	非正規雇用者の待遇改善	フレックスタイム制や在宅勤務等の普及	男性の意識の変化	女性の自身の自覚・意欲・能力の向上	男性は仕事、女性は家庭と役割分担意識を持つ人が減る	その他	特にな	わからない
全体	892	60.7	54.3	52.5	51.8	50.9	47.0	46.6	44.8	44.6	42.8	42.5	
計	389	63.5	42.9	38.6	40.6	42.2	40.1	37.5	53.0	46.0	47.3	30.3	
男性													
20歳代	32	43.8	56.3	40.6	21.9	25.0	37.5	28.1	43.8	43.8	40.6	21.9	
30歳代	48	47.9	33.3	47.9	43.8	39.6	31.3	45.8	50.0	58.3	54.2	22.9	
40歳代	43	76.7	48.8	53.5	46.5	44.2	51.2	41.9	51.2	53.5	46.5	46.5	
50歳代	52	55.8	36.5	28.8	30.8	44.2	30.8	30.8	50.0	50.0	50.0	25.0	
60歳代	86	70.9	40.7	32.6	45.3	37.2	34.9	37.2	55.8	48.8	51.2	29.1	
70歳代以上	128	68.0	45.3	37.5	43.0	49.2	47.7	38.3	56.3	35.9	43.0	32.8	
女性													
計	503	58.4	63.0	63.2	60.4	57.7	52.3	53.7	38.6	43.5	39.4	51.9	
20歳代	26	69.2	80.8	73.1	80.8	73.1	61.5	65.4	34.6	53.8	53.8	53.8	
30歳代	83	51.8	75.9	77.1	66.3	74.7	59.0	80.7	27.7	49.4	42.2	57.8	
40歳代	91	61.5	68.1	73.6	62.6	47.3	53.8	49.5	36.3	50.5	39.6	60.4	
50歳代	72	63.9	65.3	63.9	54.2	52.8	47.2	45.8	41.7	38.9	33.3	41.7	
60歳代	124	58.1	51.6	54.0	60.5	50.8	49.2	50.8	39.5	39.5	35.5	45.2	
70歳代以上	107	55.1	56.1	51.4	53.3	60.7	50.5	42.1	46.7	38.3	42.1	54.2	
全体	892	39.7	36.8	34.9	34.6	34.5	34.2	32.5	31.3	1.8	0.9	1.3	2.0
計	389	32.9	33.9	30.1	30.8	31.9	32.9	26.2	25.7	3.1	1.5	1.5	1.3
男性													
20歳代	32	15.6	6.3	31.3	21.9	18.8	21.9	9.4	6.3	3.1	-	-	-
30歳代	48	35.4	27.1	25.0	29.2	33.3	16.7	18.8	14.6	10.4	-	2.1	-
40歳代	43	44.2	25.6	39.5	14.0	53.5	39.5	27.9	34.9	4.7	-	-	-
50歳代	52	28.8	32.7	32.7	28.8	28.8	25.0	15.4	13.5	1.9	1.9	1.9	-
60歳代	86	32.6	33.7	25.6	37.2	30.2	47.7	37.2	31.4	-	-	1.2	-
70歳代以上	128	34.4	46.9	30.5	35.9	29.7	32.8	29.7	32.8	2.3	3.9	2.3	3.9
女性													
計	503	44.9	39.0	38.6	37.6	36.6	35.2	37.4	35.6	0.8	0.4	1.2	2.6
20歳代	26	65.4	26.9	57.7	46.2	42.3	42.3	26.9	46.2	-	-	-	-
30歳代	83	54.2	25.3	59.0	30.1	55.4	36.1	28.9	38.6	2.4	-	-	-
40歳代	91	52.7	33.0	36.3	37.4	42.9	41.8	36.3	36.3	-	-	-	-
50歳代	72	34.7	48.6	30.6	29.2	30.6	36.1	30.6	26.4	1.4	-	-	2.8
60歳代	124	42.7	46.0	31.5	49.2	29.8	30.6	41.1	32.3	0.8	0.8	0.8	1.6
70歳代以上	107	35.5	43.0	33.6	33.6	27.1	31.8	47.7	40.2	-	0.9	4.7	8.4

(7)家事の分担

問7 現在、配偶者等パートナーと暮らしている方にうかがいます。

過去の経験を含めてお答えください。あなたの家庭では、①～⑩にあげるような家事等を、主にどなたがしていますか。(または、していましたか。)実態と理想について、それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。(女性から見て「夫」には配偶者以外の男性パートナーを、男性から見て「妻」には配偶者以外の女性パートナーを含むものとします。)

要 旨

家庭生活における家事の分担のうち「食事のしたく・あとかたづけ」「掃除・洗濯」「食料品・日用品等の買い物」「家計費の管理」「乳児・幼児の世話」「介護や看護を要する家族の世話」のようなその家庭の中だけで帰結するタイプの家事だけでなく、家庭の外とのコミュニケーションが求められるタイプの「子どもの学校の委員や行事等への参加」「自治会や地域活動への参加」「自治会や地域活動の役員、責任者」においても、実態は妻がその大部分を担っている。

男女共に実態として、妻が負担している事実を認めつつ、家事の理想では、「夫婦とも同じ程度」を求めている。特に女性は夫婦間の協力への期待の大きさを示すものと考えられる。

「自治会や地域活動への参加」の実態は、全体では「ほとんど妻」が最も高く、「夫婦とも同じ程度」「ほとんど夫」と続いている。理想では、「夫婦とも同じ程度」が全体、男女共に最も高く、お互いの負担を軽減させたい意思が現れている。

「不動産等高価な買い物」を除くほとんどの家事は実態も理想も妻が行うことが多いが、いずれも前回調査(平成19年度)よりも減少している。理想は「食事のしたく・あとかたづけ」「掃除・洗濯」「食料品・日用品等の買い物」で「夫婦ともに同じ程度」が増加した。

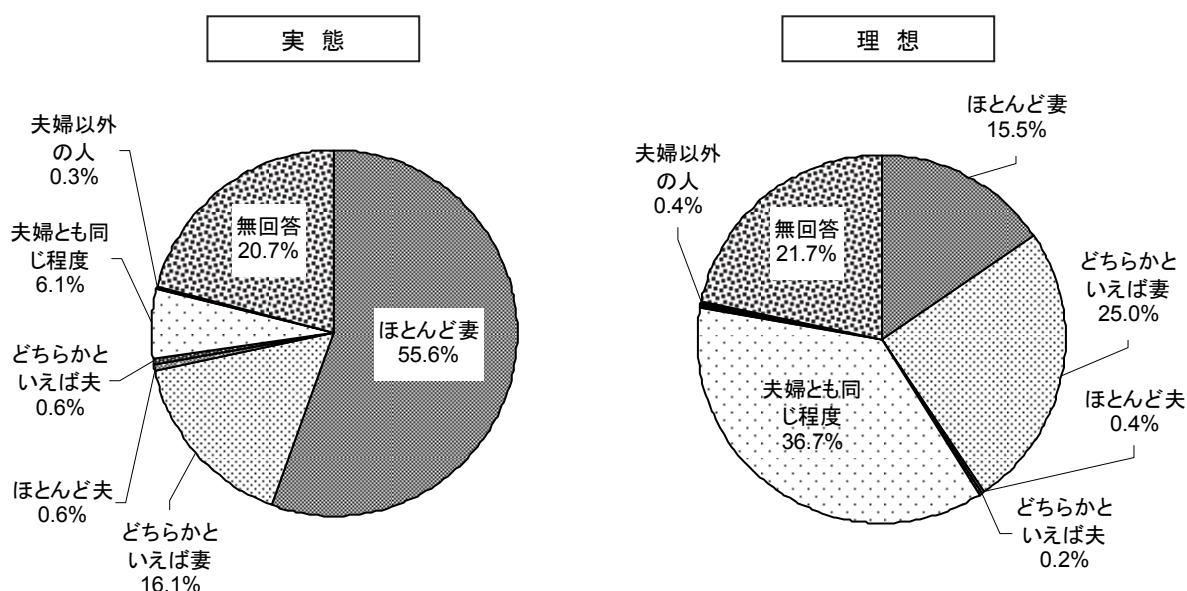
①食事のしたく・あとかたづけ

家庭生活の家事分担のうち、食事のしたく・あとかたづけの実態は「ほとんど妻」が55.6%、「どちらかといえば妻」は16.1%で、両者を合わせると71.7%となっている。「ほとんど夫」「どちらかといえば夫」は共に0.6%、両者を合わせても1.2%で、妻が大幅に上回っている。また、「夫婦とも同じ程度」は6.1%に留まっている。

一方、理想では、「ほとんど妻」が15.5%、「どちらかといえば妻」が25.0%で両者を合わせると40.5%となり、実態と比べると30ポイント以上低くなっている。また、「夫婦とも同じ程度」では36.7%で、実態と比べ30ポイント以上高くなっている。

「ほとんど夫」「どちらかといえば夫」を合わせても0.6%で実態とほとんど変わりなく、少なくなっている。

図表Ⅱ-42 食事のしたく・あとかたづけ



項目	実態		理想	
	回答数(件)	構成比(%)	回答数(件)	構成比(%)
ほとんど妻	496	55.6	138	15.5
どちらかといえば妻	144	16.1	223	25.0
ほとんど夫	5	0.6	4	0.4
どちらかといえば夫	5	0.6	2	0.2
夫婦とも同じ程度	54	6.1	327	36.7
夫婦以外の人	3	0.3	4	0.4
無回答	185	20.7	194	21.7
サンプル数	892	100.0	892	100.0

食事のしたく・あとかたづけの実態を性別で見ると、「ほとんど妻」が男性では47.8%、女性は61.6%、「どちらかといえば妻」が男性では19.8%、女性では13.3%で、それぞれ両者を合わせると、男性では67.6%、女性では74.9%と高くなっている。

性別・年代別で見ると、「ほとんど妻」と「どちらかといえば妻」の両者を合わせると、男性では30歳代以上で50%以上、女性では30歳代以上で70%以上と高くなっている。

理想では「ほとんど妻」が男性は15.9%、女性は15.1%、「どちらかといえば妻」が男性は24.7%、女性は25.2%で、両者を合わせると、男性では40.6%、女性では40.3%で男女共にほぼ同様となっている。「夫婦とも同じ程度」でも男女共に37%前後でほぼ同様となっている。また、男女共に30歳代から50歳代までは年代が高くなるほど「ほとんど妻」「どちらかといえば妻」の割合は高く、「夫婦とも同じ程度」も年代が上がるほどその割合は高くなっている。

図表Ⅱ-43 食事のしたく・あとかたづけ（性別・年代別）

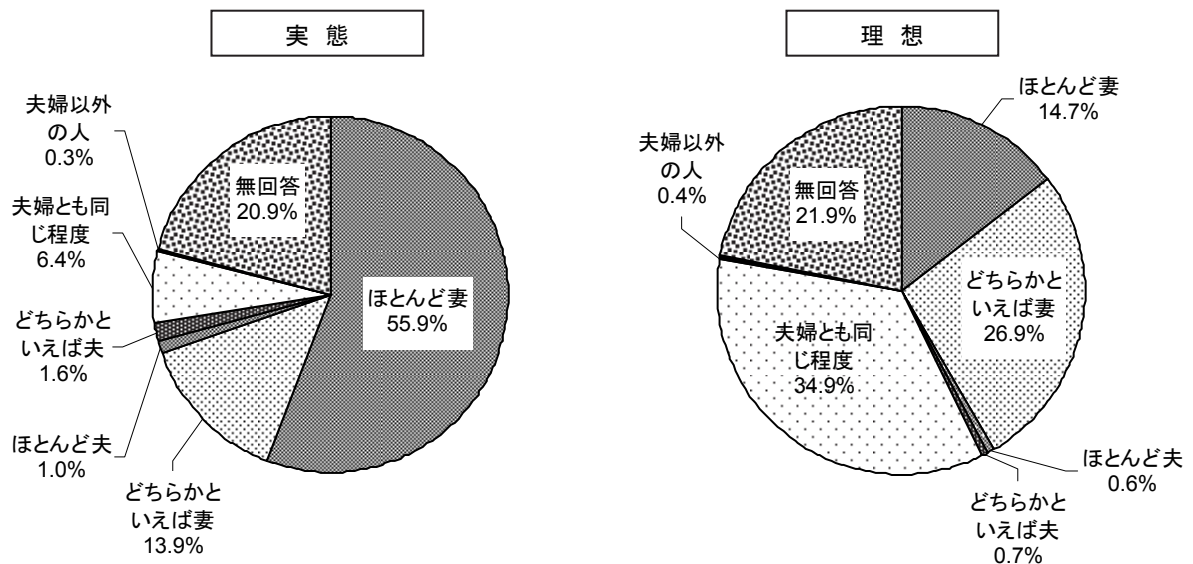
		合計	ほとんど妻	どちらかといえば妻	ほとんど夫	どちらかといえば夫	夫婦とも同じ程度	夫婦以外の人	無回答	
実態	全体	892	55.6	16.1	0.6	0.6	6.1	0.3	20.7	
	計	389	47.8	19.8	0.8	0.8	8.7	0.3	21.9	
	男性	20歳代	32	12.5	3.1	-	-	3.1	-	81.3
		30歳代	48	29.2	22.9	-	-	8.3	2.1	37.5
		40歳代	43	53.5	9.3	-	2.3	7.0	-	27.9
		50歳代	52	51.9	30.8	-	-	3.8	-	13.5
		60歳代	86	62.8	15.1	1.2	2.3	7.0	-	11.6
		70歳代以上	128	50.0	25.0	1.6	-	14.1	-	9.4
	計	503	61.6	13.3	0.4	0.4	4.0	0.4	19.9	
	女性	20歳代	26	30.8	11.5	-	-	3.8	-	53.8
		30歳代	83	56.6	18.1	-	-	4.8	1.2	19.3
		40歳代	91	67.0	12.1	-	-	4.4	-	16.5
		50歳代	72	69.4	13.9	1.4	1.4	4.2	1.4	8.3
		60歳代	124	66.1	16.9	-	0.8	2.4	-	13.7
70歳代以上		107	57.9	6.5	0.9	-	4.7	-	29.9	
計	503	61.6	13.3	0.4	0.4	4.0	0.4	19.9		
理想	全体	892	15.5	25.0	0.4	0.2	36.7	0.4	21.7	
	計	389	15.9	24.7	0.3	-	35.7	0.5	22.9	
	男性	20歳代	32	3.1	-	-	-	15.6	-	81.3
		30歳代	48	10.4	12.5	-	-	39.6	-	37.5
		40歳代	43	16.3	25.6	-	-	30.2	-	27.9
		50歳代	52	15.4	38.5	-	-	30.8	1.9	13.5
		60歳代	86	22.1	30.2	-	-	32.6	1.2	14.0
		70歳代以上	128	17.2	25.8	0.8	-	45.3	-	10.9
	計	503	15.1	25.2	0.6	0.4	37.4	0.4	20.9	
	女性	20歳代	26	7.7	11.5	-	-	26.9	-	53.8
		30歳代	83	14.5	28.9	-	-	33.7	2.4	20.5
		40歳代	91	16.5	29.7	-	-	36.3	-	17.6
		50歳代	72	13.9	41.7	1.4	1.4	33.3	-	8.3
		60歳代	124	15.3	19.4	-	0.8	50.8	-	13.7
70歳代以上		107	16.8	17.8	1.9	-	30.8	-	32.7	
計	503	15.1	25.2	0.6	0.4	37.4	0.4	20.9		

②掃除・洗濯

掃除・洗濯の場合の実態では、「ほとんど妻」が55.9%、「どちらかといえば妻」が13.9%で、両者を合わせると妻が分担する割合は69.8%と高く、「ほとんど夫」が1.0%、「どちらかといえば夫」が1.6%で両者を合わせると2.6%と非常に低く、「夫婦とも同じ程度」も6.4%と低くなっている。

理想では、「ほとんど妻」が14.7%、「どちらかといえば妻」が26.9%で、両者を合わせると妻が分担する割合は41.6%となっている。また、「夫婦とも同じ程度」が34.9%となっている。

図表Ⅱ-44 掃除・洗濯



項目	実態		理想	
	回答数(件)	構成比(%)	回答数(件)	構成比(%)
ほとんど妻	499	55.9	131	14.7
どちらかといえば妻	124	13.9	240	26.9
ほとんど夫	9	1.0	5	0.6
どちらかといえば夫	14	1.6	6	0.7
夫婦とも同じ程度	57	6.4	311	34.9
夫婦以外の人	3	0.3	4	0.4
無回答	186	20.9	195	21.9
サンプル数	892	100.0	892	100.0

掃除・洗濯での実態を、性別で見ると「ほとんど妻」は、男性は46.3%、女性が63.4%、「どちらかといえば妻」は、男性が18.3%、女性が10.5%で、それぞれ両者を合わせると、男性では64.6%、女性では73.9%と高くなっている。性別・年代別では、「ほとんど妻」と「どちらかといえば妻」を合わせると、男性は50歳代以上、女性は30歳代から60歳代で70%以上と高くなっている。

理想の場合、性別で見ると「ほとんど妻」は、男性が15.9%、女性が13.7%、「どちらかといえば妻」は、男性は25.7%、女性が27.8%で、それぞれ両者を合わせると、男性では41.6%、女性では41.5%で、性別による差はほとんどない。

性別・年代別では、「ほとんど妻」と「どちらかといえば妻」を合わせると、男性は40歳代以下では4割以下、女性は20歳代以外の各年代で3~4割程度となっている。「夫婦とも同じ程度」の割合は男女共に35%前後で、性別間ではほぼ変わらなくなっている。

図表Ⅱ-45 掃除・洗濯（性別・年代別）

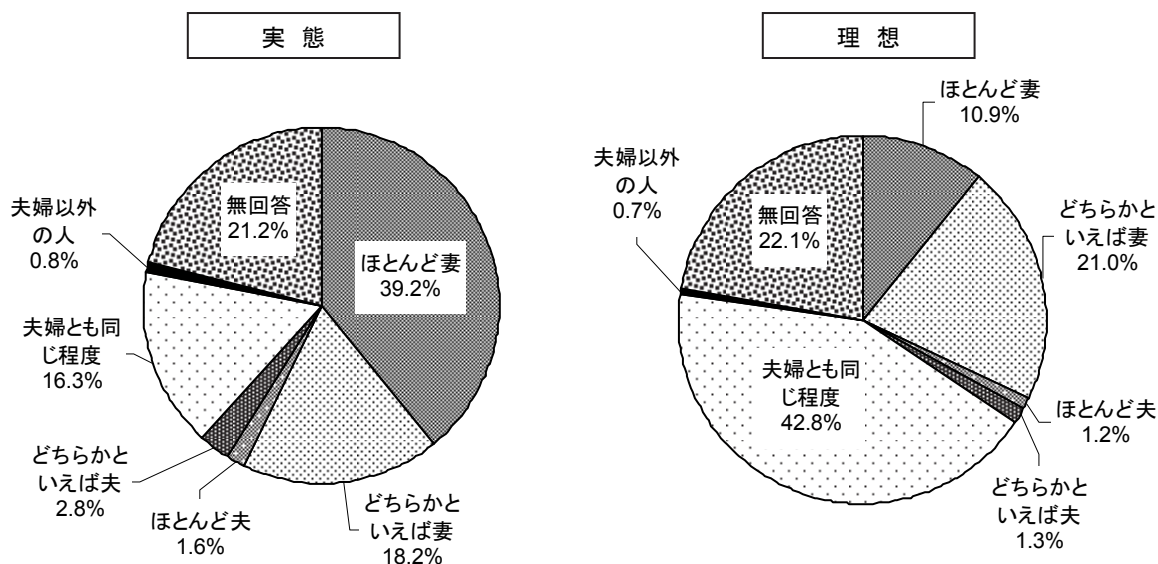
		合計	ほとんど妻	どちらかといえば妻	ほとんど夫	どちらかといえば夫	夫婦とも同じ程度	夫婦以外の人	無回答	
実態	全体	892	55.9	13.9	1.0	1.6	6.4	0.3	20.9	
	計	389	46.3	18.3	2.1	2.8	8.7	0.3	21.6	
	男性	20歳代	32	9.4	3.1	-	-	6.3	-	81.3
		30歳代	48	27.1	16.7	2.1	4.2	10.4	2.1	37.5
		40歳代	43	46.5	11.6	-	4.7	9.3	-	27.9
		50歳代	52	61.5	17.3	-	1.9	5.8	-	13.5
		60歳代	86	59.3	17.4	2.3	4.7	5.8	-	10.5
		70歳代以上	128	47.7	25.8	3.9	1.6	11.7	-	9.4
	女性	計	503	63.4	10.5	0.2	0.6	4.6	0.4	20.3
		20歳代	26	30.8	11.5	-	-	3.8	-	53.8
		30歳代	83	61.4	10.8	-	2.4	4.8	1.2	19.3
		40歳代	91	68.1	12.1	-	-	3.3	-	16.5
		50歳代	72	73.6	11.1	-	-	5.6	1.4	8.3
		60歳代	124	67.7	11.3	-	0.8	6.5	-	13.7
70歳代以上	107	57.0	7.5	0.9	-	2.8	-	31.8		
理想	全体	892	14.7	26.9	0.6	0.7	34.9	0.4	21.9	
	計	389	15.9	25.7	0.5	0.8	33.9	0.5	22.6	
	男性	20歳代	32	3.1	3.1	-	-	12.5	-	81.3
		30歳代	48	14.6	10.4	-	-	37.5	-	37.5
		40歳代	43	11.6	18.6	-	2.3	39.5	-	27.9
		50歳代	52	19.2	42.3	-	-	23.1	1.9	13.5
		60歳代	86	23.3	33.7	1.2	-	26.7	1.2	14.0
		70歳代以上	128	14.8	27.3	0.8	1.6	45.3	-	10.2
	女性	計	503	13.7	27.8	0.6	0.6	35.6	0.4	21.3
		20歳代	26	11.5	15.4	-	-	19.2	-	53.8
		30歳代	83	14.5	31.3	-	-	31.3	2.4	20.5
		40歳代	91	14.3	25.3	-	-	42.9	-	17.6
		50歳代	72	9.7	45.8	1.4	1.4	33.3	-	8.3
		60歳代	124	16.1	24.2	-	0.8	45.2	-	13.7
70歳代以上	107	13.1	22.4	1.9	0.9	27.1	-	34.6		

③食料品・日用品等の買い物

家庭生活の家事分担のうち、食料品・日用品等の買い物の実態では「ほとんど妻」が39.2%、「どちらかといえば妻」が18.2%で、両者を合わせると分担する割合は57.4%と半数を超え、「ほとんど夫」が1.6%、「どちらかといえば夫」が2.8%で両者を合わせると4.4%と非常に低く、「夫婦とも同じ程度」でも16.3%と低くなっている。

理想では、「ほとんど妻」が10.9%、「どちらかといえば妻」が21.0%で、両者を合わせると分担する割合は31.9%となっている。また、「ほとんど夫」が1.2%、「どちらかといえば夫」が1.3%で両者を合わせると2.5%と非常に低くなっている。「夫婦とも同じ程度」は42.8%で最も高くなっている。

図表Ⅱ-46 食料品・日用品等の買い物



項目	実態		理想	
	回答数(件)	構成比(%)	回答数(件)	構成比(%)
ほとんど妻	350	39.2	97	10.9
どちらかといえば妻	162	18.2	187	21.0
ほとんど夫	14	1.6	11	1.2
どちらかといえば夫	25	2.8	12	1.3
夫婦とも同じ程度	145	16.3	382	42.8
夫婦以外の人	7	0.8	6	0.7
無回答	189	21.2	197	22.1
サンプル数	892	100.0	892	100.0

食料品・日用品等の買い物についての実態では、性別で見ると「ほとんど妻」は、男性は28.8%、女性が47.3%、「どちらかといえば妻」は、男性が21.3%、女性が15.7%で、それぞれ両者を合わせると、男性では50.1%、女性では63.0%と半数を超えている。性別・年代別では、上記両者を合わせると、男性は50歳代から60歳代、女性は30歳代から60歳代で60%以上となっている。

理想の場合、性別で見ると「ほとんど妻」は、男性が11.1%、女性が10.7%、「どちらかといえば妻」は、男性は19.5%、女性が22.1%で、それぞれ両者を合わせると、男性では30.6%、女性では32.8%で、性別による差は少なくなっている。性別・年代別では、上記同様に両者を合わせると、男性は40歳代以上で3割程度、女性は30歳代から50歳代で3～4割程度となっている。「夫婦とも同じ程度」の割合は男女共に43%前後で、性別間でほぼ変わらなくなっている。

図表Ⅱ-47 食料品・日用品等の買い物（性別・年代別）

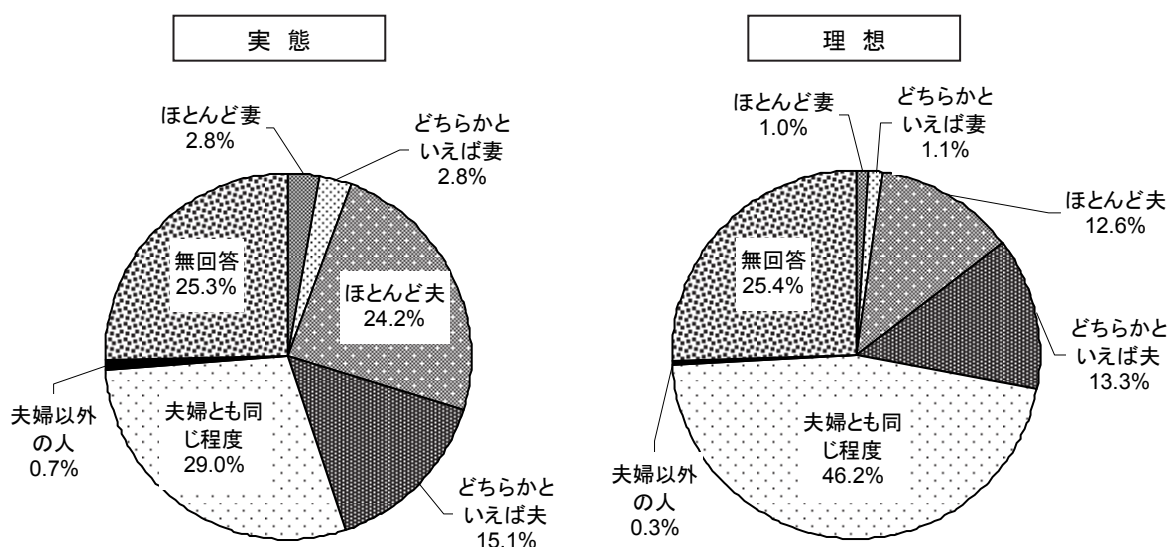
		合計	ほとんど妻	どちらかといえば妻	ほとんど夫	どちらかといえば夫	夫婦とも同じ程度	夫婦以外の人	無回答	
実態	全体	892	39.2	18.2	1.6	2.8	16.3	0.8	21.2	
	計	389	28.8	21.3	2.3	4.1	20.1	1.3	22.1	
	男性	20歳代	32	3.1	3.1	-	-	12.5	-	81.3
		30歳代	48	16.7	20.8	-	2.1	18.8	4.2	37.5
		40歳代	43	46.5	7.0	2.3	2.3	14.0	-	27.9
		50歳代	52	32.7	30.8	-	1.9	21.2	-	13.5
		60歳代	86	36.0	27.9	2.3	5.8	16.3	-	11.6
		70歳代以上	128	27.3	22.7	4.7	6.3	26.6	2.3	10.2
	計	503	47.3	15.7	1.0	1.8	13.3	0.4	20.5	
	女性	20歳代	26	15.4	11.5	-	-	15.4	-	57.7
		30歳代	83	48.2	15.7	1.2	3.6	10.8	1.2	19.3
		40歳代	91	56.0	13.2	1.1	1.1	12.1	-	16.5
		50歳代	72	54.2	18.1	1.4	1.4	15.3	1.4	8.3
		60歳代	124	48.4	21.8	0.8	2.4	12.9	-	13.7
70歳代以上		107	41.1	10.3	0.9	0.9	15.0	-	31.8	
計	892	10.9	21.0	1.2	1.3	42.8	0.7	22.1		
理想	全体	892	10.9	21.0	1.2	1.3	42.8	0.7	22.1	
	計	389	11.1	19.5	1.5	1.0	43.4	0.8	22.6	
	男性	20歳代	32	-	-	-	-	18.8	-	81.3
		30歳代	48	10.4	12.5	2.1	-	37.5	-	37.5
		40歳代	43	16.3	14.0	-	2.3	39.5	-	27.9
		50歳代	52	13.5	30.8	-	-	42.3	-	13.5
		60歳代	86	11.6	20.9	2.3	1.2	48.8	1.2	14.0
		70歳代以上	128	10.9	23.4	2.3	1.6	50.0	1.6	10.2
	計	503	10.7	22.1	1.0	1.6	42.3	0.6	21.7	
	女性	20歳代	26	7.7	3.8	-	-	34.6	-	53.8
		30歳代	83	14.5	25.3	1.2	2.4	33.7	2.4	20.5
		40歳代	91	14.3	27.5	-	-	41.8	-	16.5
		50歳代	72	6.9	38.9	-	-	45.8	-	8.3
		60歳代	124	8.9	16.1	1.6	2.4	54.8	0.8	15.3
70歳代以上		107	10.3	15.0	1.9	2.8	34.6	-	35.5	

④不動産等高価な買い物

不動産等高価な買い物の実態では「ほとんど夫」が24.2%、「どちらかといえば夫」が15.1%で両者を合わせると39.3%となっている。「夫婦とも同じ程度」でも29.0%となっている。「ほとんど妻」が2.8%、「どちらかといえば妻」が2.8%で、両者を合わせると分担する割合は5.6%と低くなっている。

理想では、「夫婦とも同じ程度」が46.2%で最も高くなっている。また、「ほとんど夫」が12.6%、「どちらかといえば夫」が13.3%で両者を合わせると25.9%となっている。「ほとんど妻」が1.0%、「どちらかといえば妻」が1.1%で、両者を合わせるとその割合は2.1%となっている。

図表Ⅱ-48 不動産等高価な買い物



項目	実態		理想	
	回答数(件)	構成比(%)	回答数(件)	構成比(%)
ほとんど妻	25	2.8	9	1.0
どちらかといえば妻	25	2.8	10	1.1
ほとんど夫	216	24.2	112	12.6
どちらかといえば夫	135	15.1	119	13.3
夫婦とも同じ程度	259	29.0	412	46.2
夫婦以外の人	6	0.7	3	0.3
無回答	226	25.3	227	25.4
サンプル数	892	100.0	892	100.0

不動産等高価な買い物の実態は、性別で見ると「ほとんど夫」は、男性は20.6%、女性が27.0%、「どちらかといえば夫」は、男性が16.7%、女性が13.9%で、それぞれ両者を合わせると、男性では37.3%、女性では40.9%となっている。また、「夫婦とも同じ程度」では、男女共に29.0%となっている。

性別・年代別では、「ほとんど夫」と「どちらかといえば夫」の両者を合わせると、男性は40歳代以上で40%前後、女性は30歳代から50歳代で50%前後となっている。また、「夫婦とも同じ程度」では、男性では50歳代が40.4%と最も高く、次いで60歳代が34.9%となっている。

理想の場合、性別で見ると「ほとんど夫」は、男性が11.3%、女性が13.5%、「どちらかといえば夫」は、男性は13.1%、女性が13.5%で、それぞれ両者を合わせると、男性では24.4%、女性では27.0%で、性別による差は少なくなっている。性別・年代別では、上記両者を合わせると、男性は70歳代以上で32.0%と最も高く、次いで60歳代で27.9%となっている。女性は30歳代が44.6%で最も高く、次いで、40歳代が38.5%となっている。「夫婦とも同じ程度」では、男女共に50歳代が60%を超えて最も高く、次いで60歳代が男女共に50%台となっている。

図表Ⅱ-49 不動産等高価な買い物（性別・年代別）

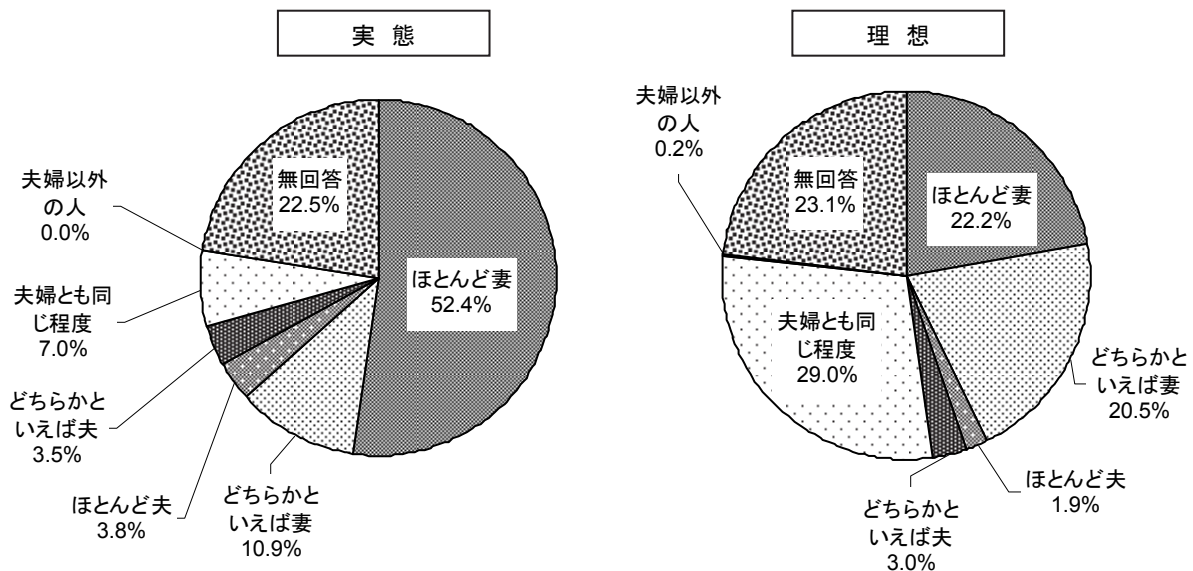
		合計	ほとんど妻	どちらかといえば妻	ほとんど夫	どちらかといえば夫	夫婦とも同じ程度	夫婦以外の人	無回答	
実態	全体	892	2.8	2.8	24.2	15.1	29.0	0.7	25.3	
	計	389	2.6	2.1	20.6	16.7	29.0	1.3	27.8	
	男性	20歳代	32	-	-	3.1	3.1	12.5	-	81.3
		30歳代	48	2.1	2.1	18.8	10.4	25.0	2.1	39.6
		40歳代	43	4.7	-	18.6	20.9	23.3	-	32.6
		50歳代	52	5.8	-	23.1	15.4	40.4	-	15.4
		60歳代	86	-	1.2	29.1	18.6	34.9	1.2	15.1
		70歳代以上	128	3.1	4.7	19.5	20.3	28.1	2.3	21.9
	計	503	3.0	3.4	27.0	13.9	29.0	0.2	23.5	
	女性	20歳代	26	-	-	19.2	3.8	23.1	-	53.8
		30歳代	83	6.0	2.4	37.3	10.8	24.1	-	19.3
		40歳代	91	1.1	1.1	38.5	16.5	26.4	-	16.5
		50歳代	72	2.8	5.6	23.6	22.2	36.1	1.4	8.3
		60歳代	124	1.6	4.0	21.8	15.3	37.1	-	20.2
70歳代以上		107	4.7	4.7	19.6	9.3	22.4	-	39.3	
理想	全体	892	1.0	1.1	12.6	13.3	46.2	0.3	25.4	
	計	389	0.8	0.8	11.3	13.1	46.5	0.5	27.0	
	男性	20歳代	32	-	-	3.1	-	15.6	-	81.3
		30歳代	48	-	2.1	10.4	14.6	35.4	-	37.5
		40歳代	43	-	-	9.3	9.3	48.8	-	32.6
		50歳代	52	1.9	-	11.5	5.8	65.4	-	15.4
		60歳代	86	-	-	15.1	12.8	54.7	-	17.4
		70歳代以上	128	1.6	1.6	11.7	20.3	44.5	1.6	18.8
	計	503	1.2	1.4	13.5	13.5	45.9	0.2	24.3	
	女性	20歳代	26	3.8	-	11.5	-	30.8	-	53.8
		30歳代	83	3.6	1.2	27.7	16.9	28.9	1.2	20.5
		40歳代	91	1.1	1.1	18.7	19.8	42.9	-	16.5
		50歳代	72	1.4	2.8	11.1	12.5	63.9	-	8.3
		60歳代	124	-	0.8	6.5	13.7	58.9	-	20.2
70歳代以上		107	-	1.9	8.4	9.3	38.3	-	42.1	

⑤家計費の管理

家庭生活の家事分担のうち、家計費の管理の実態では「ほとんど妻」が52.4%、「どちらかといえば妻」が10.9%で、両者を合わせると分担する割合は63.3%と半数を超え、「ほとんど夫」が3.8%、「どちらかといえば夫」が3.5%で両者を合わせると7.3%と非常に低く、「夫婦とも同じ程度」でも7.0%と低くなっている。

理想では、「ほとんど妻」が22.2%、「どちらかといえば妻」が20.5%で、両者を合わせると分担する割合は42.7%となっている。また、「ほとんど夫」が1.9%、「どちらかといえば夫」が3.0%で両者を合わせると4.9%と非常に低くなっている。「夫婦とも同じ程度」は29.0%となっている。

図表Ⅱ-50 家計費の管理



項目	実態		理想	
	回答数(件)	構成比(%)	回答数(件)	構成比(%)
ほとんど妻	467	52.4	198	22.2
どちらかといえば妻	97	10.9	183	20.5
ほとんど夫	34	3.8	17	1.9
どちらかといえば夫	31	3.5	27	3.0
夫婦とも同じ程度	62	7.0	259	29.0
夫婦以外の人	-	-	2	0.2
無回答	201	22.5	206	23.1
サンプル数	892	100.0	892	100.0

家計費の管理の実態は、性別で見ると「ほとんど妻」は、男性は47.6%、女性が56.1%、「どちらかといえば妻」は、男性が14.7%、女性が8.0%で、それぞれ両者を合わせると、男性では62.3%、女性では64.1%と半数を超えている。

性別・年代別では、「ほとんど妻」と「どちらかといえば妻」を合わせると、男性は50歳代以上では70%前後で、女性は50歳代と60歳代が70%を超えている。

理想の場合、性別で見ると「ほとんど妻」は、男性は21.9%、女性は22.5%、「どちらかといえば妻」は、男性は21.1%、女性が20.1%で、それぞれ両者を合わせると、男性では43.0%、女性では42.6%で、性別による差はほとんどない。

性別・年代別では、「ほとんど妻」と「どちらかといえば妻」を合わせると、男性は50歳代以上で4割を超え、女性は30歳代から60歳代で4割を超えている。「夫婦とも同じ程度」の割合は男女共に約30%で、性別間でほぼ変わらなくなっている。

図表Ⅱ-51 家計費の管理（性別・年代別）

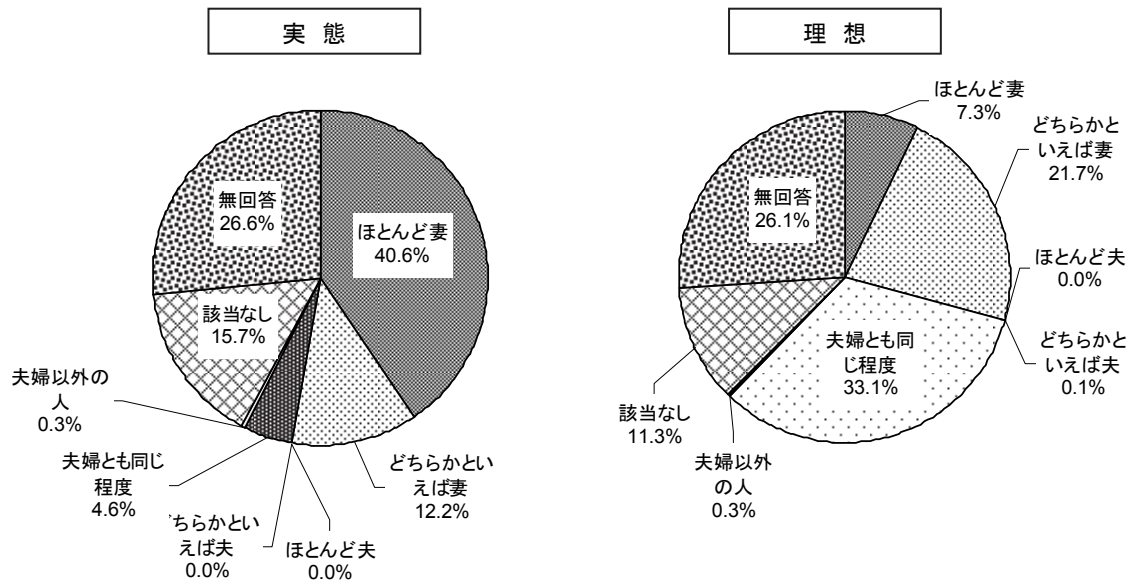
		合計	ほとんど妻	どちらかといえば妻	ほとんど夫	どちらかといえば夫	夫婦とも同じ程度	夫婦以外の人	無回答	
実態	全体	892	52.4	10.9	3.8	3.5	7.0	-	22.5	
	計	389	47.6	14.7	3.3	3.3	7.5	-	23.7	
	男性	20歳代	32	15.6	-	3.1	-	-	-	81.3
		30歳代	48	41.7	8.3	-	2.1	10.4	-	37.5
		40歳代	43	44.2	9.3	4.7	4.7	7.0	-	30.2
		50歳代	52	50.0	23.1	1.9	5.8	5.8	-	13.5
		60歳代	86	58.1	10.5	3.5	3.5	10.5	-	14.0
		70歳代以上	128	50.8	21.9	4.7	3.1	7.0	-	12.5
	女性	計	503	56.1	8.0	4.2	3.6	6.6	-	21.7
		20歳代	26	42.3	-	3.8	-	-	-	53.8
		30歳代	83	44.6	14.5	8.4	3.6	8.4	-	20.5
		40歳代	91	54.9	6.6	5.5	6.6	8.8	-	17.6
		50歳代	72	68.1	5.6	2.8	5.6	8.3	-	9.7
		60歳代	124	62.1	9.7	4.0	3.2	4.0	-	16.9
70歳代以上	107	54.2	5.6	0.9	0.9	6.5	-	31.8		
理想	全体	892	22.2	20.5	1.9	3.0	29.0	0.2	23.1	
	計	389	21.9	21.1	2.6	3.1	27.2	0.3	23.9	
	男性	20歳代	32	3.1	3.1	3.1	-	9.4	-	81.3
		30歳代	48	20.8	6.3	-	2.1	33.3	-	37.5
		40歳代	43	25.6	11.6	-	2.3	32.6	-	27.9
		50歳代	52	17.3	32.7	3.8	5.8	26.9	-	13.5
		60歳代	86	25.6	23.3	3.5	1.2	30.2	-	16.3
		70歳代以上	128	25.0	28.1	3.1	4.7	25.8	0.8	12.5
	女性	計	503	22.5	20.1	1.4	3.0	30.4	0.2	22.5
		20歳代	26	26.9	7.7	-	-	11.5	-	53.8
		30歳代	83	26.5	18.1	3.6	4.8	25.3	1.2	20.5
		40歳代	91	26.4	23.1	1.1	4.4	28.6	-	16.5
		50歳代	72	18.1	30.6	-	2.8	40.3	-	8.3
		60歳代	124	24.2	21.0	0.8	1.6	36.3	-	16.1
70歳代以上	107	15.9	14.0	1.9	2.8	27.1	-	38.3		

⑥乳児・幼児の世話

家庭生活の家事分担のうち、乳児・幼児の世話の実態では「ほとんど妻」が40.6%、「どちらかといえば妻」が12.2%で、両者を合わせると分担する割合は52.8%と半数を超えているが、「ほとんど夫」「どちらかといえば夫」は共に回答がなかった。「夫婦とも同じ程度」が4.6%と低くなっている。

理想では、「ほとんど妻」が7.3%、「どちらかといえば妻」が21.7%で、両者を合わせると29.0%となっている。また、「ほとんど夫」が0%、「どちらかといえば夫」が0.1%で非常に低くなっている。「夫婦とも同じ程度」が33.1%で最も高くなっている。

図表Ⅱ-52 乳児・幼児の世話



項目	実態		理想	
	回答数(件)	構成比(%)	回答数(件)	構成比(%)
ほとんど妻	362	40.6	65	7.3
どちらかといえば妻	109	12.2	194	21.7
ほとんど夫	-	-	-	-
どちらかといえば夫	-	-	1	0.1
夫婦とも同じ程度	41	4.6	295	33.1
夫婦以外の人	3	0.3	3	0.3
該当なし	140	15.7	101	11.3
無回答	237	26.6	233	26.1
サンプル数	892	100.0	892	100.0

乳児・幼児の世話の実態は、性別で見ると「ほとんど妻」は、男性は33.7%、女性は45.9%、「どちらかといえば妻」は、男性が13.4%、女性が11.3%で、それぞれ両者を合わせると、男性では47.1%、女性では57.2%となっている。

性別・年代別では、「ほとんど妻」と「どちらかといえば妻」を合わせると、男性は40歳代から60歳代では半数を超え、女性は40歳代から60歳代が60%前後になる。

理想の場合、性別で見ると「ほとんど妻」は、男性は10.0%、女性は5.2%、「どちらかといえば妻」は、男性は22.1%、女性が21.5%で、それぞれ両者を合わせると、男性では32.1%、女性では26.7%となっている。「夫婦とも同じ程度」では、男性が24.7%、女性が39.6%で女性の方が14.9ポイント高くなっている。性別・年代別では、「ほとんど妻」と「どちらかといえば妻」を合わせると、男性は40歳代以上で3割を超え、女性は50歳代が34.7%で最も高く、それ以外の年代は30%以下となっている。「夫婦とも同じ程度」の割合は男性は30歳代は37.5%で最も高く、20歳代を除く他の年代は20%程度となっている。女性は30歳代、40歳代、60歳代が40%以上と高く、20歳代と70歳代は30%未満となっている。

図表Ⅱ-53 乳児・幼児の世話（性別・年代別）

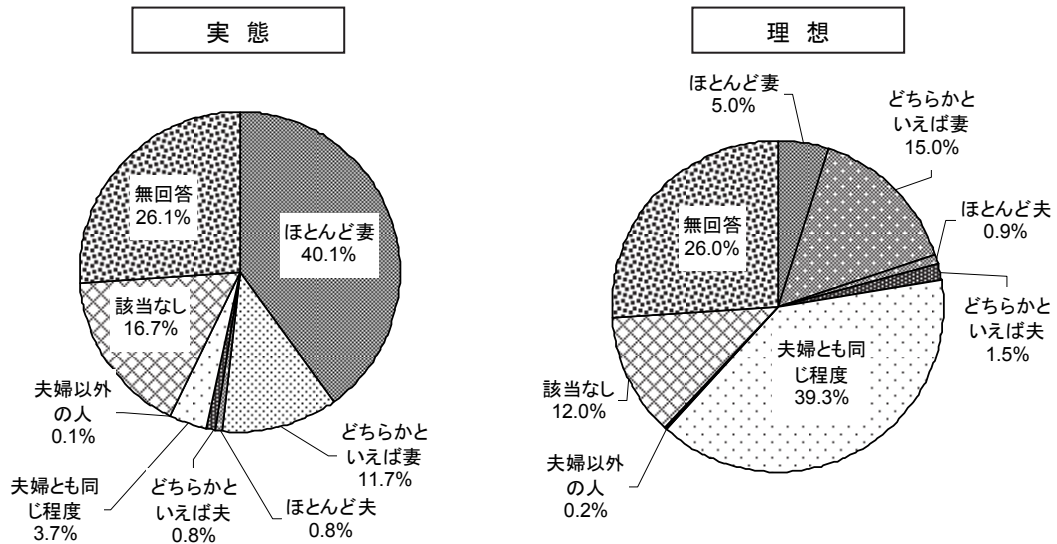
		合計	ほとんど妻	どちらかといえば妻	ほとんど夫	どちらかといえば夫	夫婦とも同じ程度	夫婦以外の人	該当なし	無回答	
実態	全体	892	40.6	12.2	-	-	4.6	0.3	15.7	26.6	
	計	389	33.7	13.4	-	-	4.1	0.3	19.8	28.8	
	男性	20歳代	32	6.3	3.1	-	-	-	-	9.4	81.3
		30歳代	48	20.8	14.6	-	-	8.3	2.1	16.7	37.5
		40歳代	43	37.2	16.3	-	-	4.7	-	14.0	27.9
		50歳代	52	48.1	11.5	-	-	7.7	-	17.3	15.4
		60歳代	86	47.7	11.6	-	-	2.3	-	19.8	18.6
		70歳代以上	128	28.9	16.4	-	-	3.1	-	26.6	25.0
	女性	計	503	45.9	11.3	-	-	5.0	0.4	12.5	24.9
		20歳代	26	23.1	7.7	-	-	-	-	15.4	53.8
		30歳代	83	44.6	14.5	-	-	4.8	-	16.9	19.3
		40歳代	91	47.3	15.4	-	-	7.7	-	13.2	16.5
		50歳代	72	47.2	16.7	-	-	4.2	1.4	20.8	9.7
		60歳代	124	53.2	9.7	-	-	5.6	0.8	10.5	20.2
70歳代以上	107	42.1	4.7	-	-	3.7	-	4.7	44.9		
理想	全体	892	7.3	21.7	-	0.1	33.1	0.3	11.3	26.1	
	計	389	10.0	22.1	-	0.3	24.7	0.5	14.7	27.8	
	男性	20歳代	32	-	6.3	-	-	6.3	-	6.3	81.3
		30歳代	48	4.2	14.6	-	-	37.5	-	6.3	37.5
		40歳代	43	11.6	23.3	-	-	27.9	-	9.3	27.9
		50歳代	52	9.6	28.8	-	1.9	26.9	-	17.3	15.4
		60歳代	86	16.3	24.4	-	-	23.3	1.2	16.3	18.6
		70歳代以上	128	10.2	24.2	-	-	23.4	0.8	19.5	21.9
	女性	計	503	5.2	21.5	-	-	39.6	0.2	8.7	24.9
		20歳代	26	-	19.2	-	-	26.9	-	-	53.8
		30歳代	83	4.8	19.3	-	-	47.0	1.2	7.2	20.5
		40歳代	91	2.2	24.2	-	-	48.4	-	8.8	16.5
		50歳代	72	2.8	31.9	-	-	36.1	-	18.1	11.1
		60歳代	124	7.3	18.5	-	-	46.0	-	9.7	18.5
70歳代以上	107	8.4	17.8	-	-	24.3	-	4.7	44.9		

⑦子どもの学校の委員や行事等への参加

家庭生活の家事分担のうち、子どもの学校の委員や行事等への参加の実態では「ほとんど妻」が40.1%、「どちらかといえば妻」が11.7%で、両者を合わせると分担する割合は51.8%と半数を超え、「ほとんど夫」が0.8%、「どちらかといえば夫」が0.8%で両者を合わせた1.6%を大幅に上回っている。「夫婦とも同じ程度」は3.7%と低くなっている。

理想では、「ほとんど妻」が5.0%、「どちらかといえば妻」が15.0%で、両者を合わせると20.0%となっている。また、「ほとんど夫」が0.9%、「どちらかといえば夫」が1.5%で低くなっている。「夫婦とも同じ程度」が39.3%で最も高くなっている。

図表Ⅱ-54 子どもの学校の委員や行事等への参加



項目	実態		理想	
	回答数(件)	構成比(%)	回答数(件)	構成比(%)
ほとんど妻	358	40.1	45	5.0
どちらかといえば妻	104	11.7	134	15.0
ほとんど夫	7	0.8	8	0.9
どちらかといえば夫	7	0.8	13	1.5
夫婦とも同じ程度	33	3.7	351	39.3
夫婦以外の人	1	0.1	2	0.2
該当なし	149	16.7	107	12.0
無回答	233	26.1	232	26.0
サンプル数	892	100.0	892	100.0

子どもの学校の委員や行事等への参加の実態は、性別で見ると「ほとんど妻」は、男性は28.0%、女性は49.5%、「どちらかといえば妻」は、男性が15.2%、女性が8.9%で、それぞれ両者を合わせると、男性では43.2%、女性では58.4%となっている。

性別・年代別では、「ほとんど妻」と「どちらかといえば妻」を合わせると、男性は40歳代から60歳代では半数を超え、女性は40歳代から60歳代が60%を超えている。

理想の場合、性別で見ると「ほとんど妻」は、男性は5.9%、女性は4.4%、「どちらかといえば妻」は、男性は13.1%、女性が16.5%で、それぞれ両者を合わせると、男性では19.0%、女性では20.9%となっている。「夫婦とも同じ程度」は、男性が33.9%、女性が43.5%で、女性の方が9.6ポイント高くなっている。

性別・年代別では、「ほとんど妻」と「どちらかといえば妻」の両者を合わせると、男性は40歳代で30.3%、女性は30歳代で26.5%がそれぞれ最も高くなっている。「夫婦とも同じ程度」の割合では男性は50歳代が40.4%で最も高く、女性も50歳代で51.4%で最も高くなっている。

図表Ⅱ-55 子どもの学校の委員や行事等への参加（性別・年代別）

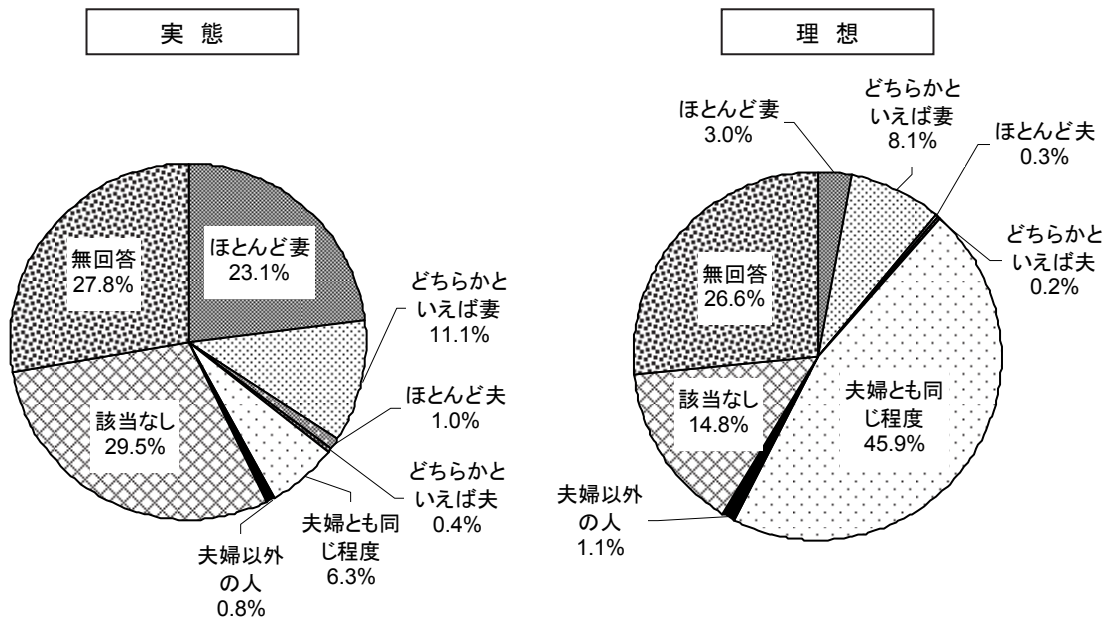
		合計	ほとんど妻	どちらかといえば妻	ほとんど夫	どちらかといえば夫	夫婦とも同じ程度	夫婦以外の人	該当なし	無回答	
実態	全体	892	40.1	11.7	0.8	0.8	3.7	0.1	16.7	26.1	
	計	389	28.0	15.2	1.3	1.5	3.9	0.3	21.1	28.8	
	男性	20歳代	32	6.3	-	-	-	-	-	12.5	81.3
		30歳代	48	14.6	18.8	-	-	4.2	-	22.9	39.6
		40歳代	43	41.9	11.6	-	-	4.7	-	14.0	27.9
		50歳代	52	42.3	19.2	-	1.9	3.8	-	17.3	15.4
		60歳代	86	37.2	17.4	3.5	1.2	2.3	-	20.9	17.4
		70歳代以上	128	21.9	15.6	1.6	3.1	5.5	0.8	26.6	25.0
	計	503	49.5	8.9	0.4	0.2	3.6	-	13.3	24.1	
	女性	20歳代	26	23.1	3.8	-	-	-	-	19.2	53.8
		30歳代	83	43.4	9.6	-	-	4.8	-	22.9	19.3
		40歳代	91	57.1	11.0	-	-	4.4	-	11.0	16.5
		50歳代	72	50.0	11.1	-	-	8.3	-	20.8	9.7
		60歳代	124	57.3	10.5	0.8	0.8	2.4	-	10.5	17.7
70歳代以上		107	44.9	4.7	0.9	-	0.9	-	4.7	43.9	
理想	全体	892	5.0	15.0	0.9	1.5	39.3	0.2	12.0	26.0	
	計	389	5.9	13.1	1.8	1.5	33.9	-	15.4	28.3	
	男性	20歳代	32	-	3.1	-	-	9.4	-	6.3	81.3
		30歳代	48	4.2	10.4	-	2.1	37.5	-	8.3	37.5
		40歳代	43	14.0	16.3	-	-	32.6	-	9.3	27.9
		50歳代	52	3.8	21.2	1.9	1.9	40.4	-	15.4	15.4
		60歳代	86	4.7	16.3	4.7	2.3	34.9	-	18.6	18.6
		70歳代以上	128	7.0	10.2	1.6	1.6	35.9	-	20.3	23.4
	計	503	4.4	16.5	0.2	1.4	43.5	0.4	9.3	24.3	
	女性	20歳代	26	3.8	7.7	-	-	30.8	-	3.8	53.8
		30歳代	83	8.4	18.1	-	-	39.8	1.2	12.0	20.5
		40歳代	91	3.3	20.9	-	-	50.5	-	8.8	16.5
		50歳代	72	1.4	19.4	-	1.4	51.4	-	18.1	8.3
		60歳代	124	4.8	16.1	-	4.0	46.8	0.8	8.9	18.5
70歳代以上		107	3.7	12.1	0.9	0.9	34.6	-	3.7	43.9	

⑧介護や看護を要する家族の世話

家庭生活の家事分担のうち、介護や看護を要する家族の世話の実態では「ほとんど妻」が23.1%、「どちらかといえば妻」が11.1%で、両者を合わせると分担する割合は34.2%で、「ほとんど夫」が1.0%、「どちらかといえば夫」が0.4%で両者を合わせた1.4%を大幅に上回っている。また、「夫婦とも同じ程度」では6.3%と低くなっている。

理想では、「ほとんど妻」が3.0%、「どちらかといえば妻」が8.1%で、両者を合わせると11.1%となっている。また、「ほとんど夫」が0.3%、「どちらかといえば夫」が0.2%で非常に低くなっている。「夫婦とも同じ程度」が45.9%で最も高くなっている。

図表Ⅱ-56 介護や看護を要する家族の世話



項目	実態		理想	
	回答数(件)	構成比(%)	回答数(件)	構成比(%)
ほとんど妻	206	23.1	27	3.0
どちらかといえば妻	99	11.1	72	8.1
ほとんど夫	9	1.0	3	0.3
どちらかといえば夫	4	0.4	2	0.2
夫婦とも同じ程度	56	6.3	409	45.9
夫婦以外の人	7	0.8	10	1.1
該当なし	263	29.5	132	14.8
無回答	248	27.8	237	26.6
サンプル数	892	100.0	892	100.0

介護や看護を要する家族の世話の実態は、性別で見ると「ほとんど妻」は、男性は15.7%、女性は28.8%、「どちらかといえば妻」は、男性が11.6%、女性が10.7%で、それぞれ両者を合わせると、男性では27.3%、女性では39.5%となっている。

性別・年代別では、「ほとんど妻」と「どちらかといえば妻」を合わせると、男性は60歳代が43.0%で最も高く、女性は50歳代が52.8%で最も高くなっている。

理想の場合、性別で見ると「ほとんど妻」は、男性は3.6%、女性は2.6%、「どちらかといえば妻」は、男性は8.7%、女性が7.6%で、それぞれ両者を合わせると、男性では12.3%、女性では10.2%となっている。「夫婦とも同じ程度」は、男性が39.8%、女性が50.5%で、女性の方が10.7ポイント高くなっている。

性別・年代別では、「ほとんど妻」と「どちらかといえば妻」を合わせると、男性は40歳代と60歳代が16.3%となっている。女性は50歳代が15.3%となっている。「夫婦とも同じ程度」の割合では男性は60歳代が51.2%で半数を超え、女性では40歳代が61.5%で最も高くなっている。

図表Ⅱ-57 介護や看護を要する家族の世話（性別・年代別）

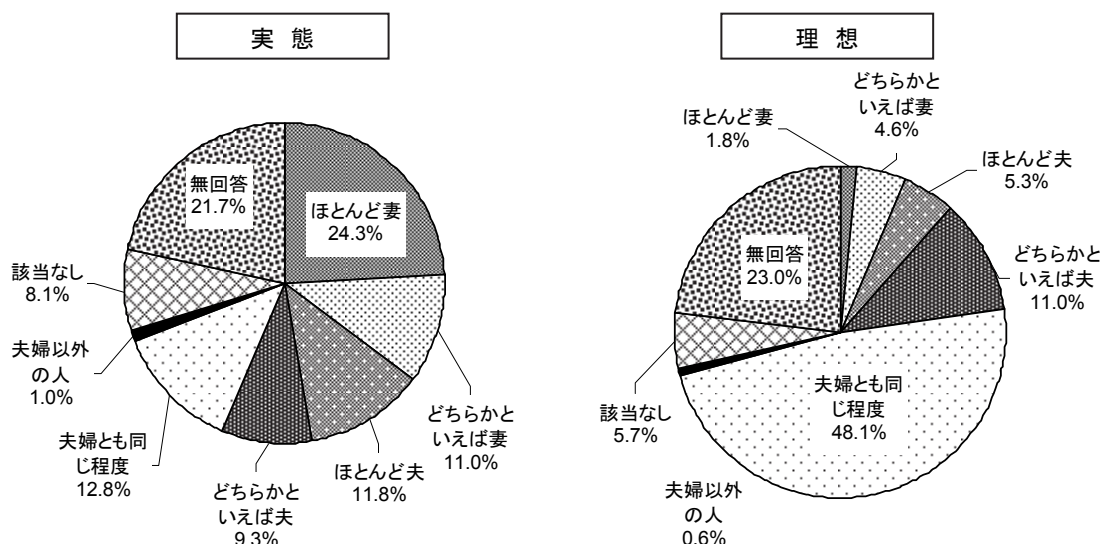
		合計	ほとんど妻	どちらかといえば妻	ほとんど夫	どちらかといえば夫	夫婦とも同じ程度	夫婦以外の人	該当なし	無回答	
実態	全体	892	23.1	11.1	1.0	0.4	6.3	0.8	29.5	27.8	
	計	389	15.7	11.6	2.1	1.0	6.4	0.5	32.1	30.6	
	男性	20歳代	32	-	-	-	-	3.1	-	15.6	81.3
		30歳代	48	4.2	4.2	-	-	2.1	2.1	47.9	39.6
		40歳代	43	20.9	9.3	-	-	9.3	-	30.2	30.2
		50歳代	52	19.2	11.5	3.8	1.9	5.8	-	38.5	19.2
		60歳代	86	26.7	16.3	1.2	2.3	7.0	-	26.7	19.8
		70歳代以上	128	13.3	14.8	3.9	0.8	7.8	0.8	32.0	26.6
	女性	計	503	28.8	10.7	0.2	-	6.2	1.0	27.4	25.6
		20歳代	26	7.7	3.8	-	-	7.7	-	26.9	53.8
		30歳代	83	12.0	6.0	-	-	1.2	2.4	59.0	19.3
		40歳代	91	30.8	12.1	-	-	8.8	-	30.8	17.6
		50歳代	72	37.5	15.3	-	-	8.3	1.4	26.4	11.1
		60歳代	124	33.1	17.7	0.8	-	6.5	-	19.4	22.6
70歳代以上	107	34.6	3.7	-	-	5.6	1.9	10.3	43.9		
理想	全体	892	3.0	8.1	0.3	0.2	45.9	1.1	14.8	26.6	
	計	389	3.6	8.7	0.8	0.3	39.8	0.5	18.3	28.0	
	男性	20歳代	32	-	-	-	-	6.3	-	12.5	81.3
		30歳代	48	2.1	4.2	-	-	31.3	-	22.9	39.6
		40歳代	43	7.0	9.3	-	-	37.2	-	18.6	27.9
		50歳代	52	5.8	9.6	-	1.9	44.2	-	23.1	15.4
		60歳代	86	5.8	10.5	1.2	-	51.2	-	12.8	18.6
		70歳代以上	128	1.6	10.9	1.6	-	43.0	1.6	19.5	21.9
	女性	計	503	2.6	7.6	-	0.2	50.5	1.6	12.1	25.4
		20歳代	26	-	3.8	-	-	30.8	-	11.5	53.8
		30歳代	83	1.2	9.6	-	-	39.8	3.6	25.3	20.5
		40歳代	91	3.3	5.5	-	-	61.5	-	13.2	16.5
		50歳代	72	1.4	13.9	-	-	59.7	2.8	11.1	11.1
		60歳代	124	2.4	6.5	-	0.8	59.7	0.8	10.5	19.4
70歳代以上	107	4.7	5.6	-	-	37.4	1.9	3.7	46.7		

⑨自治会や地域活動への参加

自治会や地域活動への参加の実態では「ほとんど妻」が24.3%、「どちらかといえば妻」が11.0%で、両者を合わせると分担する割合は35.3%で、「ほとんど夫」が11.8%、「どちらかといえば夫」が9.3%で両者を合わせた割合は21.1%となっている。また、「夫婦とも同じ程度」では12.8%となっている。

理想では、「ほとんど妻」が1.8%、「どちらかといえば妻」が4.6%で、両者を合わせると6.4%と低くなっている。また、「ほとんど夫」が5.3%、「どちらかといえば夫」が11.0%で両者を合わせると16.3%となっている。「夫婦とも同じ程度」が48.1%で最も高くなっている。

図表Ⅱ-58 自治会や地域活動への参加



項目	実態		理想	
	回答数(件)	構成比(%)	回答数(件)	構成比(%)
ほとんど妻	217	24.3	16	1.8
どちらかといえば妻	98	11.0	41	4.6
ほとんど夫	105	11.8	47	5.3
どちらかといえば夫	83	9.3	98	11.0
夫婦とも同じ程度	114	12.8	429	48.1
夫婦以外の人	9	1.0	5	0.6
該当なし	72	8.1	51	5.7
無回答	194	21.7	205	23.0
サンプル数	892	100.0	892	100.0

自治会や地域活動への参加の実態は、性別で見ると「ほとんど妻」は、男性は14.1%、女性は32.2%、「どちらかといえば妻」は、男性が9.3%、女性は12.3%で、両者を合わせると、男性では23.4%、女性では44.5%となっている。「ほとんど夫」は男性は18.8%、女性は6.4%、「どちらかといえば夫」は男性は10.5%、女性は8.3%で、両者を合わせると、男性は29.3%、女性は14.7%となっている。「夫婦とも同じ程度」は、男性は14.7%、女性は11.3%となっている。

性別・年代別では、「ほとんど妻」と「どちらかといえば妻」を合わせると、男女共に、60歳代が最も高く、「ほとんど夫」「どちらかといえば夫」を合わせると男性では70歳以上、女性では50歳代が高くなっている。「夫婦とも同じ程度」は男性は70歳代以上が最も高く、女性では50歳代が高くなっている。

理想の場合、「夫婦とも同じ程度」が、男性は44.0%、女性が51.3%となっている。

性別・年代別では、「夫婦とも同じ程度」は、男女共に50歳代が最も高く、男性は53.8%、女性では69.4%となっている。「ほとんど夫」と「どちらかといえば夫」の両者を合わせると、男性では70歳代以上が28.9%で最も高く、女性は60歳代が20.1%で最も高くなっている。

図表Ⅱ-59 自治会や地域活動への参加（性別・年代別）

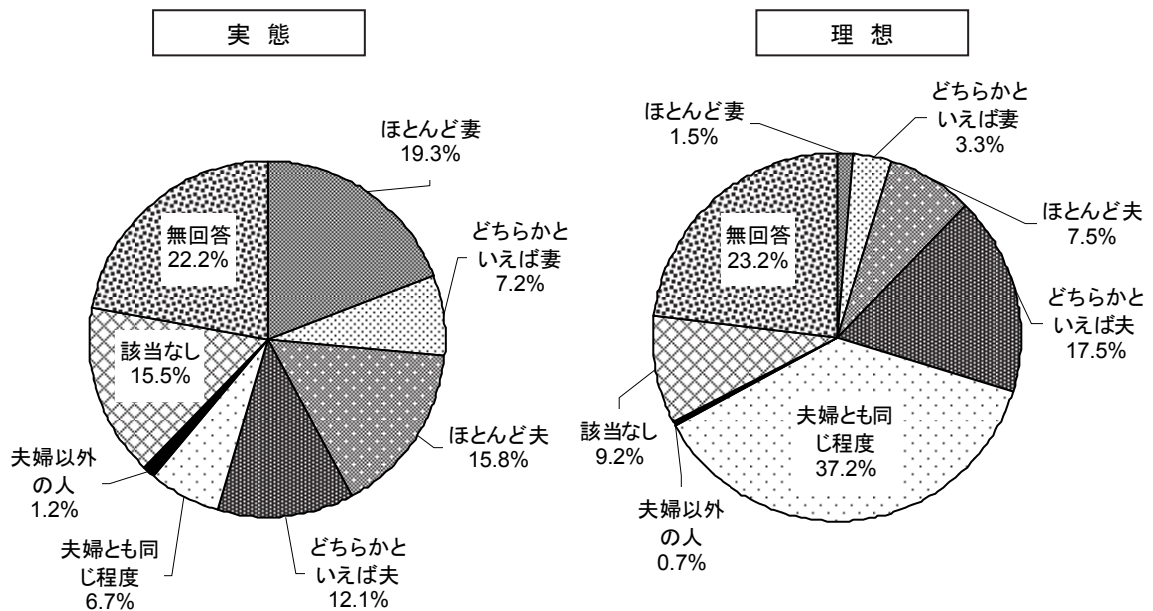
		合計	実態		理想		夫婦とも同じ程度	夫婦以外の人	該当なし	無回答	
			ほとんど妻	どちらかといえば妻	ほとんど夫	どちらかといえば夫					
実態	全体	892	24.3	11.0	11.8	9.3	12.8	1.0	8.1	21.7	
	計	389	14.1	9.3	18.8	10.5	14.7	1.0	9.0	22.6	
	男性	20歳代	32	-	-	3.1	-	-	-	15.6	81.3
		30歳代	48	10.4	2.1	6.3	10.4	14.6	2.1	16.7	37.5
		40歳代	43	14.0	14.0	4.7	11.6	11.6	4.7	11.6	27.9
		50歳代	52	19.2	9.6	26.9	9.6	13.5	-	7.7	13.5
		60歳代	86	24.4	15.1	18.6	12.8	12.8	-	4.7	11.6
		70歳代以上	128	10.2	8.6	28.9	11.7	21.1	0.8	7.0	11.7
	女性	計	503	32.2	12.3	6.4	8.3	11.3	1.0	7.4	21.1
		20歳代	26	11.5	-	-	-	11.5	3.8	19.2	53.8
		30歳代	83	27.7	10.8	1.2	6.0	6.0	3.6	25.3	19.3
		40歳代	91	40.7	9.9	7.7	9.9	12.1	1.1	2.2	16.5
		50歳代	72	36.1	15.3	11.1	6.9	18.1	-	4.2	8.3
		60歳代	124	34.7	18.5	5.6	10.5	14.5	-	1.6	14.5
70歳代以上		107	28.0	9.3	8.4	9.3	6.5	-	3.7	34.6	
理想	全体	892	1.8	4.6	5.3	11.0	48.1	0.6	5.7	23.0	
	計	389	1.8	5.4	7.7	10.0	44.0	0.5	6.9	23.7	
	男性	20歳代	32	-	-	-	3.1	6.3	-	9.4	81.3
		30歳代	48	4.2	6.3	-	4.2	41.7	2.1	4.2	37.5
		40歳代	43	4.7	2.3	4.7	7.0	44.2	2.3	7.0	27.9
		50歳代	52	1.9	5.8	5.8	11.5	53.8	-	7.7	13.5
		60歳代	86	1.2	10.5	7.0	10.5	52.3	-	4.7	14.0
		70歳代以上	128	0.8	3.9	14.8	14.1	44.5	-	8.6	13.3
	女性	計	503	1.8	4.0	3.4	11.7	51.3	0.6	4.8	22.5
		20歳代	26	3.8	3.8	-	-	26.9	3.8	7.7	53.8
		30歳代	83	1.2	6.0	2.4	8.4	43.4	2.4	15.7	20.5
		40歳代	91	1.1	6.6	7.7	11.0	56.0	-	1.1	16.5
		50歳代	72	-	5.6	4.2	8.3	69.4	-	2.8	9.7
		60歳代	124	1.6	1.6	2.4	17.7	59.7	-	2.4	14.5
70歳代以上		107	3.7	1.9	1.9	13.1	37.4	-	2.8	39.3	

⑩自治会や地域活動の役員、責任者

自治会や地域活動の役員、責任者の実態では「ほとんど妻」が19.3%、「どちらかといえば妻」が7.2%で両者を合わせると、分担する割合は26.5%で、「ほとんど夫」が15.8%、「どちらかといえば夫」が12.1%で両者を合わせた割合は27.9%となっている。また、「夫婦とも同じ程度」では6.7%となっている。

理想では、「ほとんど妻」が1.5%、「どちらかといえば妻」が3.3%で、両者を合わせると4.8%と低くなっている。また、「ほとんど夫」が7.5%、「どちらかといえば夫」が17.5%で両者を合わせると25.0%となっている。「夫婦とも同じ程度」では37.2%で最も高くなっている。

図表Ⅱ-60 自治会や地域活動の役員、責任者



項目	実態		理想	
	回答数(件)	構成比(%)	回答数(件)	構成比(%)
ほとんど妻	172	19.3	13	1.5
どちらかといえば妻	64	7.2	29	3.3
ほとんど夫	141	15.8	67	7.5
どちらかといえば夫	108	12.1	156	17.5
夫婦とも同じ程度	60	6.7	332	37.2
夫婦以外の人	11	1.2	6	0.7
該当なし	138	15.5	82	9.2
無回答	198	22.2	207	23.2
サンプル数	892	100.0	892	100.0

自治会や地域活動の役員、責任者の実態は、性別で見ると「ほとんど妻」は、男性は11.3%、女性は25.4%、「どちらかといえば妻」は、男性が6.4%、女性は7.8%で、両者を合わせると、男性では17.7%、女性では33.2%となっている。「ほとんど夫」は男性は21.9%、女性は11.1%、「どちらかといえば夫」は男性は11.1%、女性は12.9%で、両者を合わせると、男性は33.0%、女性は24.0%となっている。「夫婦とも同じ程度」は、男性は7.7%、女性は6.0%となっている。

性別・年代別では、「ほとんど妻」と「どちらかといえば妻」を合わせると、男性は60歳代が高く、女性は50歳代が高くなっている。「ほとんど夫」「どちらかといえば夫」を合わせると男性では70歳以上、女性では60歳代が高くなっている。「夫婦とも同じ」は男性は70歳代以上が最も高く、女性では50歳代が高くなっている。

理想の場合、「夫婦とも同じ程度」は、男性は35.5%、女性が38.6%と最も高くなっている。

性別・年代別では、「夫婦とも同じ程度」は、男性は60歳代、女性では50歳代が最も高く、男性は43.0%、女性では61.1%となっている。

図表Ⅱ-61 自治会や地域活動の役員、責任者（性別・年代別）

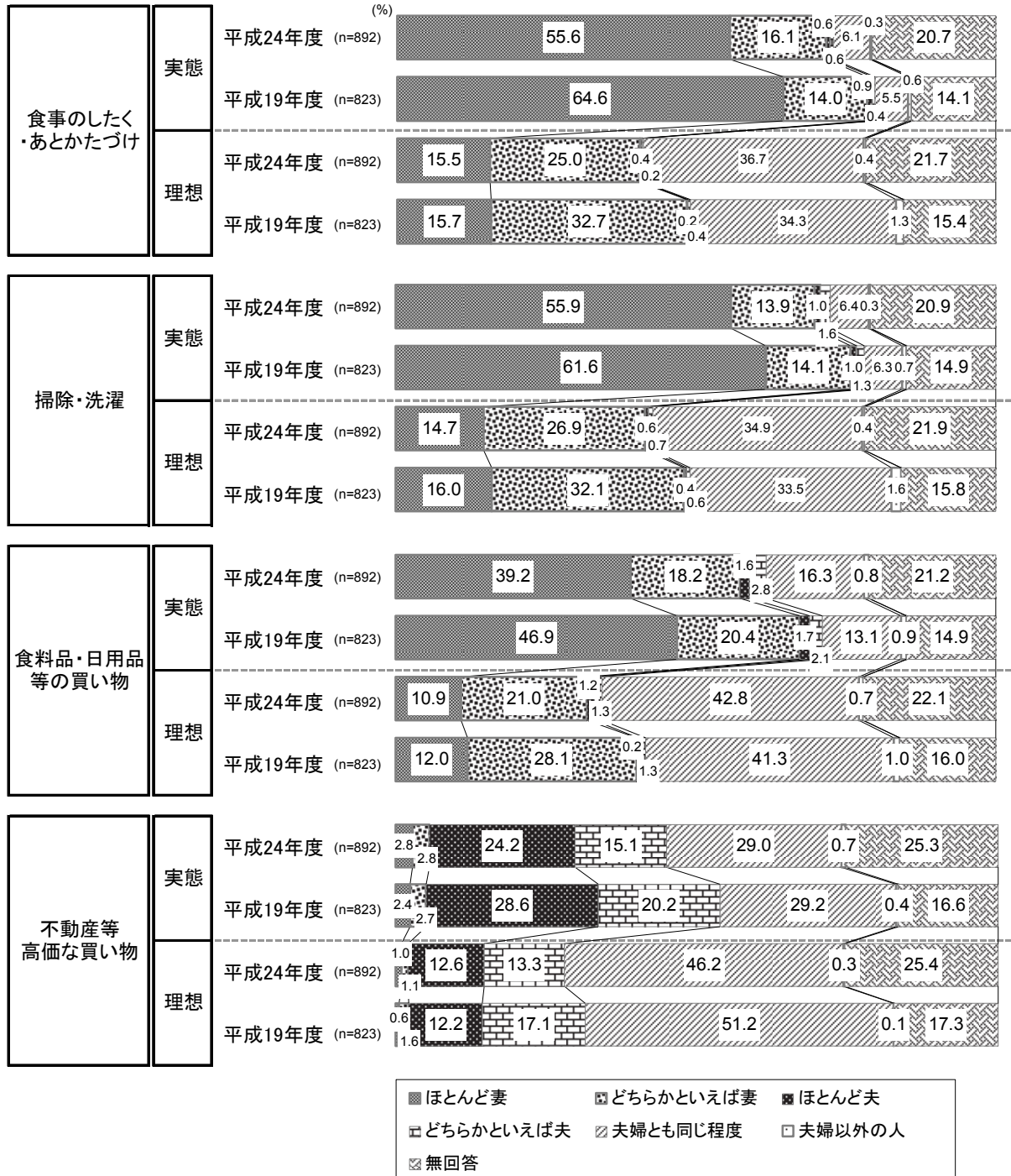
		合計	ほとんど妻	どちらかといえば妻	ほとんど夫	どちらかといえば夫	夫婦とも同じ程度	夫婦以外の人	該当なし	無回答	
実態	全体	892	19.3	7.2	15.8	12.1	6.7	1.2	15.5	22.2	
	計	389	11.3	6.4	21.9	11.1	7.7	1.5	16.7	23.4	
	男性	20歳代	32	-	-	3.1	-	-	-	15.6	81.3
		30歳代	48	8.3	4.2	10.4	6.3	2.1	2.1	29.2	37.5
		40歳代	43	11.6	9.3	7.0	11.6	7.0	7.0	18.6	27.9
		50歳代	52	13.5	11.5	28.8	7.7	7.7	-	17.3	13.5
		60歳代	86	19.8	8.1	20.9	14.0	9.3	-	15.1	12.8
		70歳代以上	128	8.6	4.7	33.6	14.8	10.9	1.6	12.5	13.3
	計	503	25.4	7.8	11.1	12.9	6.0	1.0	14.5	21.3	
	女性	20歳代	26	-	-	-	3.8	7.7	3.8	30.8	53.8
		30歳代	83	21.7	6.0	4.8	3.6	3.6	3.6	37.3	19.3
		40歳代	91	33.0	4.4	12.1	15.4	3.3	1.1	14.3	16.5
		50歳代	72	29.2	16.7	13.9	12.5	9.7	-	9.7	8.3
		60歳代	124	28.2	8.9	10.5	21.0	8.9	-	7.3	15.3
70歳代以上		107	22.4	6.5	16.8	11.2	3.7	-	4.7	34.6	
理想	全体	892	1.5	3.3	7.5	17.5	37.2	0.7	9.2	23.2	
	計	389	1.8	3.9	8.5	15.4	35.5	0.5	10.3	24.2	
	男性	20歳代	32	-	-	-	6.3	3.1	-	9.4	81.3
		30歳代	48	4.2	6.3	-	10.4	33.3	2.1	6.3	37.5
		40歳代	43	4.7	2.3	2.3	7.0	41.9	2.3	11.6	27.9
		50歳代	52	1.9	3.8	5.8	19.2	42.3	-	13.5	13.5
		60歳代	86	1.2	5.8	7.0	19.8	43.0	-	9.3	14.0
		70歳代以上	128	0.8	3.1	18.0	18.0	34.4	-	10.9	14.8
	計	503	1.2	2.8	6.8	19.1	38.6	0.8	8.3	22.5	
	女性	20歳代	26	-	3.8	-	3.8	19.2	3.8	15.4	53.8
		30歳代	83	1.2	4.8	8.4	12.0	27.7	2.4	22.9	20.5
		40歳代	91	1.1	3.3	11.0	18.7	42.9	1.1	5.5	16.5
		50歳代	72	-	4.2	5.6	15.3	61.1	-	4.2	9.7
		60歳代	124	1.6	0.8	6.5	25.0	46.0	-	5.6	14.5
70歳代以上		107	1.9	1.9	4.7	24.3	24.3	-	3.7	39.3	

(8)家事の分担の時系列比較

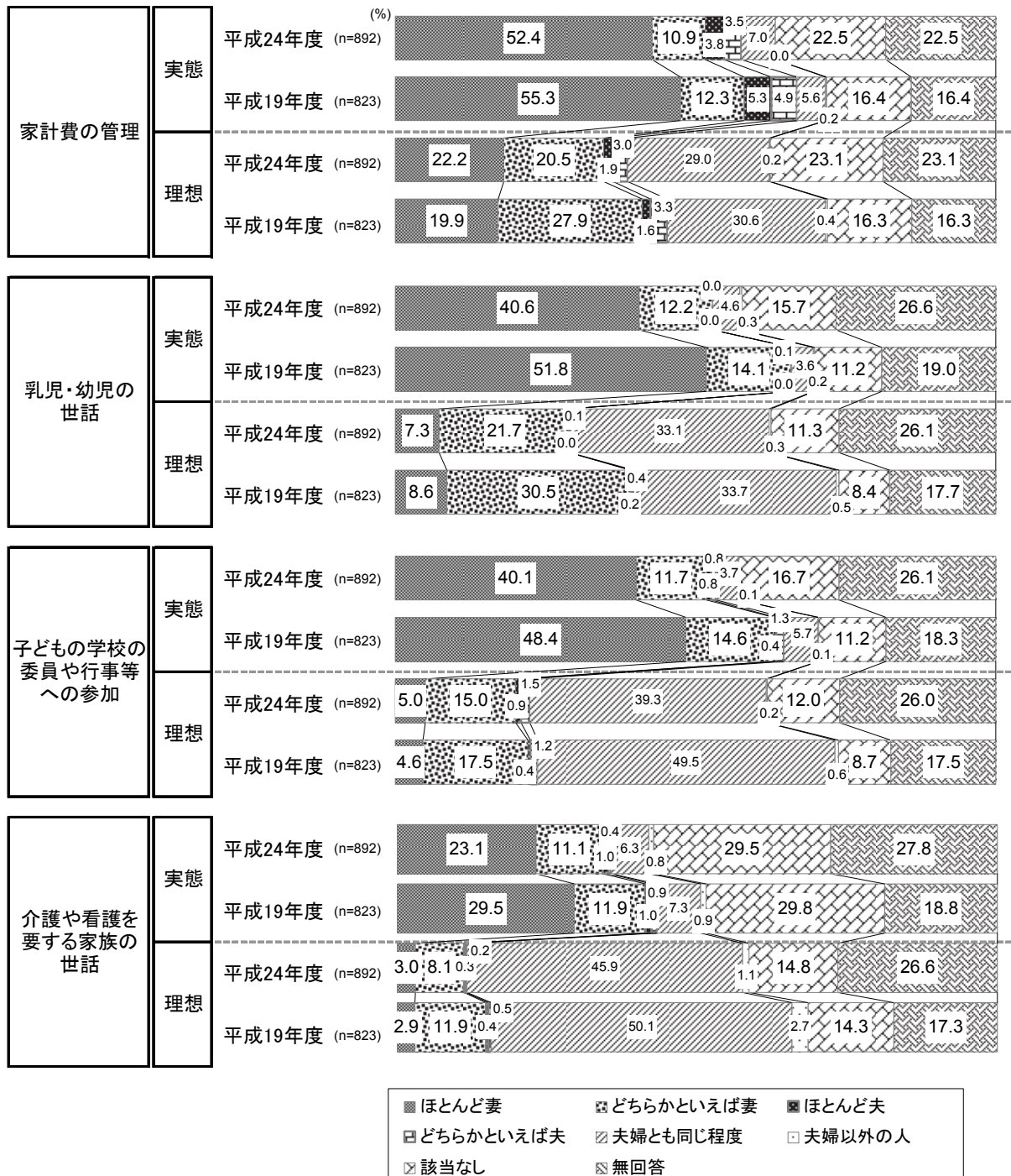
「不動産等高価な買い物」を除くほとんどの家事は実態も理想も妻が行うが高くなってきているが、いずれも前回調査（平成19年度）よりも減少した。

理想で増加した項目は「夫婦とも同じ程度」である。

図表Ⅱ-62 家事の分担の推移(1)



図表Ⅱ-62 家事の分担の推移(2)



5. 災害時の避難について

問8 万一、自然災害のために避難しなければならなくなった場合、どのようなことが心配ですか。あてはまるものを3つまで選んで、○をつけてください

要旨

自然災害のための避難時に心配なことは、「家族との連絡」「情報の入手」「トイレ、入浴など避難所での衛生面」など、家族の安全の確認と合流、置かれている状況の把握、衛生やストレスに関する心配事などが上げられている。

男女共に「家族との連絡」が6割を超えて最も高く、次いで「情報の入手」が男性は56.0%、女性が44.1%と共に高くなっている。

それぞれの個人が調査時点で被災する状況を具体的に想像することは難しい。それでも家族とどう連絡を取り合うかが最も大きな心配事といえる。

自然災害のための避難時に心配なことは、「家族との連絡」が68.5%で最も高くなっている。次いで「情報の入手」が49.3%、「トイレ、入浴など避難所での衛生面」が37.3%と続いている。

図表Ⅱ-63 災害時の避難

項目	回答数(件)	構成比(%)
家族との連絡	611	68.5
情報の入手	440	49.3
トイレ、入浴など避難所での衛生面	333	37.3
家族の合流集合	249	27.9
子ども、高齢者、病気・障がいのある家族の安全な避難	216	24.2
避難生活でのストレス	189	21.2
子ども、高齢者、病気・障がいのある家族の避難所での生活	176	19.7
避難所での食事	166	18.6
防犯など避難所の安全、更衣室、パーティションなど人権・プライバシーへの配慮	156	17.5
仕事・職場への対応	59	6.6
その他	12	1.3
無回答	8	0.9
サンプル数	892	100.0

性別でみると、男性は「情報の入手」(56.0%)「避難所での食事」(23.1%)などが女性よりも高く、女性は「トイレ、入浴など避難所での衛生面」(41.4%)「避難生活でのストレス」(24.3%)などが男性よりも高くなっている。

性別に関わりなく年代が若いほど「家族との連絡」が高く、女性の50歳代以上では「避難生活でのストレス」が高くなっている。

男性40歳代、50歳代と女性20歳代、30歳代は「家族の合流集合」が4割前後と高くなっている。

図表Ⅱ-64 災害時の避難（性別・年代別）

	合計	家族との連絡	情報の入手	トイレ、入浴など避難所での衛生面	家族の合流集合	子ども、高齢者、病気・障がいのある家族の安全な避難	避難生活でのストレス	子ども、高齢者、病気・障がいのある家族の避難所での生活	避難所での食事	シィンパティへの配慮	防犯など避難所の安全、更衣室、プライバシー	仕事・職場への対応	その他	無回答
全体	892	68.5	49.3	37.3	27.9	24.2	21.2	19.7	18.6	17.5	6.6	1.3	0.9	
男性	計	389	68.9	56.0	32.1	28.8	21.3	17.2	17.7	23.1	16.2	7.7	1.5	1.0
	20歳代	32	81.3	53.1	34.4	18.8	15.6	18.8	15.6	31.3	3.1	6.3	3.1	-
	30歳代	48	79.2	47.9	31.3	33.3	20.8	6.3	16.7	29.2	12.5	16.7	-	-
	40歳代	43	69.8	39.5	27.9	41.9	18.6	16.3	14.0	25.6	14.0	18.6	2.3	2.3
	50歳代	52	69.2	51.9	30.8	40.4	13.5	26.9	13.5	19.2	15.4	9.6	1.9	-
	60歳代	86	69.8	67.4	39.5	23.3	19.8	15.1	10.5	19.8	20.9	4.7	1.2	1.2
	70歳代以上	128	60.9	59.4	28.9	24.2	28.1	18.8	26.6	21.9	18.8	2.3	1.6	1.6
女性	計	503	68.2	44.1	41.4	27.2	26.4	24.3	21.3	15.1	18.5	5.8	1.2	0.8
	20歳代	26	84.6	69.2	26.9	46.2	7.7	7.7	23.1	19.2	3.8	7.7	-	-
	30歳代	83	67.5	31.3	34.9	39.8	37.3	15.7	25.3	16.9	15.7	6.0	1.2	1.2
	40歳代	91	78.0	28.6	46.2	30.8	23.1	22.0	18.7	18.7	17.6	12.1	3.3	-
	50歳代	72	66.7	41.7	37.5	26.4	23.6	31.9	13.9	12.5	20.8	12.5	2.8	1.4
	60歳代	124	68.5	48.4	44.4	19.4	23.4	27.4	23.4	13.7	25.8	1.6	-	0.8
	70歳代以上	107	57.0	57.9	44.9	19.6	30.8	28.0	22.4	13.1	15.0	-	-	0.9

6. 女性の就業のあり方や現状について

(1)女性の就業のあり方

問9(1).あなた(男性の場合は「妻・パートナー」)の働き方として理想とする形はどれですか。あなたの考えに最も近いもの1つを選んで○をつけてください。

問9(2).現実にあなた自身(男性の場合は「妻・パートナー」)の働き方はどれにあたりますか。(単身の方は、パートナーと暮らす場合どの形になると思われますか。)あなたの考えに最も近いもの1つを選んで○をつけてください。

問9(3).次世代の女性の働き方として、望ましいと思われる形はどれですか。あなたの考えに最も近いもの1つを選んで○をつけてください。

要旨

女性の働き方の理想として「子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職業に就く」という考え方が、全体、男女共に最も高くなっている。現実には理想に比べ、全体で16.5ポイント、男性で14.4ポイント、女性で18.1ポイントそれぞれ低く、そうした理想を実現できていない。また、「結婚して子どもができて職業を持ち続ける」という働き方も現実と理想を比べると、現実が3.4ポイント低くなっている。

次世代の女性の働き方にも「子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職業に就く」「結婚して子どもができて職業を持ち続ける」が望ましいと思われている。

前回調査(平成19年度)と比較すると、女性の働き方の理想、現実、次世代の女性の働き方の理想は、「結婚して子どもができて、職業を持ち続ける」が上昇し、「子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職業に就く」が減少した。

女性が就業するには、いったん辞めてしまうと再就職が難しいことが現れていると考えられる。

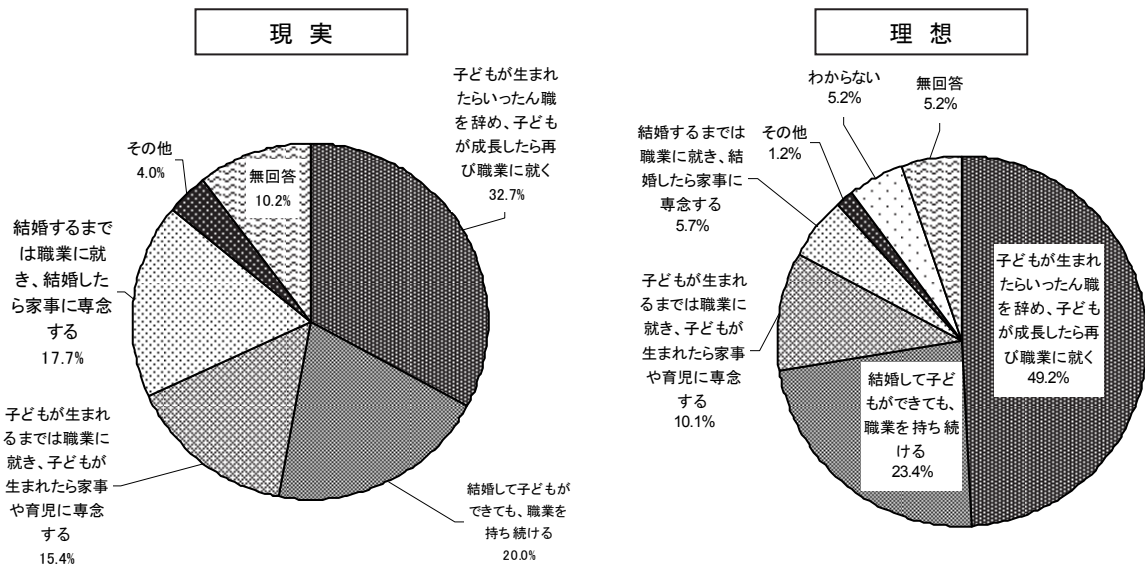
①女性の働き方

女性の働き方の理想では、「子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職業に就く」が49.2%で最も高く、次いで「子どもが生まれても職業を持ち続ける」が23.4%となっている。

現実には、「子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職業に就く」は32.7%で、現実のうちで最も高いものの、理想を下回る。「子どもが生まれても職業を持ち続ける」は20.0%だが、この働き方も理想を下回っている。

理想で最も低かった「結婚するまでは職業に就き、結婚したら家事に専念する」(5.7%)は現実では17.7%となっている。

図表Ⅱ-65 女性の働き方



項目	現実		理想	
	回答数(件)	構成比(%)	回答数(件)	構成比(%)
子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職業に就く	292	32.7	439	49.2
結婚して子どもができて、職業を持ち続ける	178	20.0	209	23.4
子どもが生まれるまでは職業に就き、子どもが生まれてから家事や育児に専念する	137	15.4	90	10.1
結婚するまでは職業に就き、結婚したら家事に専念する	158	17.7	51	5.7
その他	36	4.0	11	1.2
わからない			46	5.2
無回答	91	10.2	46	5.2
サンプル数	892	100.0	892	100.0

女性の働き方の理想は、性別で見ると「子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職業に就く」が男性(46.5%)も女性(51.3%)も同様に最も高くなっている。

女性はどの年代も「子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職業に就く」という理想が高くなっているが、現実はいずれも理想より低くなっている。

図表Ⅱ-66 女性の働き方（性別・年代別）

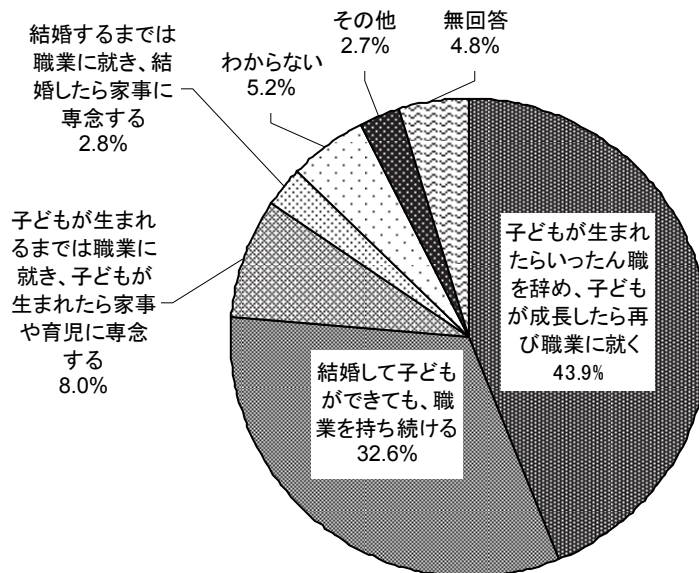
		合計	子どもが生まれたら再就職に就く	子どもが生まれたら成長した職業を持ち続ける	子どもが生まれたら専念する	子どもが生まれるまでは専念する	結婚したら専念する	結婚するまでは専念する	その他	わからない	無回答	
現実	全体	892	32.7	20.0	15.4	17.7	4.0				10.2	
	計	389	32.1	19.0	18.3	20.6	2.8				7.2	
	男性	20歳代	32	34.4	40.6	12.5	3.1	3.1				6.3
		30歳代	48	37.5	33.3	16.7	6.3	4.2				2.1
		40歳代	43	44.2	25.6	9.3	11.6	4.7				4.7
		50歳代	52	36.5	19.2	19.2	19.2	1.9				3.8
		60歳代	86	27.9	12.8	22.1	30.2	1.2				5.8
		70歳代以上	128	26.6	10.2	20.3	27.3	3.1				12.5
	女性	計	503	33.2	20.7	13.1	15.5	5.0				12.5
		20歳代	26	11.5	42.3	11.5	11.5	3.8				19.2
		30歳代	83	31.3	30.1	20.5	10.8	4.8				2.4
		40歳代	91	44.0	25.3	12.1	13.2	5.5				-
		50歳代	72	37.5	25.0	9.7	16.7	5.6				5.6
		60歳代	124	33.9	12.1	14.5	18.5	4.0				16.9
70歳代以上	107	27.1	11.2	9.3	17.8	5.6				29.0		
理想	全体	892	49.2	23.4	10.1	5.7	1.2		5.2		5.2	
	計	389	46.5	22.1	13.6	6.4	1.8		7.2		2.3	
	男性	20歳代	32	53.1	25.0	12.5	3.1	3.1		3.1		-
		30歳代	48	37.5	35.4	8.3	6.3	2.1		10.4		-
		40歳代	43	44.2	27.9	9.3	7.0	2.3		9.3		-
		50歳代	52	50.0	28.8	5.8	1.9	3.8		5.8		3.8
		60歳代	86	51.2	12.8	18.6	5.8	1.2		8.1		2.3
		70歳代以上	128	44.5	18.0	17.2	9.4	0.8		6.3		3.9
	女性	計	503	51.3	24.5	7.4	5.2	0.8		3.6		7.4
		20歳代	26	42.3	38.5	7.7	3.8	3.8		3.8		-
		30歳代	83	61.4	27.7	7.2	2.4	-		1.2		-
		40歳代	91	57.1	27.5	7.7	5.5	-		2.2		-
		50歳代	72	51.4	25.0	8.3	4.2	1.4		6.9		2.8
		60歳代	124	51.6	21.8	6.5	6.5	-		1.6		12.1
70歳代以上	107	40.2	18.7	7.5	6.5	1.9		6.5		18.7		

②次世代の女性の働き方

次世代の女性の働き方として望ましい形は、「子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職業に就く」で43.9%と最も高く、次いで「結婚して子どもができて、職業を持ち続ける」が32.6%となっている。

「結婚するまでは職業に就き、結婚したら家事に専念する」や「子どもが生まれるまでは職業に就き、子どもが生まれたら、家事や育児に専念する」は10%に満たない。

図表Ⅱ-67 次世代の女性の働き方



項目	回答数(件)	構成比(%)
子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職業に就く	392	43.9
結婚して子どもができて、職業を持ち続ける	291	32.6
子どもが生まれるまでは職業に就き、子どもが生まれたら家事や育児に専念する	71	8.0
結婚するまでは職業に就き、結婚したら家事に専念する	25	2.8
わからない	46	5.2
その他	24	2.7
無回答	43	4.8
サンプル数	892	100.0

次世代の女性の働き方は、性別で見ると「子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職業に就く」で男性（46.3%）も女性（42.1%）も同様に最も高くなっている。

「結婚して子どもができて、職業を持ち続ける」では、女性（36.6%）は男性（27.5%）よりも高く、女性の年代別で見ると20歳代から50歳代までが比較的高くなっている。

図表Ⅱ-68 次世代の女性の働き方（性別・年代別）

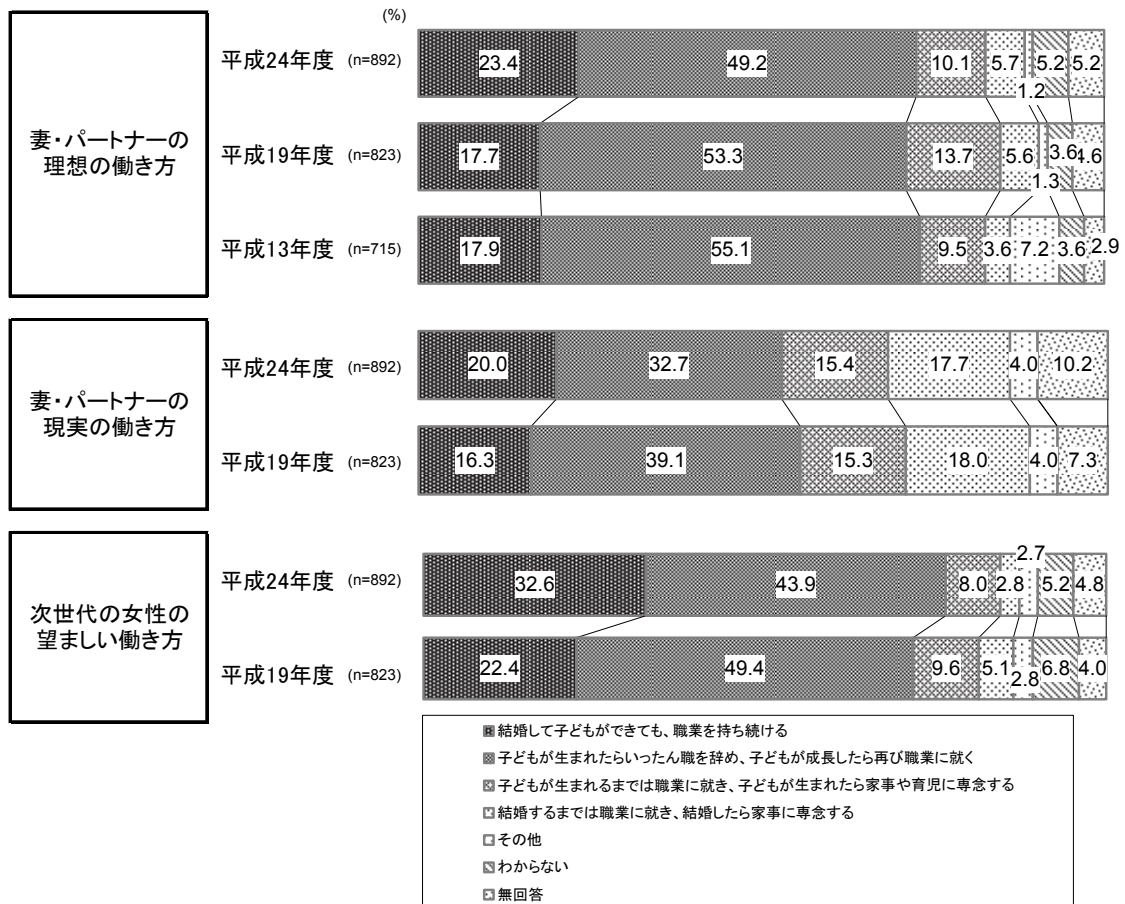
	合計	子どもが生まれたら再就職に就く	子どもが生まれて成長したん	結婚して子どもができて、職業を持ち続ける	結婚して子どもが生まれては職業に就く	結婚したら家事に専念する	その他	わからない	無回答
全体	892	43.9	32.6	8.0	2.8	2.7	5.2	4.8	
男性	389	46.3	27.5	10.3	4.4	3.1	5.1	3.3	
20歳代	32	37.5	34.4	15.6	3.1	6.3	3.1	-	
30歳代	48	33.3	39.6	10.4	8.3	6.3	2.1	-	
40歳代	43	34.9	37.2	2.3	4.7	2.3	16.3	2.3	
50歳代	52	48.1	30.8	1.9	1.9	7.7	5.8	3.8	
60歳代	86	57.0	17.4	14.0	3.5	1.2	4.7	2.3	
70歳代以上	128	49.2	23.4	12.5	4.7	0.8	3.1	6.3	
女性	503	42.1	36.6	6.2	1.6	2.4	5.2	6.0	
20歳代	26	30.8	42.3	7.7	3.8	3.8	11.5	-	
30歳代	83	39.8	48.2	2.4	1.2	3.6	4.8	-	
40歳代	91	40.7	42.9	4.4	-	3.3	8.8	-	
50歳代	72	36.1	47.2	4.2	1.4	4.2	4.2	2.8	
60歳代	124	50.0	29.0	8.1	1.6	-	1.6	9.7	
70歳代以上	107	43.0	22.4	9.3	2.8	1.9	5.6	15.0	

(2)女性の就業のあり方の時系列比較

過去2回の調査を通して、女性の就業のあり方の理想のうち、「結婚して子どもができて、職業を持ち続ける」は今回はじめて上昇し、「子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職業に就く」が減少した。

現実の働き方でも、次世代女性の望ましい働き方でも同じ傾向がある。

図表Ⅱ-69 女性と次世代女性の就業のあり方の推移



(3)女性の就業のあり方の全国(内閣府調査(平成24年度))との比較

内閣府調査(平成24年度)に類似した質問があるので比較した。調査方法、質問形式、質問文、選択肢が異なるため、類似選択肢を併置するに留めた。

図表Ⅱ-70 女性の就業のあり方の全国(内閣府調査(平成24年度))との比較

四街道市		全国	
構成比(%)		構成比(%)	
子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職業に就く	49.2	子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	30.8
結婚して子どもができて、職業を持ち続ける	23.4	子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい	47.5
子どもが生まれるまでは職業に就き、子どもが生まれたら家事や育児に専念する	10.1	子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	10.0
結婚するまでは職業に就き、結婚したら家事に専念する	5.7	結婚するまでは職業をもつ方がよい	5.6
		女性は職業をもたない方がよい	3.4
その他	1.2	その他	1.4
わからない	5.2	わからない	1.3
無回答	5.2		
合計	100.0	合計	100.0

※ 全国は内閣府世論調査「男女共同参画社会に関する世論調査」平成24年10月実施のもの。全体の母数はN=3,033。質問文と選択肢は下記のとおり

Q4 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。この中から1つだけお答えください。

- (ア) 女性は職業をもたない方がよい
- (イ) 結婚するまでは職業をもつ方がよい
- (ウ) 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
- (エ) 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
- (オ) 子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- その他
- わからない

(4)職場における性別による格差

問10 現在、仕事をしている方にうかがいます。

あなたの職場では次に掲げるようなことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください

要旨

性別による格差を感じないという人が最も多く、回答した人(仕事をしている方に伺っていることから、主婦・主夫、無職などが無回答としているため、無回答を外した場合)の半数近い人は感じていないと考えられる。

性別格差のうち「配置や仕事の与え方」「昇進、昇格」「賃金・昇給」が多くあげられている。特に男性は「配置や仕事の与え方」「昇進、昇格」が女性よりも高い。

性別格差の多くの項目は前回調査(平成19年度)よりも減少し、「性別による格差は感じない」が増加している。

職場で「性別による格差は感じない」は23.9%と最も高くなっている。性別格差があるという事柄のうち「配置や仕事の与え方」は9.4%、「昇進、昇格」8.6%、「賃金・昇給」7.3%、「募集や採用」5.8%、「雇用形態」5.7%と続いている。

ただし、仕事をしていない人を含む無回答が56.4%と過半数を占めている。

図表Ⅱ-71 職場における性別による格差

項目	回答数(件)	構成比(%)
性別による格差は感じない	213	23.9
配置や仕事の与え方に性別による格差がある	84	9.4
昇進、昇格で性別による格差がある	77	8.6
賃金・昇給で性別による格差がある	65	7.3
募集や採用に性別による格差がある	52	5.8
雇用形態に性別による偏りがある	51	5.7
時間外労働に性別による格差がある	44	4.9
深夜業に性別による格差がある	35	3.9
結婚退職や出産退職の慣例・慣行がある、または居づらい雰囲気がある	26	2.9
教育訓練や研修等に性別による格差がある	15	1.7
定年に性別による格差がある	9	1.0
住宅資金の貸付に性別による格差がある	7	0.8
無回答	503	56.4
サンプル数	892	100.0

「性別による格差は感じない」は男性(24.2%)も女性(23.7%)もほぼ同様である。性別に関係なく、50歳代より若い層が比較的高くなっている。

男性は「住宅資金の貸付に性別による格差がある」以外の全ての項目で女性よりも高くなっている。

年代別で見ると男性では20歳代、40歳代は「昇進、昇格」「賃金・昇給」「募集や採用」などが比較的高い。女性では30歳代は「配置や仕事の与え方」「昇進、昇格」で比較的高く、20歳代は「昇進、昇格」「募集や採用」「雇用形態による偏り」が比較的高くなっている。

図表Ⅱ-72 職場における性別による格差（性別・年代別）

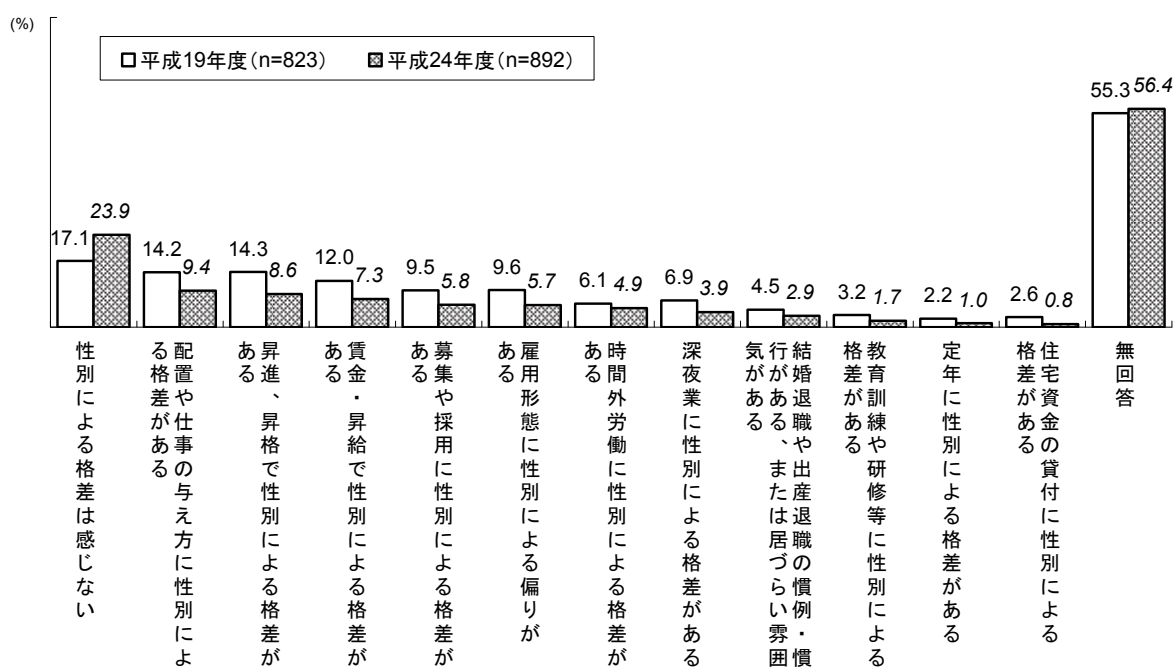
	合計	性別による格差は感じない	配置や仕事の与え方に性別による格差がある	昇進、昇格で性別による格差がある	賃金・昇給で性別による格差がある	募集や採用に性別による格差がある	雇用形態に性別による偏りがある	時間外労働に性別による格差がある	深夜業に性別による格差がある	例・慣行がある、または居づらい雰囲気がある	結婚退職や出産退職の慣行がある	教育訓練や研修等に性別による格差がある	定年に性別による格差がある	住宅資金の貸付に性別による格差がある	無回答
全体	892	23.9	9.4	8.6	7.3	5.8	5.7	4.9	3.9	2.9	1.7	1.0	0.8	56.4	
男性	計	389	24.2	13.4	10.5	8.7	7.7	7.5	8.0	7.7	3.3	2.3	1.5	0.8	50.1
	20歳代	32	34.4	18.8	21.9	15.6	12.5	12.5	9.4	12.5	6.3	3.1	-	3.1	28.1
	30歳代	48	41.7	22.9	12.5	10.4	8.3	4.2	12.5	12.5	6.3	4.2	-	-	10.4
	40歳代	43	37.2	20.9	18.6	14.0	16.3	16.3	18.6	14.0	4.7	4.7	2.3	2.3	18.6
	50歳代	52	40.4	23.1	17.3	13.5	9.6	15.4	13.5	7.7	1.9	-	5.8	-	21.2
	60歳代	86	20.9	15.1	11.6	9.3	10.5	9.3	5.8	9.3	5.8	3.5	2.3	1.2	55.8
	70歳代以上	128	6.3	0.8	0.8	2.3	0.8	-	1.6	1.6	-	0.8	-	-	89.1
女性	計	503	23.7	6.4	7.2	6.2	4.4	4.4	2.6	1.0	2.6	1.2	0.6	0.8	61.2
	20歳代	26	42.3	7.7	11.5	3.8	11.5	11.5	-	-	3.8	-	-	-	38.5
	30歳代	83	28.9	10.8	12.0	4.8	4.8	6.0	3.6	-	7.2	-	-	2.4	48.2
	40歳代	91	45.1	5.5	6.6	7.7	4.4	7.7	3.3	1.1	4.4	2.2	1.1	-	33.0
	50歳代	72	34.7	6.9	8.3	8.3	5.6	2.8	1.4	1.4	-	1.4	-	-	50.0
	60歳代	124	10.5	8.1	8.9	9.7	5.6	4.0	4.0	2.4	1.6	2.4	1.6	1.6	73.4
	70歳代以上	107	4.7	0.9	-	0.9	-	-	0.9	-	-	-	-	-	94.4

(5)職場における性別による格差の時系列比較

「性別による格差は感じない」は前回調査（平成19年度）に比べて高くなっている。

他の「配置や仕事の与え方」「昇進、昇格」「賃金・昇給」などでは前回よりも低くなった。

図表Ⅱ-73 職場における性別による格差の推移



7. 子育てについて

(1)子どもの性別と子育てのあり方

問11 あなたは子どもの性別と子育てのあり方についてどう思いますか。①～⑤の各項目について、あなたの考えに最も近いものを1つずつ選んで○をつけてください。

要 旨

子どもの性別と子育てのあり方については、「子どもには、性別に関係なく、炊事・洗濯・掃除等生活に必要な技術を身につけさせたい」「性別に関係なく、子どもの個性と意思を大事に伸ばしたい」と考える人の割合が高くなっている。

「男の子には、女の子以上に、責任感、勇気、決断力、実行力、向上心を備えることを求めたい」では、「そう思う（そう思う＋どちらかといえばそう思う）」と考える割合が6割を超えている。

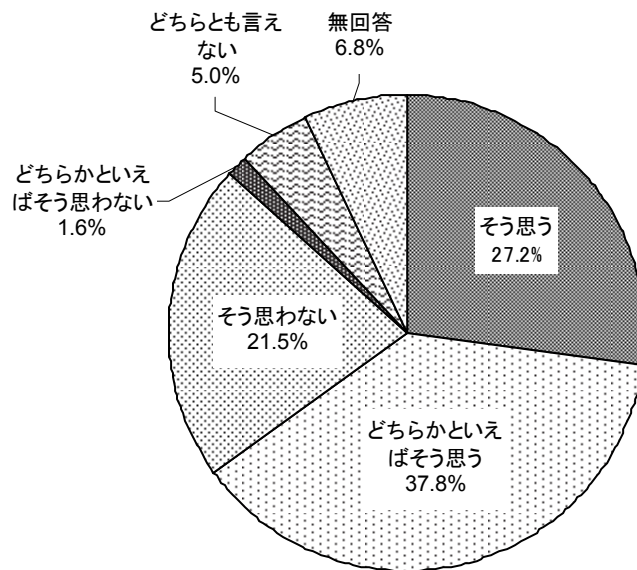
「男の子には、女の子以上に高い学歴を身につけさせたい」では、「そう思わない（そう思わない＋どちらかといえばそう思わない）」と考える割合は5割を超え最も高く、「そう思う（同）」と考える割合は3割を超えている。

「女の子には、男の子以上に、細やかな気配り、人への思いやり優しさ等を備えることを求めたい」では、「そう思う（同）」と考える割合は6割を超え高くなっている。

①男子には、女の子以上に、責任感、勇気、決断力、実行力、向上心を備えることを求めたい

「そう思う」(27.2%)と「どちらかといえばそう思う」(37.8%)の両者を合わせた割合は65.0%と高くなっている。「そう思わない」(21.5%)と「どちらかといえばそう思わない」(1.6%)の両者を合わせた割合は23.1%となっている。

図表Ⅱ-74 男子には、女の子以上に、責任感、勇気、決断力、実行力、向上心を備えることを求めたい



項目	回答数(件)	構成比(%)
そう思う	243	27.2
どちらかといえばそう思う	337	37.8
そう思わない	192	21.5
どちらかといえばそう思わない	14	1.6
どちらとも言えない	45	5.0
無回答	61	6.8
サンプル数	892	100.0

男の子に女の子以上に、責任感、勇気、決断力、実行力、向上心を備えることを求めたいの回答が「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の両者を合わせた割合では、男性は71.0%、女性は60.5%でどちらも高くなっている。また、女性は「そう思わない」(24.3%)と「どちらかといえばそう思わない」(2.0%)の両者を合わせた割合は26.3%で、男性(19.0%)よりも高くなっている。

男性はどの年代でも「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の両者を合わせた割合が70%前後と比較的高く、女性も同様だが、特に30歳代、50歳代、60歳代、70歳代以上では半数を超え、40歳代では7割を超えている。

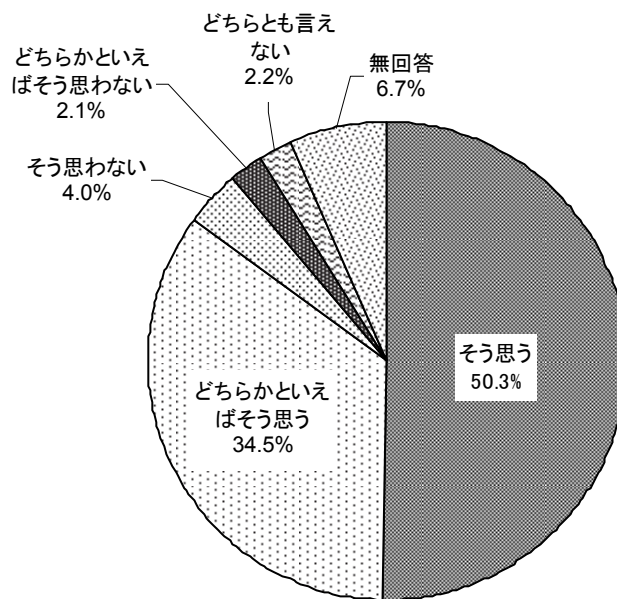
図表Ⅱ-75 男の子には、女の子以上に、責任感、勇気、決断力、実行力、向上心を備えることを求めたい（性別・年代別）

	合計	そう思う	どちらかといえば	そう思わない	どちらかといえば	どちらとも言えない	無回答	
全体	892	27.2	37.8	21.5	1.6	5.0	6.8	
男性	計	389	35.0	36.0	18.0	1.0	4.9	5.1
	20歳代	32	31.3	40.6	18.8	3.1	6.3	-
	30歳代	48	37.5	29.2	29.2	-	2.1	2.1
	40歳代	43	25.6	39.5	18.6	4.7	11.6	-
	50歳代	52	32.7	42.3	15.4	-	5.8	3.8
	60歳代	86	37.2	37.2	14.0	1.2	7.0	3.5
	70歳代以上	128	37.5	32.8	17.2	-	1.6	10.9
女性	計	503	21.3	39.2	24.3	2.0	5.2	8.2
	20歳代	26	15.4	30.8	42.3	7.7	3.8	-
	30歳代	83	20.5	36.1	33.7	3.6	6.0	-
	40歳代	91	23.1	47.3	26.4	-	2.2	1.1
	50歳代	72	19.4	44.4	25.0	1.4	6.9	2.8
	60歳代	124	16.9	41.9	18.5	1.6	8.1	12.9
	70歳代以上	107	28.0	29.9	16.8	1.9	2.8	20.6

②子どもには、性別に関係なく、炊事・洗濯・掃除等生活に必要な技術を身につけさせたい

「そう思う」(50.3%)と「どちらかといえばそう思う」(34.5%)の両者を合わせた割合は84.8%と高くなっている。

図表Ⅱ-76 子どもには、性別に関係なく、炊事・洗濯・掃除等生活に必要な技術を身につけさせたい



項目	回答数(件)	構成比(%)
そう思う	449	50.3
どちらかといえばそう思う	308	34.5
そう思わない	36	4.0
どちらかといえばそう思わない	19	2.1
どちらとも言えない	20	2.2
無回答	60	6.7
サンプル数	892	100.0

子どもには、性別に関係なく、炊事・洗濯・掃除等生活に必要な技術を身につけさせたいの回答が「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の両者を合わせた割合では、男性は82.0%、女性は87.1%でどちらも高くなっている。

男性は40歳代、50歳代で「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の両者を合わせた割合が90%以上と非常に高く、女性は20歳代から50歳代までが90%以上と非常に高くなっている。

図表Ⅱ-77 子どもには、性別に関係なく、炊事・洗濯・掃除等生活に必要な技術を身につけさせたい（性別・年代別）

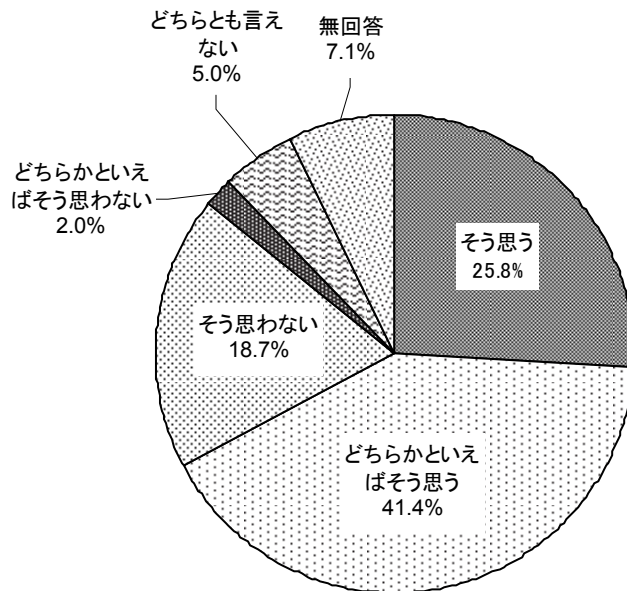
	合計	そう思う	どちらかといえば そう思う	そう思わない	どちらかといえば 思わない	どちらとも言えない	無回答
全体	892	50.3	34.5	4.0	2.1	2.2	6.7
男性	計	389	42.7	39.3	6.2	3.3	5.4
	20歳代	32	56.3	31.3	9.4	-	-
	30歳代	48	50.0	35.4	8.3	2.1	2.1
	40歳代	43	55.8	37.2	2.3	2.3	-
	50歳代	52	48.1	44.2	3.8	-	3.8
	60歳代	86	32.6	41.9	5.8	5.8	4.7
	70歳代以上	128	36.7	39.8	7.0	4.7	10.9
女性	計	503	56.3	30.8	2.4	1.2	7.8
	20歳代	26	69.2	26.9	3.8	-	-
	30歳代	83	68.7	28.9	1.2	-	-
	40歳代	91	68.1	27.5	2.2	1.1	1.1
	50歳代	72	63.9	27.8	-	1.4	4.2
	60歳代	124	46.8	32.3	4.0	1.6	12.1
	70歳代以上	107	39.3	36.4	2.8	1.9	18.7

③女の子には、男の子以上に、細やかな気配り、人への思いやり優しさ等を備えることを求めたい

「そう思う」(25.8%)と「どちらかといえばそう思う」(41.4%)の両者を合わせた割合は67.2%となっている。

一方で「そう思わない」(18.7%)と「どちらかといえばそう思わない」(2.0%)の両者を合わせた割合は20.7%となっている。

図表Ⅱ-78 女の子には、男の子以上に、細やかな気配り、人への思いやり優しさ等を備えることを求めたい



項目	回答数(件)	構成比(%)
そう思う	230	25.8
どちらかといえばそう思う	369	41.4
そう思わない	167	18.7
どちらかといえばそう思わない	18	2.0
どちらとも言えない	45	5.0
無回答	63	7.1
サンプル数	892	100.0

女の子には、男の子以上に、細やかな気配り、人への思いやり優しさ等を備えることを求めることについて、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の両者を合わせた割合では男性(73.0%)は女性(62.6%)よりも高くなっている。一方で、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の両者を合わせた割合では、女性(24.5%)が男性(15.9%)よりも8.6ポイント高くなっている。

男性は50歳代以上で「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の両者を合わせた割合が8割前後と高く、女性も20歳代を除いた年代で高くなっている。

「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の両者を合わせた割合では、男女共に20歳代、30歳代が高くなっている。

図表Ⅱ-79 女の子には、男の子以上に、細やかな気配り、人への思いやり優しさ等を備えたい（性別・年代別）

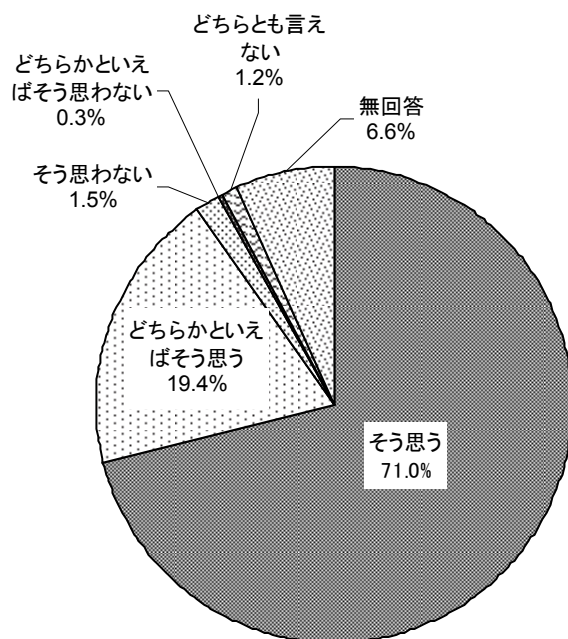
	合計	そう思う	どちらかといえば そう思う	そう思わない	どちらかといえば 思わない	どちらとも言えない	無回答	
全体	892	25.8	41.4	18.7	2.0	5.0	7.1	
男性	計	389	32.9	40.1	14.4	1.5	5.4	5.7
	20歳代	32	21.9	46.9	25.0	3.1	3.1	-
	30歳代	48	41.7	22.9	25.0	2.1	6.3	2.1
	40歳代	43	34.9	32.6	16.3	2.3	14.0	-
	50歳代	52	32.7	48.1	11.5	-	3.8	3.8
	60歳代	86	33.7	44.2	8.1	2.3	7.0	4.7
	70歳代以上	128	31.3	41.4	12.5	0.8	2.3	11.7
女性	計	503	20.3	42.3	22.1	2.4	4.8	8.2
	20歳代	26	7.7	42.3	34.6	11.5	3.8	-
	30歳代	83	19.3	36.1	37.3	2.4	4.8	-
	40歳代	91	19.8	53.8	22.0	2.2	1.1	1.1
	50歳代	72	19.4	41.7	25.0	2.8	8.3	2.8
	60歳代	124	20.2	46.0	15.3	0.8	5.6	12.1
	70歳代以上	107	25.2	33.6	13.1	1.9	4.7	21.5

④性別に関係なく、子どもの個性と意思を大事に伸ばしたい

「そう思う」(71.0%)と「どちらかといえばそう思う」(19.4%)の両者を合わせた割合では90.4%と非常に高くなっている。

一方で、そう思わない(1.5%)と「どちらかといえばそう思わない」(0.3%)の両者を合わせた割合は1.8%と低くなっている。

図表Ⅱ-80 性別に関係なく、子どもの個性と意思を大事に伸ばしたい



項目	回答数(件)	構成比(%)
そう思う	633	71.0
どちらかといえばそう思う	173	19.4
そう思わない	13	1.5
どちらかといえばそう思わない	3	0.3
どちらとも言えない	11	1.2
無回答	59	6.6
サンプル数	892	100.0

男女共に、子どもの個性と意思を大事に伸ばすことについて、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の両者を合わせた割合では男性は89.5%、女性は91.1%でどちらも非常に高くなっている。またどの年代でも90%前後と高くなっている。

図表Ⅱ-81 性別に関係なく、子どもの個性と意思を大事に伸ばしたい
(性別・年代別)

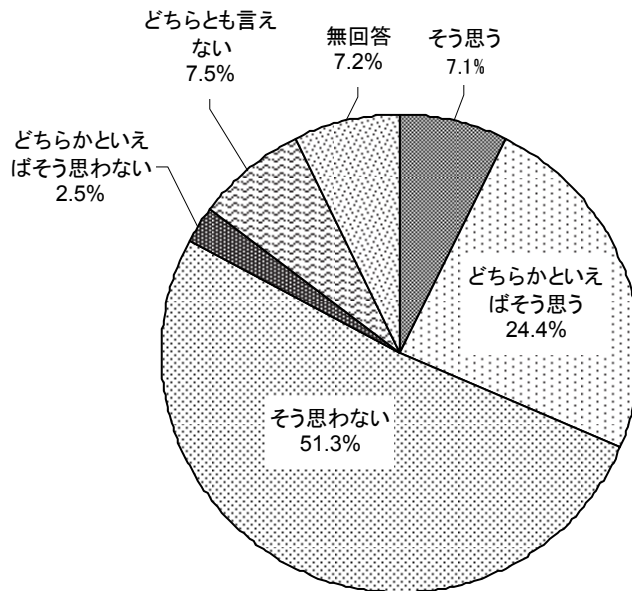
	合計	そう思う	どちらかといえば そう思う	そう思わない	どちらかといえば 思わない	どちらとも言えない	無回答	
全体	892	71.0	19.4	1.5	0.3	1.2	6.6	
男性	計	389	66.1	23.4	2.3	-	2.3	5.9
	20歳代	32	68.8	25.0	6.3	-	-	-
	30歳代	48	64.6	25.0	2.1	-	6.3	2.1
	40歳代	43	58.1	37.2	2.3	-	2.3	-
	50歳代	52	71.2	21.2	-	-	3.8	3.8
	60歳代	86	65.1	25.6	3.5	-	-	5.8
	70歳代以上	128	67.2	17.2	1.6	-	2.3	11.7
女性	計	503	74.8	16.3	0.8	0.6	0.4	7.2
	20歳代	26	73.1	11.5	7.7	7.7	-	-
	30歳代	83	88.0	12.0	-	-	-	-
	40歳代	91	79.1	18.7	1.1	-	-	1.1
	50歳代	72	75.0	18.1	-	-	2.8	4.2
	60歳代	124	71.0	17.7	-	0.8	-	10.5
	70歳代以上	107	65.4	15.9	0.9	-	-	17.8

⑤男の子には、女の子以上に高い学歴を身につけさせたい

「そう思う」(7.1%)と「どちらかといえばそう思う」(24.4%)の両者を合わせた割合は31.5%となっている。

一方で「そう思わない」(51.3%)と「どちらかといえばそう思わない」(2.5%)の両者を合わせた割合は53.8%となっている。

図表Ⅱ-82 男の子には、女の子以上に高い学歴を身につけさせたい



項目	回答数(件)	構成比(%)
そう思う	63	7.1
どちらかといえばそう思う	218	24.4
そう思わない	458	51.3
どちらかといえばそう思わない	22	2.5
どちらとも言えない	67	7.5
無回答	64	7.2
サンプル数	892	100.0

男の子には、女の子以上に高い学歴を身につけさせることについて、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の両者を合わせた割合では男性31.4%、女性31.6%で、男性女性共にほぼ同様となっている。一方、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の両者を合わせた割合は男性54.8%、女性53.1%で男女ほぼ同じ割合となっている。

年代別で見ると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の両者を合わせた割合では男性は40歳代、60歳代、70歳代では3割を超えている。女性では40歳代、50歳代、70歳代で3割を超えている。

「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の両者を合わせた割合は、男性は20歳代が8割以上、女性では20歳代、30歳代が6割以上で高くなっている。

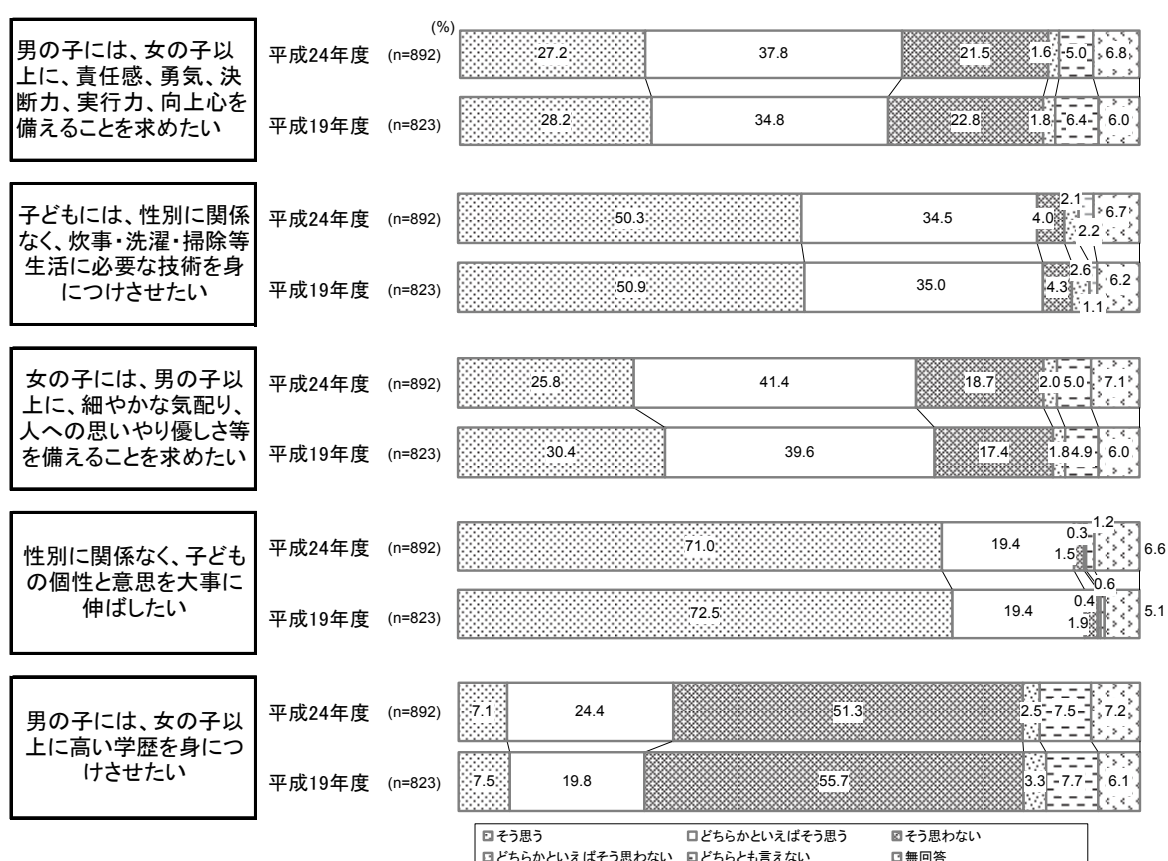
図表Ⅱ-83 男の子には、女の子以上に高い学歴を身につけさせたい
(性別・年代別)

	合計	そう思う	どちらかといえば そう思う	そう思わない	どちらかといえば そう思わない	どちらとも言えない	無回答	
全体	892	7.1	24.4	51.3	2.5	7.5	7.2	
男性	計	389	9.0	22.4	52.7	2.1	8.2	5.7
	20歳代	32	6.3	6.3	81.3	-	6.3	-
	30歳代	48	4.2	22.9	58.3	-	12.5	2.1
	40歳代	43	11.6	23.3	53.5	4.7	7.0	-
	50歳代	52	5.8	13.5	65.4	3.8	7.7	3.8
	60歳代	86	9.3	25.6	46.5	3.5	10.5	4.7
	70歳代以上	128	11.7	27.3	42.2	0.8	6.3	11.7
女性	計	503	5.6	26.0	50.3	2.8	7.0	8.3
	20歳代	26	-	19.2	73.1	3.8	3.8	-
	30歳代	83	1.2	26.5	62.7	4.8	4.8	-
	40歳代	91	6.6	36.3	49.5	2.2	4.4	1.1
	50歳代	72	6.9	25.0	56.9	2.8	5.6	2.8
	60歳代	124	10.5	17.7	43.5	3.2	12.1	12.9
	70歳代以上	107	2.8	29.0	39.3	0.9	6.5	21.5

(2)子どもの性別と子育てのあり方の時系列比較

5つの子育てのあり方は、前回調査（平成19年度）に比べてそれほど変わった点は見られないが、「男の子には、女の子以上に高い学歴を身につけさせたい」について、「そう思う（そう思う+どちらかといえばそう思う）」はやや上昇した。「男の子には、女の子以上に、責任感、勇気、決断力、実行力、向上心を備えることを求めたい」について、「そう思う（同）」は、やや上昇の傾向があり、「女の子には、男の子以上に、細やかな気配り、人への思いやり優しさ等を備えることを求めたい」について、「そう思う（同）」は、減少する傾向がそれぞれ見受けられる。

図表Ⅱ-84 子どもの性別と子育てのあり方の推移



8. 女性の人権について

(1)女性の人権が侵害されていると感じるとき

問12 「女性の人権が侵害されている」と感じるのはどのような場合ですか。
あてはまるものすべてに○をつけてください。

要 旨

女性の人権が侵害されていると感じるときは、「レイプ、痴漢等の犯罪」が最も高く、次いで「職場や学校等でのセクシュアル・ハラスメント」「ストーカー等の女性へのつきまとい行為」「家庭での夫からの妻への暴力」と続いている。

男性は「ストーカー等の女性へのつきまとい行為」「家庭での夫からの妻への暴力」などが女性よりも高くなっている。女性は「家事労働の女性への偏り」「ポルノグラフィ、雑誌や広告のヌード写真等、女性を性的対象とするような表現」などが男性よりも高い。

人権の考え方が性別によって異なり、人権を侵害されることに対する受け止め方が異なっていることがわかる。

図表Ⅱ-85 女性の人権が侵害されていると感じるとき

項目	回答数(件)	構成比(%)
レイプ(強姦(ごうかん)、痴漢等の犯罪)	647	72.5
職場や学校等でのセクシュアル・ハラスメント(性的嫌がらせ)	564	63.2
ストーカー等の女性へのつきまとい行為	504	56.5
家庭内での夫(男性パートナー)からの妻(女性パートナー)への暴力	476	53.4
職場での男性との待遇の差	371	41.6
買春・売春・援助交際	340	38.1
家事労働の女性への偏り	328	36.8
夫婦間での一方的な性関係の強要	279	31.3
風俗店等の性産業	263	29.5
ポルノグラフィ、雑誌や広告のヌード写真等、女性を性的対象とするような表現	258	28.9
「婦人」「未亡人」「女流」等女性にだけ用いられる言葉	102	11.4
その他	19	2.1
無回答	76	8.5
サンプル数	892	100.0

女性の人権が侵害されていると感じるときは、「レイプ、痴漢等の犯罪」が女性では、ほぼ全ての年代で7割前後と高く、特に50歳代では80%を超えている。次いで「職場や学校等でのセクシュアル・ハラスメント」63.0%、「ストーカー等の女性へのつきまとい行為」52.7%、「家庭での夫からの妻への暴力」52.3%と続いている

男性は「ストーカー等の女性へのつきまとい行為」などが女性よりも高く、女性は「家事労働の女性への偏り」「ポルノグラフィ、雑誌や広告のヌード写真等、女性を性的対象とするような表現」などが男性よりも高くなっている。

図表Ⅱ-86 女性の人権が侵害されていると感じるとき（性別・年代別）

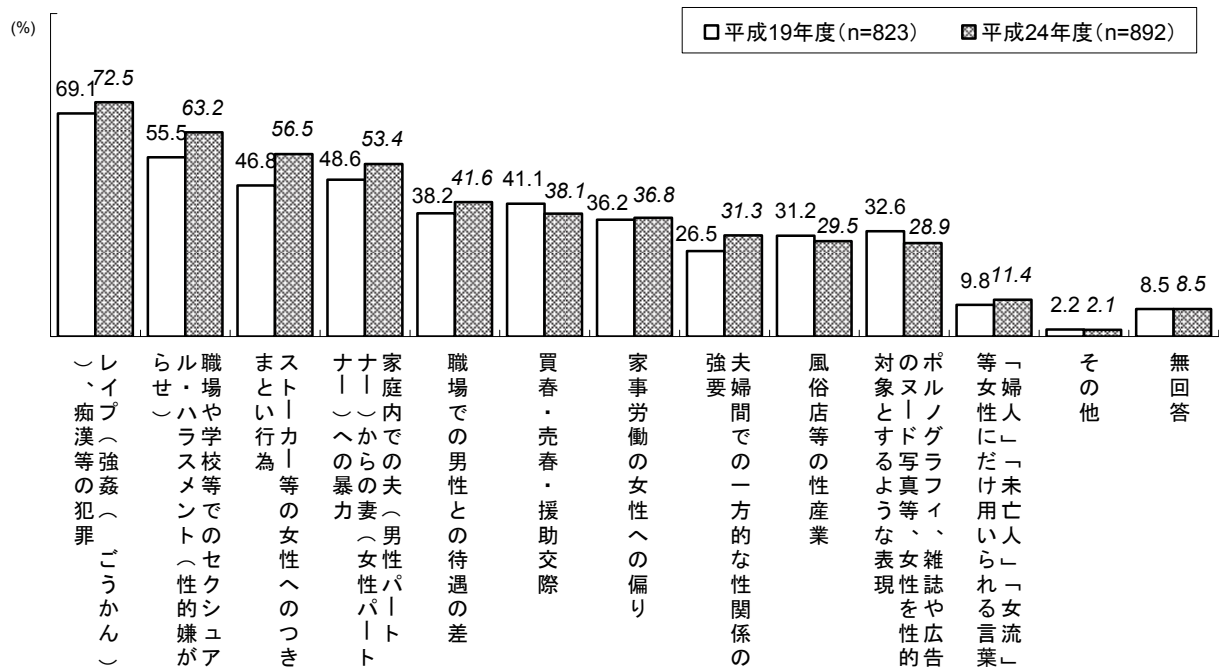
	合計	レイプ等の犯罪（強姦（ごうかん）、痴漢）	職場や学校等でのセクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）	ストーカー等の女性へのつきまとい行為	家庭内での夫（男性パートナー）からの妻（女性パートナー）への暴力	職場での男性との待遇の差	買春・売春・援助交際	家事労働の女性への偏り	夫婦間での一方的な性関係の強要	風俗店等の性産業	ポルノグラフィ、雑誌や広告のヌード写真等、女性を性的対象とするような表現	「一人」「未亡人」「女流」等にだけ用いられる言葉	その他	無回答	
全体	892	72.5	63.2	56.5	53.4	41.6	38.1	36.8	31.3	29.5	28.9	11.4	2.1	8.5	
男性	計	389	70.2	63.5	61.4	54.8	39.1	36.8	30.8	29.6	26.7	24.4	9.3	2.3	9.8
	20歳代	32	71.9	71.9	59.4	59.4	46.9	34.4	28.1	34.4	21.9	15.6	15.6	-	3.1
	30歳代	48	66.7	60.4	58.3	58.3	35.4	27.1	29.2	33.3	22.9	14.6	8.3	4.2	10.4
	40歳代	43	74.4	62.8	65.1	69.8	30.2	44.2	30.2	41.9	23.3	27.9	11.6	-	4.7
	50歳代	52	82.7	67.3	63.5	50.0	30.8	32.7	38.5	26.9	19.2	21.2	7.7	3.8	3.8
	60歳代	86	73.3	62.8	64.0	47.7	34.9	34.9	29.1	25.6	27.9	25.6	9.3	3.5	7.0
	70歳代以上	128	62.5	61.7	59.4	53.9	47.7	41.4	30.5	26.6	32.8	29.7	7.8	1.6	17.2
女性	計	503	74.4	63.0	52.7	52.3	43.5	39.2	41.4	32.6	31.6	32.4	13.1	2.0	7.6
	20歳代	26	73.1	65.4	53.8	65.4	42.3	34.6	38.5	19.2	19.2	11.5	11.5	3.8	7.7
	30歳代	83	74.7	68.7	53.0	49.4	49.4	30.1	49.4	30.1	15.7	16.9	13.3	1.2	4.8
	40歳代	91	79.1	65.9	56.0	53.8	34.1	39.6	47.3	35.2	30.8	33.0	13.2	2.2	3.3
	50歳代	72	80.6	66.7	52.8	58.3	41.7	41.7	34.7	36.1	26.4	29.2	11.1	1.4	4.2
	60歳代	124	69.4	58.9	47.6	47.6	42.7	40.3	36.3	27.4	37.9	37.9	10.5	1.6	9.7
	70歳代以上	107	72.0	57.9	55.1	51.4	49.5	43.9	41.1	39.3	43.9	44.9	17.8	2.8	13.1

(2)女性の人権が侵害されていると感じるときの時系列比較

女性の人権が侵害されていると感じるときのうち、「レイプ、痴漢等の犯罪」「職場や学校等でのセクシュアル・ハラスメント」「ストーカー等の女性へのつきまとい行為」「家庭での夫からの妻への暴力」などは前回調査（平成19年度）よりも高くなっている。

一方、「買春・売春・援助交際」「ポルノグラフィ、雑誌や広告のヌード写真等、女性を性的対象とするような表現」などは減少している。

図表Ⅱ-87 「女性の人権が侵害されていると感じるとき」の推移



(3)セクシュアル・ハラスメントの経験の有無

問13 セクシュアル・ハラスメントについてうかがいます。お答え頂ける方のみ、回答をお願いします。

セクシュアル・ハラスメントは、社会的な力関係を濫用して相手の心と身体を傷つけ、ひいては、働く権利や学ぶ権利をも脅かす行為です。次に示す①～⑩は、セクシュアル・ハラスメントと見なされます。あなたは、これまでに、職場、学校、地域それぞれの場面において、①～⑩のような経験をして不快・苦痛な思いをしたことがあれば、あてはまるものすべてに○をつけてください。

要旨

セクシュアル・ハラスメントの職場での経験率のうち「宴会でお酌やデュエットを強要された」「不必要に体を触られた」「体を触られた」が高くなっている。女性30歳代に限ると「宴会でお酌やデュエットを強要された」は28.9%に達している。

職場でのセクシャル・ハラスメントの経験のうち、「宴会でお酌やデュエットを強要された」が8.5%で最も高くなっている。次いで「不必要に体を触られた」が7.0%、「性的な冗談や会話につきあわされた」が6.5%となっている。

学校での経験では「不必要に体を触られた」が1.5%で最も高く、次いで「しつこく容姿のことを言われた」が1.1%と続いている。

地域活動の場での経験でも、「不必要に体を触られた」が1.9%で最も高く、次いで「性的な冗談や会話につきあわされた」が1.0%となっている。

図表Ⅱ-88 セクシュアル・ハラスメントの経験の有無

項目	職場で		学校で		地域活動の場で	
	回答数(件)	構成比(%)	回答数(件)	構成比(%)	回答数(件)	構成比(%)
宴会でお酌やデュエットを強要された	76	8.5	2	0.2	6	0.7
不必要に体を触られた	62	7.0	13	1.5	17	1.9
性的な冗談や会話につきあわされた	58	6.5	6	0.7	9	1.0
交際や性的関係をせまられた	27	3.0	2	0.2	4	0.4
しつこく容姿のことを言われた	24	2.7	10	1.1	3	0.3
異性との交際関係や結婚、出産についてたびたび聞かれた	22	2.5	4	0.4	5	0.6
メールに、「かわいいね」とか「食事に付き合ってください」といったことが送られてきた	18	2.0	3	0.3	2	0.2
性的なうわさを流された	10	1.1	5	0.6	4	0.4
交際や性的関係を拒否して、不当な扱いや嫌がらせを受けた	9	1.0	2	0.2	1	0.1
ヌード写真等を故意に見せられた	6	0.7	1	0.1	3	0.3
無回答	753	84.4	864	96.9	865	97.0
サンプル数	892	100.0	892	100.0	892	100.0

職場で「不必要に体を触られた」「宴会でお酌やデュエットを強要された」「性的な冗談や会話につきあわされた」など全ての項目で女性の経験は男性よりも高くなっている。

学校での経験も全て男性よりも女性は高くなっている。

地域活動の場での経験は「メールに、「かわいいね」とか「食事に付き合っ」といったことが送られてきた」「交際や性的関係を拒否して、不当な扱いや嫌がらせを受けた」を除く他の項目で、男性より女性が高くなっている。

図表Ⅱ-89 セクシュアル・ハラスメントの経験の有無（性別・年代別）

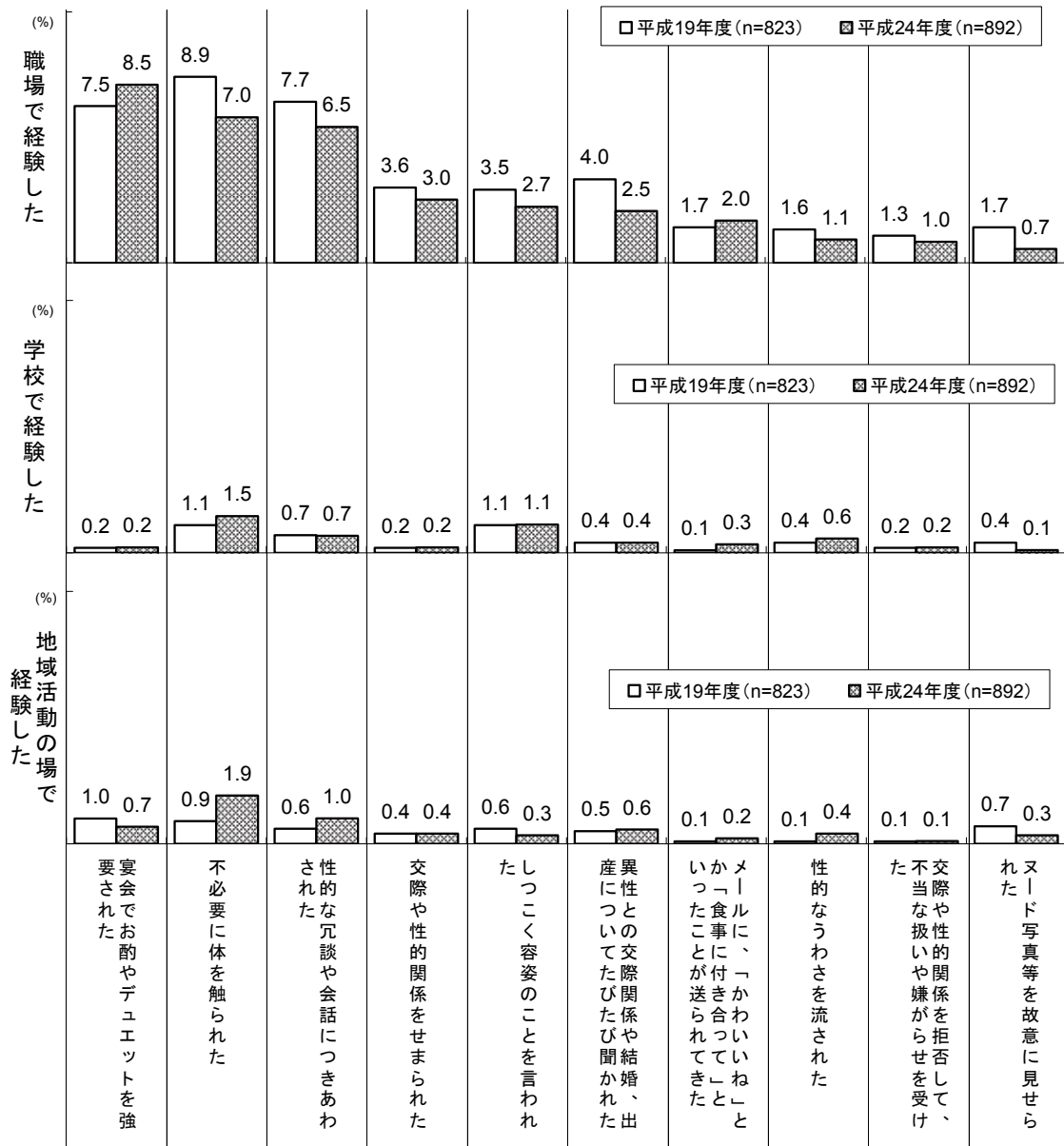
		合計	宴会でお酌やデュエットを強要された	不必要に体を触られた	性的な冗談や会話につきあわされた	交際や性的関係をせまられた	しつこく容姿のことを言われた	異性との交際関係や結婚、出産についてたびたび聞かれた	メールに、「かわいいね」とか「食事に付き合っ」といったことが送られてきた	性的なうわさを流された	不当な扱いや嫌がらせを受けた	交際や性的関係を拒否して、	た	無回答
職場で経験した	全体	892	8.5	7.0	6.5	3.0	2.7	2.5	2.0	1.1	1.0	0.7		84.4
	計	389	2.1	0.5	1.5	-	1.0	-	0.3	0.3	-	-	-	96.7
	20歳代	32	3.1	3.1	6.3	1.0	6.3	-	-	-	-	-	-	90.6
	30歳代	48	2.1	2.1	4.2	-	4.2	-	2.1	-	-	-	-	91.7
	40歳代	43	2.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	97.7
	50歳代	52	5.8	-	3.8	-	-	-	-	1.9	-	-	-	94.2
	60歳代	86	1.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	98.8
	70歳代以上	128	0.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	99.2
	女性計	503	13.5	11.9	10.3	5.4	4.0	4.4	3.4	1.8	1.8	1.2		75.0
	20歳代	26	15.4	7.7	3.8	-	3.8	3.8	-	-	-	-	-	76.9
	30歳代	83	28.9	24.1	28.9	16.9	12.0	13.3	14.5	7.2	6.0	3.6		48.2
	40歳代	91	17.6	22.0	12.1	6.6	4.4	6.6	4.4	2.2	3.3	2.2		65.9
	50歳代	72	18.1	15.3	11.1	5.6	2.8	4.2	-	-	1.4	1.4		68.1
	60歳代	124	7.3	4.0	4.8	2.4	2.4	0.8	-	0.8	-	-		85.5
70歳代以上	107	1.9	1.9	1.9	-	-	-	-	0.9	-	-		95.3	
学校で経験した	全体	892	0.2	1.5	0.7	0.2	1.1	0.4	0.3	0.6	0.2	0.1		96.9
	計	389	-	0.5	0.5	-	0.3	-	-	-	-	-		98.7
	20歳代	32	-	6.3	-	-	-	-	-	-	-	-		93.8
	30歳代	48	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		100.0
	40歳代	43	-	-	-	-	2.3	-	-	-	-	-		97.7
	50歳代	52	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		100.0
	60歳代	86	-	-	2.3	-	-	-	-	-	-	-		97.7
	70歳代以上	128	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		100.0
	女性計	503	0.4	2.2	0.8	0.4	1.8	0.8	0.6	1.0	0.4	0.2		95.4
	20歳代	26	-	3.8	-	-	3.8	-	3.8	-	-	3.8		92.3
	30歳代	83	1.2	4.8	1.2	1.2	6.0	1.2	1.2	4.8	1.2	-		89.2
	40歳代	91	1.1	1.1	2.2	-	1.1	1.1	1.1	-	-	-		95.6
	50歳代	72	-	1.4	1.4	-	1.4	-	-	-	-	-		95.8
	60歳代	124	-	0.8	-	-	0.8	-	-	-	-	-		98.4
70歳代以上	107	-	2.8	-	0.9	-	1.9	-	0.9	0.9	-		97.2	
地域活動の場で経験した	全体	892	0.7	1.9	1.0	0.4	0.3	0.6	0.2	0.4	0.1	0.3		97.0
	計	389	0.5	0.8	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3		99.0
	20歳代	32	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		100.0
	30歳代	48	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		100.0
	40歳代	43	-	2.3	-	-	-	-	-	-	-	-		97.7
	50歳代	52	3.8	3.8	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9		94.2
	60歳代	86	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		100.0
	70歳代以上	128	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		100.0
	女性計	503	0.8	2.8	1.6	0.6	0.4	0.8	0.2	0.6	-	0.4		95.4
	20歳代	26	-	3.8	-	-	-	3.8	-	-	-	-		96.2
	30歳代	83	1.2	4.8	-	1.2	1.2	-	-	-	-	-		94.0
	40歳代	91	-	2.2	1.1	-	1.1	1.1	1.1	1.1	-	-		96.7
	50歳代	72	-	2.8	-	-	-	-	-	-	-	-		97.2
	60歳代	124	1.6	2.4	3.2	-	-	0.8	-	1.6	-	-		93.5
70歳代以上	107	0.9	1.9	2.8	1.9	-	0.9	-	-	-	1.9		96.3	

(4)セクシュアル・ハラスメントの経験の有無の時系列比較

職場での経験のうち、「宴会でお酌やデュエットを強要された」は前回調査（平成19年度）に比べて高くなっている。「不必要に体を触られた」「性的な冗談や会話につきあわされた」などは低くなっている。

地域活動の場では「不必要に体を触られた」「性的な冗談や会話につきあわされた」などは前回調査（平成19年度）に比べて高く、「宴会でお酌やデュエットを強要された」が低くなっている。

図表 II-90 セクシュアル・ハラスメントの経験の有無の推移



(5)ドメスティック・バイオレンス(DV)の経験の有無

問14. ドメスティック・バイオレンス(DV)についてうかがいます。お答え頂ける方のみ、回答をお願いします。ドメスティック・バイオレンスは、夫婦や恋人等近い関係の中での暴力、すなわち相手を傷つける強制を言います。あなたは配偶者や恋人から暴力を受けたことがありますか。①～④の各項目について、1つずつ選んで○をつけてください。(それぞれ1つずつ選択)

要旨

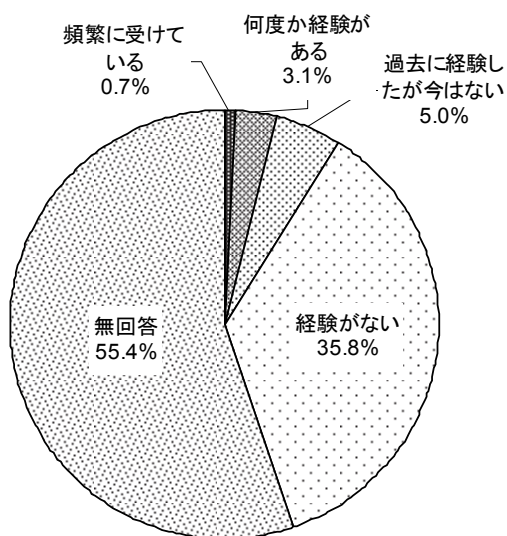
女性は全ての暴力で過去に経験した人の割合が高く、また、ドメスティック・バイオレンス(DV)は20歳代、30歳代が比較的高いことが特徴である。前回調査(平成19年度)に比べて経験者の割合は低くなっている。

男性の70%以上がこの問いに回答していないことに留意する必要がある。

①精神的な暴力

精神的な暴力(無視する、なじる、おとしめる、おどす、嫌がらせをする、つきまとう、行動や交友関係等を監視したり、禁止する等)を受けた経験で、「頻繁に受けている」は0.7%となっている。「何度か経験がある」は3.1%。「過去に経験したが今はない」は5.0%で、過去も含めて経験がある人の割合は8.8%となっている。また、「経験がない」は35.8%となっている。

図表Ⅱ-91 精神的な暴力を受けた経験の有無

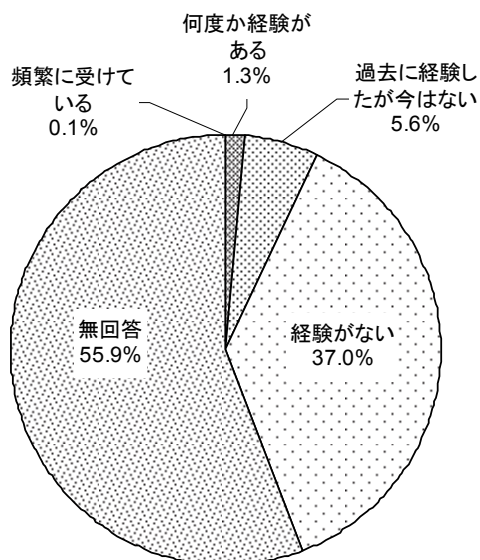


項目	回答数(件)	構成比(%)
頻繁に受けている	6	0.7
何度か経験がある	28	3.1
過去に経験したが今はない	45	5.0
経験がない	319	35.8
無回答	494	55.4
サンプル数	892	100.0

②肉体的な暴力

肉体的な暴力（殴る、蹴る、ものを壊す等）を受けた経験では、「頻繁に受けている」は0.1%、「何らかの経験がある」1.3%、「過去に経験したが今はない」は5.6%で、過去も含め経験がある人の割合は7.0%となっている。また、「経験がない」は37.0%となっている。

図表Ⅱ-92 肉体的な暴力を受けた経験の有無

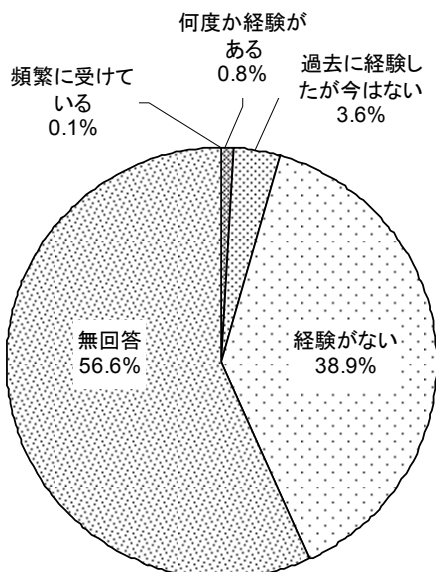


項目	回答数(件)	構成比(%)
頻繁に受けている	1	0.1
何らかの経験がある	12	1.3
過去に経験したが今はない	50	5.6
経験がない	330	37.0
無回答	499	55.9
サンプル数	892	100.0

③性的な暴力

性的な暴力（望まない性行為の強要、避妊への非協力等）を受けた経験では「頻繁に受けている」は0.1%、「何らかの経験がある」は0.8%、「過去に経験したが今はない」は3.6%、過去も含めて「経験がある」の合計は4.5%となっている。また、「経験がない」は38.9%となっている。

図表Ⅱ-93 性的な暴力を受けた経験の有無

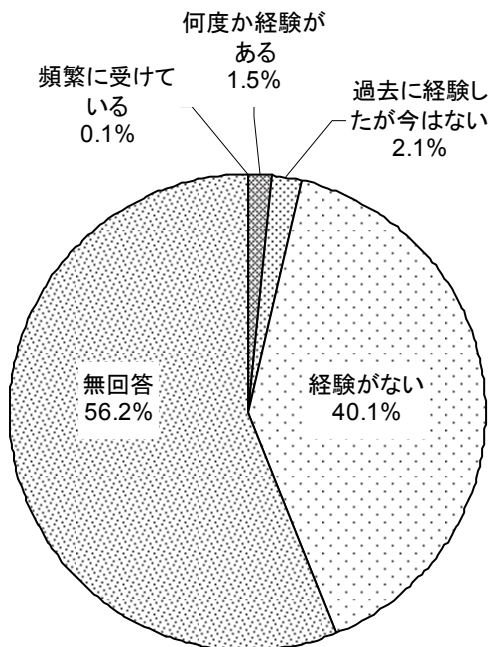


項目	回答数(件)	構成比(%)
頻繁に受けている	1	0.1
何らかの経験がある	7	0.8
過去に経験したが今はない	32	3.6
経験がない	347	38.9
無回答	505	56.6
サンプル数	892	100.0

④経済的な暴力

経済的な暴力（共同生活に必要な費用を出さない、借金の返済を押しつける等）を受けた経験では「頻繁に受けている」は0.1%、「何らかの経験がある」は1.5%、「過去に経験したが今はない」は2.1%で、過去も含めて経験がある人の割合は3.7%となっている。また、「経験がない」は40.1%となっている。

図表Ⅱ-94 経済的な暴力を受けた経験の有無



項目	回答数(件)	構成比(%)
頻繁に受けている	1	0.1
何らかの経験がある	13	1.5
過去に経験したが今はない	19	2.1
経験がない	358	40.1
無回答	501	56.2
サンプル数	892	100.0

女性に限定してみると、経験者では「精神的な暴力」12.6%、「肉体的な暴力」10.7%、「性的な暴力」7.4%、「経済的な暴力」6.0%となっている。精神的、肉体的、性的な暴力を「過去に経験した」は20歳代、30歳代が比較的多く、「経済的な暴力」を「過去に経験した」は30歳代、40歳代で多くなっている。

図表Ⅱ-95 ドメスティック・バイオレンスを受けた経験の有無(性別・年代別)

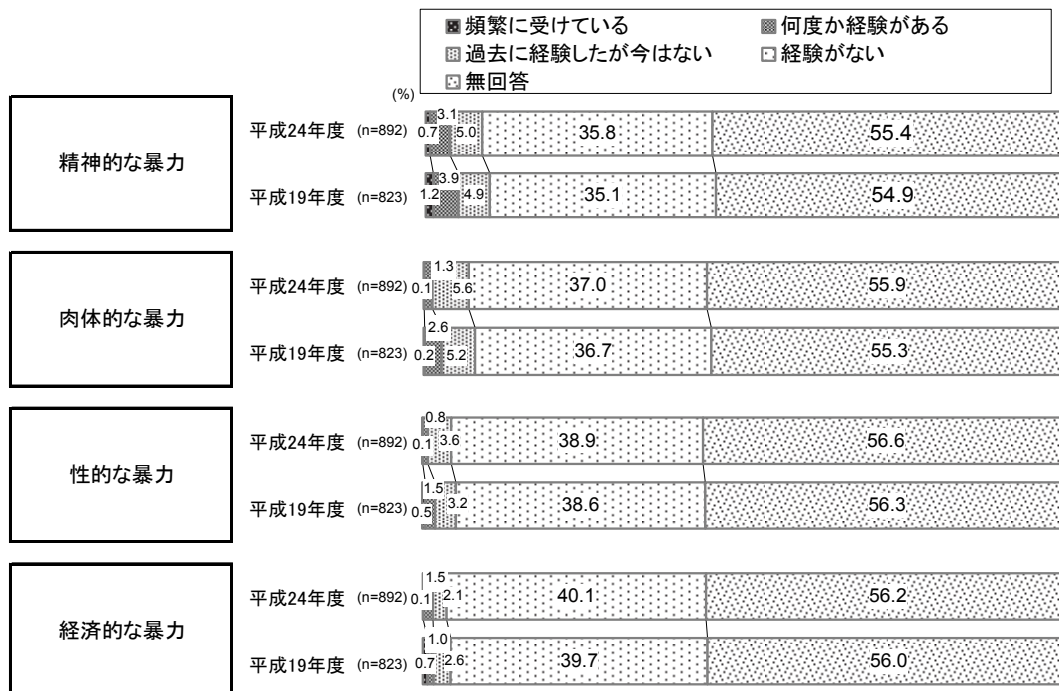
	精神的な暴力						肉体的な暴力					
	合計	頻繁に受けている	何度か経験がある	過去に経験した	経験がない	無回答	合計	頻繁に受けている	何度か経験がある	過去に経験した	経験がない	無回答
全体	892	0.7	3.1	5.0	35.8	55.4	892	0.1	1.3	5.6	37.0	55.9
男性	389	0.8	1.5	1.8	24.4	71.5	389	-	0.8	1.5	25.4	72.2
計	32	-	-	-	37.5	62.5	32	-	-	-	37.5	62.5
20歳代	48	-	2.1	4.2	33.3	60.4	48	-	-	4.2	35.4	60.4
30歳代	43	-	4.7	4.7	27.9	62.8	43	-	-	2.3	32.6	65.1
40歳代	52	1.9	1.9	1.9	26.9	67.3	52	-	1.9	1.9	26.9	69.2
50歳代	86	2.3	2.3	-	20.9	74.4	86	-	2.3	-	22.1	75.6
60歳代	128	-	-	1.6	18.0	80.5	128	-	-	1.6	18.0	80.5
70歳代以上	503	0.6	4.4	7.6	44.5	42.9	503	0.2	1.8	8.7	45.9	43.3
女性	26	-	3.8	11.5	34.6	50.0	26	-	3.8	7.7	38.5	50.0
計	83	-	4.8	19.3	45.8	30.1	83	-	-	19.3	50.6	30.1
20歳代	91	-	4.4	8.8	52.7	34.1	91	-	2.2	7.7	57.1	33.0
30歳代	72	-	2.8	4.2	61.1	31.9	72	-	2.8	9.7	55.6	31.9
40歳代	124	0.8	6.5	3.2	41.9	47.6	124	-	1.6	6.5	42.7	49.2
50歳代	107	1.9	2.8	3.7	30.8	60.7	107	0.9	1.9	3.7	31.8	61.7
60歳代												
70歳代以上												

	性的な暴力						経済的な暴力					
	合計	頻繁に受けている	何度か経験がある	過去に経験した	経験がない	無回答	合計	頻繁に受けている	何度か経験がある	過去に経験した	経験がない	無回答
全体	892	0.1	0.8	3.6	38.9	56.6	892	0.1	1.5	2.1	40.1	56.2
男性	389	0.3	0.3	0.3	26.7	72.5	389	0.3	-	0.5	27.0	72.2
計	32	-	-	-	37.5	62.5	32	-	-	-	37.5	62.5
20歳代	48	-	-	2.1	37.5	60.4	48	-	-	2.1	37.5	60.4
30歳代	43	-	-	-	34.9	65.1	43	-	-	-	34.9	65.1
40歳代	52	-	1.9	-	28.8	69.2	52	-	-	-	30.8	69.2
50歳代	86	1.2	-	-	23.3	75.6	86	1.2	-	-	23.3	75.6
60歳代	128	-	-	-	18.8	81.3	128	-	-	0.8	18.8	80.5
70歳代以上	503	-	1.2	6.2	48.3	44.3	503	-	2.6	3.4	50.3	43.7
女性	26	-	-	11.5	38.5	50.0	26	-	-	3.8	46.2	50.0
計	83	-	1.2	9.6	57.8	31.3	83	-	2.4	4.8	61.4	31.3
20歳代	91	-	2.2	5.5	59.3	33.0	91	-	2.2	5.5	58.2	34.1
30歳代	72	-	2.8	4.2	59.7	33.3	72	-	4.2	1.4	62.5	31.9
40歳代	124	-	0.8	7.3	41.1	50.8	124	-	3.2	3.2	46.0	47.6
50歳代	107	-	-	2.8	34.6	62.6	107	-	1.9	1.9	32.7	63.6
60歳代												
70歳代以上												

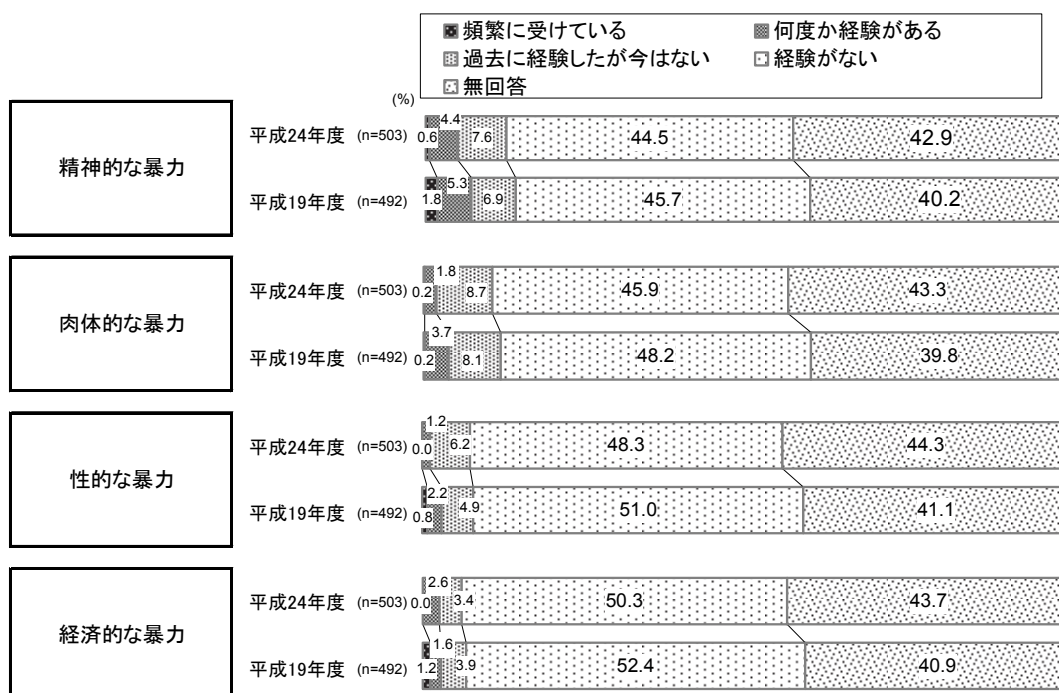
(6)ドメスティック・バイオレンス(DV)の経験の有無の時系列比較

4つの暴力は、前回調査（平成19年度）よりも過去も含めた経験は減少している。

図表Ⅱ-96 ドメスティック・バイオレンスを受けた経験の推移（全体）



図表Ⅱ-97 ドメスティック・バイオレンスを受けた経験の有無の推移（女性）



9. 男女共同参画に関する法律やことば等について

(1) 男女共同参画に関する法律やことばの認知

問15 あなたが、見たり聞いたりしたことがあるものについて、①～⑬の各項目について、1つずつ選んで○をつけてください。

要旨

男女共同参画社会に関する法律やことばの中で、「男女雇用機会均等法」や「DV防止法」など、法律で定められているものの内容理解や知名の割合は高くなっている。「男女雇用機会均等法」や「DV防止法」を前回調査（平成19年度）と比べると内容理解と知名を合わせた割合は前回と同様に8割を超え、一定の割合となっているが、「男女共同参画社会基本法」は10.3ポイント高くなっている。しかし、内容を理解している割合は「男女雇用均等法」「DV防止法」「ファミリーサポートセンター」以外は10%を下回っている。

男女共同参画社会に関する法律やことばのうち「男女雇用機会均等法」の認知（内容を知っている＋名前を聞いたことがある）が84.3%で最も高くなっている。次いで「DV防止法」が81.8%、「男女共同参画社会基本法」が54.8%と続いている。それら以外の言葉の認知は半数を満たしていない。

「内容を知っている」（内容理解）では「男女雇用機会均等法」が38.1%、「DV防止法」が28.3%と高くなっている。

図表Ⅱ-98 男女共同参画に関する法律やことばの認知

項目	内容を知っている (内容理解)	名前を知ったことがある (知名)	知らない	無回答
男女雇用機会均等法(雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律)	38.1	46.2	9.9	5.8
DV防止法 (配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律)	28.3	53.5	12.4	5.8
男女共同参画社会基本法	9.1	45.7	38.5	6.7
ファミリー・サポート・センター	15.0	23.7	53.5	7.8
配偶者暴力相談支援センター	6.5	28.6	57.7	7.2
千葉県女性サポートセンター	6.4	26.7	60.1	6.8
国の「男女共同参画基本計画(第3次)」	2.4	25.4	65.1	7.1
四街道市男女共同参画推進計画	2.2	20.9	70.1	6.8
千葉県男女共同参画計画(第3次)	2.5	17.9	71.9	7.7
女子差別撤廃条約 (女子に対するあらゆる形態の差別を撤廃する条約)	3.4	16.3	73.2	7.2
千葉県男女共同参画センター	2.5	15.0	75.1	7.4
千葉県男女共同参画苦情処理委員制度	1.1	9.8	81.1	8.1
家族経営協定	0.9	5.6	86.2	7.3

(2) 男女共同参画に関する法律やことばの認知の時系列比較

男女共同参画社会に関する法律やことばのうち「男女雇用機会均等法」「DV防止法」は前回調査（平成19年度）から認知（内容を知っている+名前を聞いたことがある）が高くなり、広く知られるようになってきたと考えられる。

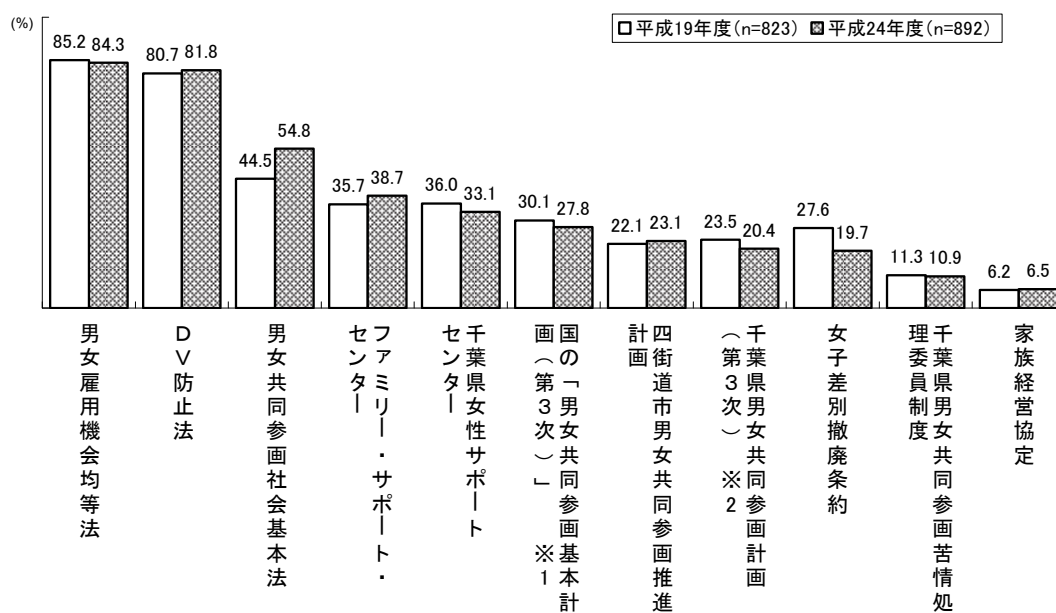
「男女共同参画社会基本法」の認知（同）は前回調査（平成19年度）に比べて高くなっている。

「女子差別撤廃条約」は前回調査（平成19年度）に比べて減少した。

国の「男女共同参画基本計画（第3次）」は前回調査（平成19年度）当時の第2次に比べて減少し、「千葉県男女共同参画計画（第3次）」も当時の第2次に比べ減少している。

図表Ⅱ-99 男女共同参画に関する法律やことばの認知率推移

数値は「内容を知っている+名前を聞いたことがある」の値。



※1は平成19年度調査では「男女共同参画基本計画（第2次）」

※2は平成19年度調査では「千葉県男女共同参画計画（第2次）」

10. 各設問のその他回答一覧

各設問のその他回答について、主なものを掲載します。

問3(2) 男女共同参画社会を実現するためには、どのようなことが必要だと思いますか。			
性別	年代	職業	その他回答
男性	30歳代	正規雇用者	母子家庭、父子家庭の扱いが同等になる。
男性	40歳代	正規雇用者	女性が意識を変えること。
男性	50歳代	正規雇用者	多様性を認める社会になる。
男性	50歳代	正規雇用者	経済が成長し、雇用機会が増える
男性	50歳代	正規雇用者	ワーキングシェアと若者たちが生活未来設計できる給与レベルの設定。 (最低賃金法の¥1200要求)
男性	60歳代	正規雇用者	家族間や地域社会におけるサポート等
男性	60歳代	正規雇用者	双方の存在を認め合う事が大事。
男性	60歳代	無職	職場の労働条件を同じにする。男女共正規雇用が当たり前のもとする。
男性	70歳代以上	無職	男女は平等であるが、異性であることを認識し、得手、不得手を補完し合う考えを広める。
男性	70歳代以上	無職	幼稚園、小学校の時から男性は、女性を助けるという考え方を教える。
女性	30歳代	専業主婦	男会社、女会社、各々のやり方が違うので、男女共同というのが実現するの か難しいと思う。
女性	30歳代	無職	愛
女性	30歳代	自由業	男性だというだけで、女性よりも偉いと思っている男性が日本には多すぎる と思う。これから子育てをする世代が、男女は平等なのだという事を自分の 子供に子供の時から教える事が必要。まずは親が子へ、感覚から変えてい かなければ、世の中は変わっていかないと思う。
女性	60歳代	非正規雇用者	子育てや介護の社会支援とともに、若者や障害を持つ人々も同じように働く 場や住居を安心して持てる事が男女平等の社会には不可欠と思います。
女性	70歳代以上	無職	各家庭によって事情が違うので、それに合わせて対応。
女性	70歳代以上	専業主婦	例えば、男でも家事をやる事が当たり前の時代が来て欲しい。

問6 あなたが、男性ならば男性にとって、女性ならば女性にとって働きやすい環境づくりには、どのようなことが必要だと思いますか。			
性別	年代	職業	その他回答
男性	20歳代	正規雇用者	現在の世の流れは、非常に早く、四街道市に住んでいますが、四街道市の職の平等差は分かりません。他の市、町村、県は、すでに能力社会になっているので、男とか、女とかで差別している職に就かなければいい事なので、時間の使い方をもっと別の方に使っていただきたく感じます。
男性	30歳代	正規雇用者	過度な”男女平等”意識の払拭
男性	30歳代	自営業	意識改革
男性	30歳代	正規雇用者	母子家庭、父子家庭の負担を軽くする。
男性	30歳代	自営業	事業主に丸投げするのではなく、行政も補助、協力をお願いしたい。
男性	40歳代	正規雇用者	女性に力仕事はやらせられない。平等はない。男同士でも平等ではない。
男性	50歳代	正規雇用者	給与、年金制度の長期的安定性の確保
男性	60歳代	無職	育児休業制度が充実しても、経営者、管理者が実行の考え方が無ければ、机上の空論である。
男性	70歳代	無職	高齢者の有効な活用
女性	30歳代	アルバイト	子供が急に具合が悪くなり、仕事を休まざるを得なくなったときに、休みを取るのには、たいてい女性(母親)である意識を社会が変えなければ!!
女性	30歳代	無職	既存の言葉(表現方法)についても、現代の意識に則しているものかを考えてみる事。
女性	50歳代	正規雇用者	雇用促進(男女差のない)、非雇用を少なくする(正規採用者を増やす)。
女性	60歳代	非正規雇用者	男女全く同じというわけではなく、男女それぞれの特性が生かされ、それがきちんと評価される社会を目指したい。

問8 万一、自然災害のために避難しなければならなくなった場合、どのようなことが心配ですか。			
性別	年代	職業	その他回答
男性	20歳代	学生	仮設トイレの数
男性	40歳代	正規雇用者	薬の入手
男性	50歳代	正規雇用者	ペットの避難
男性	60歳代	自由業	・避難後の自宅の安全管理(放火、盗みの心配)・避難所での置引き→普段「どこの誰か不明」な人々が集まるため、ドサクサ紛れに盗みをするかも。
男性	70歳代以上	無職	有料老人ホームに入所しているので、すべてが心配である。
女性	30歳代	アルバイト	飼い犬の事。
女性	40歳代	自営業	ペットと共に避難できる場所がない。
女性	40歳代	専業主婦	ペットも一緒に避難できるのか心配。出来ない時、自宅待機しているときのケアがあるのか心配。
女性	40歳代	無職	ペットとその飼い主への配慮。
女性	50歳代	専業主婦	避難所の定員オーバーによるたらいまわし。
女性	50歳代	正規雇用者	避難所の安全性

問9(1) あなた(男性の場合は「妻・パートナー」)の働き方として理想とする形はどれですか。			
性別	年代	職業	その他回答
男性	20歳代	無職	パートナーの考え次第
男性	30歳代	自営業	(1)から(3)、どれでも個人の考えを尊重する。
男性	30歳代	正規雇用者	相手の思うようにしてほしい。
男性	40歳代	正規雇用者	パートナーによる。出来るパートナーなら職業に就き、能力が無ければ職業に就かない。家事や育児が得意ならばやればよい。
男性	50歳代	正規雇用者	妻・パートナーの希望にできる限り沿う。
男性	60歳代	正規雇用者	パートナーで話し合っ決めて行く
男性	70歳代以上	無職	本人の考え方、環境により決めれば良い。
女性	20歳代	専業主婦	1.に近いが、役職のランクを落とさないで、職業を持ち続ける。
女性	50歳代	正規雇用者	1～3、自由に選べる環境

問9(2) 現実にあなた自身(男性の場合は「妻・パートナー」)の働き方はどれにあたりますか。 (単身の方は、パートナーと暮らす場合どの形になると思われますか。)			
性別	年代	職業	その他回答
男性	20歳代	無職	パートナーの考え方次第
男性	30歳代	自営業	専業主婦
男性	30歳代	自営業	(1)から(3)、どれでも個人の考えを尊重する。
男性	40歳代	自営業	夫の稼ぎが悪いので働いてもらっている。
男性	40歳代	正規雇用者	パートナーによる。出来るパートナーなら職業に就き、能力が無ければ職業に就かない。家事や育児が得意ならばやればいい。
女性	20歳代	専業主婦	育休をもらえたが、(前の職場)役職ランクは、下がった。
女性	30歳代	専業主婦	夫の転勤により妻が退職する。
女性	30歳代	専業主婦	子供が欲しかった時に辞め、現在育児中。
女性	30歳代	正規雇用者	結婚と同時に職を辞め、ほぼ家事に専念。子供が生まれ再び職に就いている。
女性	30歳代	専業主婦	妊娠したら職を辞め、家事などに専念する。
女性	40歳代	正規雇用者	育児休業を取得
女性	40歳代	自営業	子供がいないので、そのまま働き続けています。
女性	40歳代	専業主婦	結婚するまで就業。4～5年専業主婦。その後、5年程就業。子供が出来たため、現在、家事・育児に専念。
女性	40歳代	アルバイト	結婚まで職業に就き、子供が成長したら再び職業に就く。
女性	40歳代	専業主婦	自分自身が働きたいと思った時にと考えてます。(経済的な面で何とか大丈夫なら)もちろん、子供がある年齢になり、大丈夫と思う時(成長してから)
女性	50歳代	専業主婦	結婚、子育て中も仕事を続けていたが、「小1のカベ」で断念した。
女性	50歳代	アルバイト	結婚して専業主婦になり、その後子供が成長して、パートで働くようになりました。
女性	50歳代	自由業	子供が出来なかったので、結果としてずっと仕事をしています。
女性	60歳代	専業主婦	結婚するまで職業に就き、子供の成長により再び職業に就いた。
女性	60歳代	アルバイト	長男出産後労働していたが、父を引き取った時に、一時、家事専念後、父なき後、又働きに出た。
女性	60歳代	専業主婦	女は家庭に入るべきだと言われ、働きたかったが、職業に就くことは反対された。
女性	60歳代	無職	学生→花嫁修業→専業主婦だった
女性	70歳代以上	専業主婦	2, 3状況によって考える。
女性	70歳代以上	無職	家内労働で結婚後も継続的に働き、60くらいまで休まず働きました。

問9(3) 次世代の女性の働き方として、望ましいと思われる形はどれですか。			
性別	年代	職業	その他回答
男性	50歳代	正規雇用者	本人の選択。選択通りできることが大切。
男性	20歳代	アルバイト	個人個人がそれぞれの生き方を模索して、それぞれが見つけた生き方を貫くべきであって、望ましいだとか、鋳型にはめ込むような発想自体すべきではない。
男性	20歳代	正規雇用者	上記全てのパターンを自由に選べること(「女性は家事をすべき」とか、「女性も職業に就き続けるべき」とか、変なバイアスに影響されずに)。
男性	30歳代	正規雇用者	女性が希望する通りに職を辞めたり、就業できる環境が望ましい。
男性	30歳代	自営業	(1)から(3)、どれでも個人の考えを尊重する。
男性	30歳代	正規雇用者	女性のやりたいことを行って欲しい。
男性	40歳代	正規雇用者	個人による
男性	50歳代	正規雇用者	本人の選択。選択通りできることが大切。
男性	50歳代	正規雇用者	各人の価値観、生き方を尊重する。
男性	50歳代	正規雇用者	1or2を自由に選択できる社会。(男も女も)職をいったん離れても、希望があればすぐに職に就ける(職業訓練、人材育成または、人材紹介制度の充実(ミスマッチを防ぐ)・会社(企業、職場)での受け入れ態勢。)社会。
男性	60歳代	無職	case by caseでそれぞれの家庭の事情に応じて総合的に考える。
男性	70歳代以上	自営業	育児・託児所が十分あれば、(1)がいいと思いますが、現状は不足のため(2)にしなければならぬと思います。
女性	20歳代	学生	人それぞれに良い方法があると思うので、どれが「望ましい」かとは言い切れません。ただ、子供に十分に愛情を注げないような働き方はするべきではないと思います。
女性	30歳代	専業主婦	個人の希望に合えば、自由。
女性	30歳代	専業主婦	女性としてではなく、個人にとって望ましい形を取ることが良いと思う。
女性	30歳代	無職	決めたいときに決めることができる自由がある社会で働く形。
女性	40歳代	正規雇用者	個人の考え方や環境により、望ましい形は変わるので、様々な形を選ぶことができる事が良いと思う。
女性	40歳代	アルバイト	上記選択が個人(女性・パートナー)の自由、意志によって選べる。
女性	50歳代	専業主婦	個人の自由!にできる環境であってほしい。
女性	50歳代	正規雇用者	1～3、選択できる
女性	70歳代以上	専業主婦	家々によって考えるべきです。

問12 「女性の人権が侵害されている」と感じるのはどのような場合ですか。			
性別	年代	職業	その他回答
男性	30歳代	自営業	こういう女性の人権が侵害されているとアンケートがある事自体が「女性は弱い」みたいな世間的なイメージがあるのかなって思う。女性の本人次第だと思う。結局は、自分で自分を守る方法を覚えないと無理だと思う。
男性	50歳代	正規雇用者	女性が望まないことを強制されること。
男性	60歳代	非正規雇用者	男女は基本的に性差があり、我が国においては女性の人権侵害が世界的に見てほとんどないように感じられる。
男性	70歳代以上	無職	男は無意識に大小の人権を侵害している。
男性	70歳代以上	アルバイト	女だから…言葉による
女性	20歳代	専業主婦	女性だと思って、強気・強引に出てくる態度。
女性	30歳代	専業主婦	結婚すると(子供が出来る?)女性の方が、仕事を辞め、住む場所も変わり、転職や、あるいは義父母と同居、妻として、母として、住環境だけでなく、社会的にも家庭内においても、その人の向き不向きに関係なく役割が変わり、男性よりも多くを求められるような気がする。交際する人も、子供同士の親や、ご近所づきあいなども大変。男性は、結婚しても、子供が出来ても、負担は増えるものの、環境の大きな変化は女性よりも少ない気がする。
女性	40歳代	正規雇用者	生命保険など婚姻していると、夫の契約になる。妻の方が若くて収入が多い場合も、契約を一本化する場合は夫がメインとされてしまう。
女性	40歳代	アルバイト	女は家庭にという考え方、配偶者控除など、女性が自由に働きにくい制度。女性を管理職にしない方向性の日本の社会(いまだに男性社会であること)。ロリコン系アイドルが流行ること。
女性	50歳代	アルバイト	風俗店などの性産業、雑誌の…それを業としているならば、それを選んだ人の自由を尊重します。男性へのセクハラもありますよね。痴漢の濡れ衣着せられぬよう、男性がどれほど、気を使っているか!!男性専用車両作ってあげれば!!
女性	60歳代	アルバイト	妻に対する暴言。
女性	60歳代	非正規雇用者	単に社会的地位や、職業的なものだけでなく、子供を産み育てるという大切な女性の特性そのもの、ひいては女性という存在そのものが尊重される社会であってほしい。
女性	70歳代以上	専業主婦	同性間の意識の差にとまどう。「人権」意識が薄い。
女性	70歳代以上	専業主婦	まだ、男尊女卑が当たり前という人間が大勢いるのが悲しい。

11. 自由意見一覧

自由意見は、111人から男女共同参画の実現に向けて、様々な意見が寄せられました。そのうち主な意見を掲載します。なお、誤字などは訂正しました。

性別	年代	職業	男女共同参画の実現に向けて、ご意見やご要望
男性	20歳代	正規雇用者	(1)子育てしやすい環境の整備と保育園、一時保育をもっと充実させてほしい。(2)パパ・ママルームなど、パパ同士、ママ同士が出会う場をもっと欲しい。
男性	20歳代	正規雇用者	このアンケートの主旨が分からないために、とても雑な答えを書いてしまいましたが、平等に、男女を見ている、見て行こうと考えているならば、質問以上に男の言葉を使っていることに全くと言っていいほど、平等にしていこうという意識を感じ取ることが出来ませんでした。そもそも、能力を重要視している世になっているのに、男女などの差という考え方が古臭く、このアンケートが意味をなしていないと感じます。四街道市とか、小さな考え方をしている中で、世界的に見て行けば、もう、行っていて、実現している国がいくつもあります。残念ながら、この質問を考えた方は遅れているのではないかと感じてしまいました。私の周囲、職場、家族には、差はありません。
男性	20歳代	正規雇用者	性別に関係なく、就業したり、生き方を選べるようになることは重要だと思う。一方で、男らしい、女らしい、男/女が～をした方が自然といった感覚にも、偏見とは言い難いと感じる部分もあり、結局、個々人が自由に生き方を選択できるようにしつつ、無理やり男女を完全に同じ存在にしようとする、バランスを取っていくことが大事なのだと思う。
男性	20歳代	正規雇用者	伝えられるまで全く知らなかった。このアンケートで知りました。もっとアピールしてほしい。
男性	20歳代	アルバイト、パートタイマー	役所の人間や一部の人達の参画で一般の人達は知らされないし、知らないことが多い。
男性	20歳代	学生	お互いが意識をしすぎて、円滑なコミュニケーションが出来なくなることは、とても良くないことだと思う。
男性	20歳代	学生	男女共同参画政策は、とても良い事だと思います。
男性	20歳代	無職	男性は仕事、女性は家事という構造を替えられていない職場が男女参画社会を妨げていると思います。行政、企業が協力して、男性の働き方の見直し、子育てしながらでも働ける職場づくりをしてほしいと思います。
男性	30歳代	自営業	頑張ってください。
男性	30歳代	正規雇用者	職場等で男性と同様の仕事を求めている(望んでいない)女性が多い気がする。女性の意識改革こそ必要ではないかと思う。
男性	30歳代	正規雇用者	男女共同参画については、世代による認識や感覚の格差が大きく、30代の私からすると、現状の潮流は、女性側に偏重しているように感じている。社会的な認識が変化しなければ、男女共同参画は進展しないが、世間の男女共同参画をけん引する自治体には是非前向きに頑張ってもらいたい。

性別	年代	職業	男女共同参画の実現に向けて、ご意見やご要望
男性	30歳代	正規雇用者	男女ともに個々の意見と尊重しつつ、共同生活を円満に過ごせる社会にするべきである。また、男女ともに社会に進出することで生じる様々なストレスを緩和させるようなシステムを構築した方が良い。理想としては、片方(どちらか)の親だけで家族を養える経済的等のゆとりがあれば、幸福度は上昇すると思う。幸せの根本は家庭の中にあり、笑顔でいられるような社会を作り出すことだと思う。
男性	30歳代	正規雇用者	用紙がデカすぎて、厚すぎて封筒に入りづらい。せめて、B5にしてほしい。
男性	30歳代	正規雇用者	私の子供は病弱です。現在保育園に通っていますが、かなり頻繁に病気や発熱により呼び出され、妻は、会社の早退を余儀なくされてしまいます。そのような状態になって気づいたことは、四街道市内に病児保育をしていただける施設がないという事です。また、病後保育についても充分ではないと思います。男女共同参画の実現については、金銭補助等のソフト面と、こういった施設の充実のハード面の両方が不可欠だと思うので、そういった設備の整備を希望します。
男性	30歳代	非正規雇用者	元々違いが男女にある以上、平等にすることが不平等と思うが細かいことに侵害だの小さい事言いすぎる。
男性	40歳代	正規雇用者	このような形を取って、税金を投入することに意味があるのか疑問である。改善の余地ありと思われる。
男性	40歳代	正規雇用者	全て平等は世の中には無い。男同士でも、個人の能力による。女性には女性らしい職場と環境がある。男性には男性らしい職場と環境がある。女性に重いものを持たせますか？重いものを持たせるとき、果たして、平等に女性に持たせて良い事なのだろうか？答えは簡単である。そのようなことを分かっていない者が、今回の事を行っていると思う。非常に馬鹿げたアンケートだ。株式会社エヌケイサービス←なぜ、四街道の業者に委託しないのか？
男性	50歳代	自営業	地道な努力がなされることを要望します。
男性	50歳代	正規雇用者	国、県、市とそれぞれ男女共同参画が行われているが、それぞれの役割分担が分からない。市の役割を明確にして欲しい。
男性	50歳代	正規雇用者	経済活動の活性化により、生存権が担保されての(アンケートの理念)が支えられていると思います。従いまして、「皆が労働の機会の均等と創造」が要求されていると考えます。今ほど、戦後「護送船団」方式後20年間の整理が要求されているときはないのではないのでしょうか？最後に、アンケートが対策に「つながる」ことを望みます。
男性	50歳代	正規雇用者	女性の甘え(消極的態度、判断を積極的に避ける態度、男性に判断を委ねる態度等)の意識改革も必要。この考えのある女性には仕事を任せようとしても、結局任せられない。ただし、このような態度は本人の資質なのか、そのような暗黙の社会的合意を受け入れた(受け入れさせられた)結果なのかは、わからない。
男性	50歳代	正規雇用者	男女共同参画で、最も重要なことは、女性が子供を産み、夫婦が子供を(2人以上でも)育てやすい社会。少子高齢社会においても労働力を確保し、優秀な人材(女性の)を最大限、社会の為に生かせる制度、社会システムを早急に構築することである。それと、子供(小・中・高)の"いじめ"をなくすこと、教師と親のみでなく、地域社会の"大人"が子供の育成に協力し、親、教師の助言や子供を"ナナメ(先生→生徒や、親→子供のタテだけでなく、近所の大人などが子供に関係していく事。課外授業などで)"から導く制度が重要だと思います。

性別	年代	職業	男女共同参画の実現に向けて、ご意見やご要望
男性	50歳代	正規雇用者	男女共同参画問題よりもっと重要な社会の問題がたくさんあると思います。とりあえず経済を向上させること。これが進めばいろいろな面が少しずつ良くなると思います。
男性	50歳代	非正規雇用者	どちらかと言えば女性の方が発言力の強い事業所に働いておりますので、特に、問13は、TV等で知る世界です。男性より
男性	60歳代	正規雇用者	あまり意味があるとは思いません。
男性	60歳代	正規雇用者	質問内容が女性を下にしているように伺える。現代女性は、もっと強いのではないか。女性が勝っている所も多々ある。
男性	60歳代	正規雇用者	四街道市男女共同参画推進計画策定に基づき、同委員会を制定し、各分野・地域から数多くの一般市民の委員を選出し、広く、男女共同参画が今後の市発展に重要であることを、市民に理解してもらえるような活動につなげる事が必要であると考えている。
男性	60歳代	非正規雇用者	男女共同参画がきわめて叫ばれる中で、すべての面において変な平等意識が形成されている。それぞれの特性が十分に活用されるよう望むものです。
男性	60歳代	自由業	県や市の祝事で、女性があいさつや、テープカットに並ばないのは？テープカットのTVニュースを見ると、黒服の男ばかり。欧米では華やかな服装の女性が混じっていて羨ましい。その辺りから改善してみても…
男性	60歳代	無職	Everything is oriented toward the entrance examinations to higher institutes in Japan.と外国メディアに揶揄されるように、もっと各個人の人格、日本人全体の民度に寄与するような教育が必要である。
男性	60歳代	無職	男と女では全く同じには出来ないと思う。(持ち分を)共同して生きていく動物である。
男性	60歳代	無職	過去に勤務していた職場では、男性社員より女性社員の方がいろいろな面で優遇されていた。悪い事だとは思われないが、それに甘えて遅刻、欠勤などが男性社員より、女性社員の方が圧倒的に多かった。…勤務評価は低くなり、昇進、給与は差がつく。それに対し、不平不満が多い。(一部上場企業総務部勤務)
男性	60歳代	無職	現実には、男女とも働く場がない。男女共同参画を実現支えるためには、雇用を安定させ、誰もが明るく、楽しく過ごせる環境を構築することが重要と思う。
男性	60歳代	無職	女性差別は男性差別にもつながります。身分差別の延長線上にあるもので、支配、被支配への道具ともなります。差別は支配する側の者にとって、大変都合の良い仕組みと言えものだと言えるでしょう。現代は資金のある者、権力を有する者に都合の良い差別制度が温存されており、支配者は巧みに差別を利用して利益を得、権力を維持しています。アメリカと財界の意向のままの政治から脱却し、真の民主主義を確立していかないと、本当の男女平等は実現しないでしょう。それにしてもいろいろな法や制度を私は知らなすぎです。
男性	60歳代	無職	男女共”平等とは何か”を正しく理解することが出来るよう、教育が必要。平等の本質が理解できれば、共同参画社会も実現すると思う。

性別	年代	職業	男女共同参画の実現に向けて、ご意見やご要望
男性	60歳代	無職	はっきり言って、何のためのアンケートかわからない。女性の就職とか、家事を平等にとか、目的か→精一杯生きている中での分業(家庭内でも、社会でも)は、あってしかるべき。議員になる女性を増やすのが目的だろうか→選挙で女性が抑圧されている事なんかない。→日本の政党政治は、二世議員やタレント、スポーツ選手などが有利にできているだけの衆愚政治であって、男女平等とかの問題ではない。
男性	60歳代	その他	性差別の社会が今後なお20年も続くとは考えられません。必然的に変わるでしょう。
男性	70歳代以上	自営業	私は76歳の独居者ですので、質問に合わない所もあります。
男性	70歳代以上	無職	(1)今回、調査用紙をいただき、初めて、共同参画について、深く考えるようになりました。日本は古来から、仏教、神道、儒教の思想が続いており、その思想の中に、文化、伝統などの美名に隠れた女性格差があります。今日、法律、制度、協定、計画を立て、一部の人々が賢明な努力をしても、日本人の頭に染みついた考え方は、容易に解消できないでしょう。(2)私の素人考えでは、問3に記した幼少期から、教えを繰り返す、長期的な方針により、記憶の中に、共同参画の考え方を浸透させていくのも一つの案と思います。(2)について、現に実行している際は、お許しください。
男性	70歳代以上	無職	100%男女が平等でなければならないという事は、あり得ない。男は男らしく、女は女らしく、それぞれの役割分担があると思う。強制のない社会でありたい。
男性	70歳代以上	無職	20年間家内の介護しています。協力して下さい。
男性	70歳代以上	無職	いろいろ勉強させていただきました。四街道市が市政に女性を参加させた意向が良くわかります。非常に良い事だと思いますが、その「制度」に賛成の方が多いのでしょうか。非常に難しい問題です。私もS22年から公務員になり、約35年市役所(東京の地方)、民間に約10年勤務し、天皇より勲章(勲4等旭日章)をいただき、天皇にお会いでき、大感激をしたのを今でも覚えております。計画を立てるにあたって、自分がこの職に就いた時にはどうすべきかという事を考えながら(案)を調整して頂ければよいと思います。頑張ってください。
男性	70歳代以上	無職	気の長い取組みが必要だと思います。もっとPRが必要でないですか。
男性	70歳代以上	無職	現状でよし
男性	70歳代以上	無職	地道に、継続的な御努力をたまはりたい。
男性	70歳代以上	無職	男女共同参画の実現は日本の国民性から永久にあり得ない。もっと小さなことから実現していくべきである。
男性	70歳代以上	無職	日本の国習、ウエットな風土を変えてゆくのは大変だが、最近、農村の村おこしなどで女性パワーが発揮されているニュースは朗報だ。個人の自覚と地域の支援も必要。男女云々の前に「人間の尊厳」「自由・平等」「幸福追求の機会均等」を早い時期から具体的に教育に盛り込むことが重要だと思う。
男性	70歳代以上	無職	働く場の拡充が必要かと思います。
男性	70歳代以上	無職	法律などで「男女同権」と理解していたが、今、「男女共同参画実現」とは驚かされる。
男性	70歳代以上	無職	目標の程度により異なるが、環境整備が必要ではないかと思います。そして、どちらかと言えば、女性の方が、出遅れていると思うので、女性が一歩前との気持ちが必要ではないかと思います。
男性	70歳代以上	その他	近年、経済的、社会的に女性の地位が急速に向上しているので、表面的には男女の差別は殆ど消えたように見えますが、男性優位の意識が未だ根強く残っているので、意識面での改革が必要だろうと思います。

性別	年代	職業	男女共同参画の実現に向けて、ご意見やご要望
女性	20歳代	正規雇用者	男女平等はとてもいいことだと思いますが、すべてがいい事ではないと私は考えています。体格、力、考え方(脳科学的にも)も違います。女性は女性のいいところを生かせる社会、男性は男性のいいところを生かせる社会が、ほんとの男女平等なのではないのでしょうか？(社会が言う、男女平等では、女性は弱いと思います。)
女性	20歳代	アルバイト、パートタイマー	小学生の時に週1でも良いので、1限を費やして、男女平等の話や、男女差別についての話をしているって、根本から改善していくのはどうだろうか？
女性	20歳代	学生	実現に向けて、社会の在り方を話し合う政治の場に女性が少ないという状況が改善されるべきだと思う。
女性	20歳代	専業主婦・専業主夫	政治や法律では、男性から見た女性像的な感覚のものばかりに感じるし、現代、インターネット等の通信手段が豊富であるため、法律が、そのことに対して則っていない。男、女の差というのを訴える方がいる=政治、法律が現代に合っていないと考える。昔の方は、女性は、3歩下がって歩く。で、大丈夫だったのか？言えない状態を作っていただけじゃないのか？と考える。要望としては『男が女が』と言っている前に、政治、法律を改正させて上記をいう人を少なくさせてほしいと思う。男性、女性、ともに利点はそれぞれあると考える。
女性	30歳代	正規雇用者	是非、実現させてほしい。頑張ってください。
女性	30歳代	正規雇用者	そもそも、「男は仕事、女は家庭」という考えを改めようというところから、少し違うと思います。基本的に、男女には体力の差があるのだから、同じことをできるとは思わない。昔は外に出て、猟や漁をする力仕事は男の方が得意だったから、外に出て仕事をするのは男になってしまったのでは？もしかしたら、乳の出ない男に子育ては出来ないから、外に出されていたのかも。現代は、仕事や生活のスタイルも変わり、女性でもできる仕事、男性にもミルクが作れる等、それぞれにできる事の幅が増えていると思う。だから、若い人たちは、あまり「男は仕事、女は家庭」という考えはないように思う。実際、社会で働きたい女性が増える一方、社会には出ず家事をしたい女性も多く、稼ぎが少なく、仕方なく働いている人も多いと思う。家事を仕事と認識すれば、どちらがやっても良いし、最近は、主夫も増えてるし、日本は結構自分のしたい事が出来る国だと思う。認められないのは能力が無いのでは？あまり女性が、女性がつって、女性を守るようなほうへ向いている気がする。女性を守ってる時点で差別なのでは？人権については、選挙権がないとか、教育が受けられないとか、自由に外に出れない、結婚できない等、そんな国がまだあるのに…。スポーツなどで、みんなが同じレベルで、競技出来ないのと一緒に、性別、年齢、障害などで出来る事が違うと、みんなが理解することが大切だと思う。
女性	30歳代	アルバイト、パートタイマー	現代において、未だ男女差別が根強くあるとは思われない。だいぶ改善されたと思いますし、女性の社会進出、活躍はめざましいです。一生懸命頑張れば認められる社会になりました。あまり、この女性優遇が逆に「のさばる」形になれば、すばらしい人材が芽を出すことなく、腐ってしまうのではと懸念されます。人はそれなりに「きたえ」も必要なのです。小学校の保健体育の授業で、セックスの授業は、セクハラです。やめてほしい。しかもあまり具体的な行為を教えるらしく、吐き気がします。男女共同参画なんていらないです。消えてなくなればいいと思います。
女性	30歳代	自由業	仕事柄、外国の方と接する機会も多いのですが(特に、アメリカ、イギリス、フランス、オーストラリアの方が多い)「日本は男女差別がひどい」と言われます。「男尊女卑の国」として見られています。日本は才能の半分をつぶしているし、日本の女性はかわいいそうだと…。表向きは、男女平等を唱えていても、『内心では』(←ここが重要)「いちいちめんどろ」「女のクセに」「かわいくない」「男を立てろよ」「言う事聞けよ」「産休は正直迷惑」etc、etc…とと思っている男性が減って行かないと変わっていかないと。これからの世代で変えていかなければ！このような取り組みには、大いに賛成します。

性別	年代	職業	男女共同参画の実現に向けて、ご意見やご要望
女性	30歳代	専業主婦・専業主夫	DVはとでも不快です。立派な犯罪だと思し、男が女を力で制することなので、女性には男性を力で制することが出来ず、弱者になります。私の自宅近所でも頻繁に警察が来るほど、家庭が壊れてしまっているお宅があります。聞けば、夫に暴力を受けたとか。逆もあります。子供も(小さい子供)いるお宅ですし、子供の多い住宅街なので、事情はあるかとは思いますが、困っています。本人の意思が変わらない限り、DVは治まらないと思います。
女性	30歳代	専業主婦・専業主夫	アンケートを取って集計するだけじゃ、何も変わらない。どうせ無駄だと思うけど、一応、答えてみた。
女性	30歳代	専業主婦・専業主夫	夫からの「言葉の暴力」「精神的な暴力」が日常的にあり、苦痛なため、女性サポートセンターの電話相談をたまに利用している。話を聞いていただけると、安心なので、今後も女性の立場に立った活動を増やしてほしいです。(夫のストレスのはげ口になるたび、女性の弱い立場を実感するため)
女性	30歳代	専業主婦・専業主夫	女性が働ける場所を多くしてほしい。例えば、託児所付の働く場所を多くしてもらいたいです。保育所は待機児童で入れませんので。今のままでは、働きたくても働けない女性が多くなる一方です。私も働きたいと思っている一人です。
女性	30歳代	専業主婦・専業主夫	男性が、女性が…ではなく、個人の意思が尊重される社会が望ましいと思います。
女性	30歳代	専業主婦・専業主夫	日本は、世界において、男女平等の実現の順位が非常に低い。これだけの先進国なのに、恥ずかしい事だと思う。現実、会社員と働いていた時、女は、結婚したら、退職するという会社の風潮があった。それに反発して、居続けても、地方へ飛ばされて退職せざるを得ない状況となる。名の知れた大企業でもこんなことをしているのだから、法律など形だけのものだとつくづく思う。アイスランド、フィンランドなどの北欧諸国の政策などを取り入れていかないと、日本の人口は減るばかりだ。
女性	30歳代	専業主婦・専業主夫	保育施設やサービスの充実が大切だと思います。
女性	30歳代	無職	思いやる気持ち(心)だと思いました。
女性	40歳代	正規雇用者	子供が小学生ぐらいまでは育児に専念した方が、子供にとって良いと思う。仕事をすると育児や家事が十分できず、自分も家族もストレスがたまる。だけど、働かないと生活できないので、仕事に行きます。子供(育児)や介護を十分できる社会にしてほしいです。
女性	40歳代	正規雇用者	男女に関係なし、平等に機会は与えられるべきとは思いますが、女性であることを利用して楽をしている部分もあるので。
女性	40歳代	アルバイト、パートタイマー	口先だけでなく、大胆に勇気をもって改善しなければ、実現不可能だと思う。日本は男尊女卑の歴史が長いから、期待していない。行政の在り方を見ても期待できない。
女性	40歳代	アルバイト、パートタイマー	このことの内容についてよく知りませんが、性別というものがあるのだから、それぞれの役割を重視することも大切だと思います。男女共同とか、男女平等とかの言葉の印象で行きすぎた考えをしまわれないようにする説明も欲しいです。

性別	年代	職業	男女共同参画の実現に向けて、ご意見やご要望
女性	40歳代	アルバイト、パートタイマー	男女共同参画の実現に向けて、努力しても、自営業の場合など、“生活”がのしかかってくれば、例えば妻(女)が夫(男)の行為に目をつぶり、自分と同じ女性を傷つけている事にも背を向ける。内部がどんな店でも評価される現実です。どうか、無駄な努力になりませんように。
女性	40歳代	アルバイト、パートタイマー	男性には男性の、女性には女性の得意とすること、役割があるので、完全に平等になる事よりも、それぞれの得意分野を生かして、生きやすい世の中を作っていくのが良いと思います。例えば、女性が社会に出て、男性と同じように働くのも良いけれど、家事、育児など家の事が好きな女性が外に働きに行かずに、家のことに専念するのもかっこいい、素敵と思ってくれる世の中になるとよいと思います。
女性	40歳代	無職	四街道市で、早急を実施すべきである。
女性	40歳代	その他	私が思っていたよりも、身近にDVの家庭は存在していました。けれど、それとせずに、じっと耐えて子育てをしている人がほとんどなのが、現実のようです。もっと広く、どういったことがDVなのか、認知されると良いと思います。
女性	50歳代	正規雇用者	仕事をもちながら、育児・家事を私(母)が行い、20数年経ちました。社会全体の男女共同参画への意識付けが大切かと思えます。まだまだ女性が共同参画していくことはとても大変な社会です。これまで、日々振り返る余裕のない生活でした。でも、どんなに辛くても仕事を辞めなくて良かったとも感じています。ぜひ、四街道市をあげて推進して行って下さい。
女性	50歳代	アルバイト、パートタイマー	関心なくてすみません!!
女性	50歳代	専業主婦・専業主夫	内容、中身が分かりません。もっと、広報お願いします。
女性	50歳代	専業主婦・専業主夫	理想と現実とは違うので、実現は大変困難だと思う。
女性	60歳代	アルバイト、パートタイマー	高齢者、病気の人の入所施設や介護サービスの充実・高齢になっても体や頭が元気な人が働ける施設があればいいと思う。体力があっても、年齢が来るとやめなければならないのが現行だから。どうしても許せない行為としてストーカー、女性の人権を馬鹿にしている、そういう男の罪状は重くとらえて欲しい。
女性	60歳代	アルバイト、パートタイマー	60歳過ぎたら男女共同参画は心配ない。
女性	60歳代	アルバイト、パートタイマー	今の政局の中、実現させるのには、相当ムリ。実現するのか信じられない。
女性	60歳代	アルバイト、パートタイマー	参画に関する法律などは、知っているようで、知らないのが現実です。一つ一つの物事に関わることで知るものなので、これからは関心を持ち知識を広げていきたいと思えます。
女性	60歳代	専業主婦・専業主夫	「男女共同参画の実現」と名目は良いのですが、実際に社会の仕組みが何十年と「男社会」の中で成り立ってきた現実を打破するのは、大変だと思えます。「男・女」という前に「人間」としての「生き方」を今の方々にしっかりと考えて頂きたいと思えます。そうすれば、この問題もおのずと正しい方向に行くのではと考えます。
女性	60歳代	専業主婦・専業主夫	小学校では性別に関係なく子供達が学んでいると聞いています。男女で、タテ、ヨコのそれぞれの役割があるはずですので、何もかも一緒というのは、子供達の成長の過程でも間違っていると思えます。
女性	60歳代	専業主婦・専業主夫	男女共同参画の実現は大変良い事ですが、女性の立場としては、男性の収入が安定した社会で家庭生活に、子育てや介護が出来るゆとりある人間らしい暮らしが出来る事がなによりです。子育てと仕事を両立することは、夫の協力が大切でありますが、主たる人が仕事に集中できる生活のリズムを作ることは、時間に追われる生活の中では難しいですよ!
女性	60歳代	専業主婦・専業主夫	とても良い事なので、実現できれば素晴らしい事だと思いますが、現実には難しいと思えます。でも期待したいです。頑張ってください!!
女性	60歳代	無職	人類は古来、男女ともに仕事をし、家庭を営んできました。小さな子がいる家庭が安心して、仕事をし、家族の触れ合いを十分できる制度を充実すべきだと思えます。

性別	年代	職業	男女共同参画の実現に向けて、ご意見やご要望
女性	70歳代以上	専業主婦・専業主夫	夫、又は異性の気持ちや行動が女には理解できないことがある。若い女性の皆さんは、はっきりものを言える人が多いと思う。とにかく、家庭内を波立たせないように生活してきた自分に反省の気持ちもある。
女性	70歳代以上	専業主婦・専業主夫	男には男の生まれながらの本能があり、女性には女性の本能があり、男女が同等とか、同じ立場は無理ではないか。男の立場、女の立場で結果の評価は同じにされたい。
女性	70歳代以上	専業主婦・専業主夫	最近だいぶ女性も強くなってきました。学歴も発言力も我々(私は72歳)の時代に比べ、女性の力強さを感じます。世界に比べ、まだまだ日本女性が政界・経済界に進出することは少なく思いますが、日本全体が、男女共同参画を考え始めたこと、素晴らしい。きっと近いうち、世界に、日本社会に、女性の活躍が見られると思います。願います。
女性	70歳代以上	専業主婦・専業主夫	女性自身の意識の改革が第一。まずは家庭から始めたいものだ。73歳となり、種々な経験をしてきたのが、嫁さん世代(40代)はかかなり、男女平等に、家庭では、なっているが、社会的背景が変わらないので、女性は出産・育児があり、難しい。差別と区別は違うと思う。私たちの世代より、むしろ、保守的になっているように思う。
女性	70歳代以上	専業主婦・専業主夫	世間が狭いのであまり良くは分かりません。自分の事だけでの答えになってしまった様な気がします。もっと誰にでもわかるような説明の仕方をしていただけたらなあと思います。問15には自分でも嫌気がさす位、何も知らないのには少し恥ずかしいような気持ちです。こんなに何にもわからないのでは意見どころか要望と言われましても何もできません(ゴメンナサイ)ただ私が言えることは男性には男性の、女性には女性の役があるのではと思います。子供を産みおっぱいをやるのは、お母さんですし、家族を養うのはお父さんです。あとは、2人で協力すれば良い事だと思います。「女流、女性」とつけるのも何となく嫌ですし、一人一人その人の持っているもの(力)を最大に生かせればいいのでは。
女性	70歳代以上	専業主婦・専業主夫	男女共同参画についてわからず、今回、資料が送られてきて、このようなことがあるのかと分かりました。ぜひ実現させてほしいと思います。
女性	70歳代以上	専業主婦・専業主夫	男女共同参画は何をしているのかわからない。また、アンケートの内容もおかしい。
女性	70歳代以上	専業主婦・専業主夫	男女共同参画は良いのですが、70代後半の私には答えられない質問が多々ありました。出来れば、年代別の質問であれば、アンケートに答えやすいのですが!!
女性	70歳代以上	専業主婦・専業主夫	男女共同参画を必ず実現して頂きたい。
女性	70歳代以上	専業主婦・専業主夫	男性でも、女性でも個々の持つ優れた能力を十分に発揮することのできる場、環境に恵まれたら、ご本人にとっても社会にとっても、素晴らしい事だと思います。
女性	70歳代以上	専業主婦・専業主夫	よほど、優秀な能力のある女性なら別ですが、基本としては男性は仕事、女性は家庭を守ることだと思います。
女性	70歳代以上	無職	75歳になる女性ですが、世の中、大きく変遷したことをアンケートに記入しながら、思いました。夫の仕事が厳しかったこともあり、専業主婦で、子供二人を育てましたが、国内、国外の転勤を経験して、大変でもありました。今後、男女共同参画社会へ移行するでしょうが、家庭での子供の育成はとても大事なことでと考えます。そして、早く社会に順応できる子に育てる事が良いのではと思います。そして、女性はいつでも外へ飛び出せる気持ちでいたいと思います。
女性	70歳代以上	無職	88歳の老人にはあまり関係ないように思われた。
女性	70歳代以上	無職	内容を少しずつ勉強させていただきます。ありがとうございました。

Ⅲ 調査票

四街道市男女共同参画市民意識調査

日頃より、市政にご協力いただきありがとうございます。

現在、市では、第2次四街道市男女共同参画推進計画により、「性別にかかわらず、だれもが個人として尊重され、個性を発揮できる社会」をめざして、各施策に取り組んでいます。

このアンケート調査は、「男女共同参画社会」の形成に対して、市民の皆様がどのようなご意見をお持ちなのか、また、「男女共同参画社会」の実現のためにどのような取り組みが求められているのかなどについてお聞きし、次期「男女共同参画推進計画」策定の参考とさせていただくことを目的とするものです。

調査票は、無作為抽出により選ばせていただいた皆様にお送りしております。

市民の皆様のご意見を反映した市政を推進するため、アンケート調査へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年11月 四街道市長 佐渡 斉

個人情報を守ります

この調査に関わるデータを他の目的に使用することはありません。また、回答していただいた結果は「〇〇〇人中〇〇〇人の人がこのように答えています。」という形で整理し、お答えいただいた皆様にご迷惑をおかけすることはありません。

ご記入にあたってのお願い

1. 質問は、選択肢の中から回答される方の考えに最も近いものを選ぶ「選択式」になっています。あてはまる番号を選び○で囲んでください。また、選択肢の中にない場合は「その他」の欄に具体的に記入してください。
2. 質問によって、回答していただく方が限られる場合があります。各質問の内容を確認のうえお答えください。

調査結果について

調査結果については、市政だより等に掲載してお知らせします。

また、平成26年度からの次期「男女共同参画推進計画」策定のための基礎資料として活用します。

■ご返送に関するお願い

- このアンケート用紙にご記入いただきましたら、恐縮ですが、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、**11月29日（木）までに郵便ポスト**に投函してください。
- 返信先は、四街道市が業務委託している株式会社エヌケイサービスになります。

■お問合せ先：四街道市役所 経営企画部政策推進課

電話 043-421-6161（直通）

FAX 043-424-8920

あなたご自身についておうかがいします。

統計処理を行うために必要な情報ですので、全員の方がお答えください。(回答日現在)

①～③の各項目について、1つずつ選んで○をつけてください。

① 性別	1. 男性	2. 女性								
② 年代	1. 20 歳代	2. 30 歳代	3. 40 歳代	4. 50 歳代	5. 60 歳代	6. 70 歳代以上				
③ ご職業	1. 農林業	2. 自営業（商・工・サービス業等）	3. 正規雇用者（会社員・商店・医療施設等職員・サービス業・公務員等）	4. 非正規雇用者（派遣社員・契約社員・嘱託等）	5. アルバイト、パートタイマー	6. 自由業（画家・作家等）	7. 学生	8. 専業主婦・専業主夫	9. 無職	10. その他（ ）

男女平等に対するお考えをおうかがいします。

問1 あなたは、次のような場面で、男女の地位は平等になっていると思いますか。①～⑦の各項目について、1つずつ選んで○をつけてください。

項 目	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている
① 家庭生活の中で	1	2	3	4	5
② 職場で	1	2	3	4	5
③ 学校教育の場で	1	2	3	4	5
④ 政治の場で	1	2	3	4	5
⑤ 法律や制度の上で	1	2	3	4	5
⑥ 社会通念・慣習・しきたり等において	1	2	3	4	5
⑦ 社会全体として	1	2	3	4	5

問2 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どう思いますか。1つ選んで○をつけてください。

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらともいえない
4. どちらかといえばそう思わない
5. そう思わない

男女共同参画社会の実現についておうかがいします。

問3 (1) 市の男女共同参画推進計画でめざしている「性別にかかわらず、だれもが個人として尊重され、個性を発揮できる社会」の実現について、どう思いますか。

1つ選んで○をつけてください。

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1. とても良いことだと思う | 2. まあ良いことだと思う |
| 3. どちらとも言えない | 4. あまり良いことだと思わない |
| 5. まったく良いことだと思わない | |

問3 (2) (1)で「1. とても良いことだと思う」、「2. まあ良いことだと思う」、「3. どちらとも言えない」と回答した方にうかがいます。(それ以外の方は問4にお進みください。)

男女共同参画社会を実現するためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 法律や制度の面で見直しを行う
2. 男女共同参画が良いことだと考える人たちが増える
3. 議会議員や審議会等の委員等の政策・方針決定過程に参画する女性の割合や企業や団体等での管理・監督的業務に従事する者(部長・課長等)に占める女性の割合が上がる
4. 女性や男性の生き方・悩みに関する相談の場や、男女の平等と相互の理解・協力についての学習機会が充実する
5. 保育施設やサービス、高齢者・疾病の方の入所施設や介護サービスが充実する
6. 労働時間の短縮やフレックスタイム制、在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しが進む
7. 子育てや介護中であっても仕事が続けられたり、いったん仕事を辞めても再就職ができる企業が増える
8. 男女ともに育児休業を取得する人が増える
9. 男女ともに積極的に家事に関わるようにする
10. 男女ともに積極的に育児・介護に関わるようにする
11. 男は仕事、女は家庭という性別による固定的な役割分担意識を持つ人が減る
12. その他 ()
13. わからない

ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）についておうかがい します。

問4 あなたは、「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を知っていますか。1つ選んで○をつけてください。

1. 言葉も内容も知っている
2. 言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない
3. 言葉も内容も知らない

問5（1） あなたの現在の「仕事」と、「家庭生活」や「町内会・ボランティア等の地域活動」への関わり方は1～5のうちどれにあてはまりますか。1つ選んで○をつけてください。

1. ほぼ仕事に専念している
2. 家庭生活や地域活動にも携わっているが、仕事を優先させている
3. 家庭生活や地域活動と仕事に同じくらい携わっている
4. 仕事にも携わっているが、家庭生活や地域活動を優先させている
5. ほぼ家庭生活や地域活動に専念している

問5（2） あなたは、「家庭生活」のための時間は十分取れていると思いますか。1つ選んで○をつけてください。

1. 十分取れている
2. まあ取れている
3. あまり取れていない
4. 全く取れていない
5. わからない

問6 あなたが、男性ならば男性にとって、女性ならば女性にとって働きやすい環境づくりには、どのようなことが必要だと思えますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 働く場が多い
2. 能力発揮の場が多い
3. 昇進・昇給等に男女の差別的取り扱いがない
4. 安心して結婚、出産ができる
5. 育児休業・介護休業が取りやすい
6. 育児休業制度・介護休業制度の充実
7. 結婚、育児、介護のために退職した職員の再雇用制度の充実
8. 育児休業・介護休業中の賃金等の充実
9. 時間外労働の縮減

- 10. フレックスタイム制や在宅勤務等の普及
- 11. 育児施設等の整備
- 12. 非正規雇用者の待遇改善
- 13. 介護施設等の整備
- 14. 女性が働くことに対する家族や周囲の理解と協力
- 15. 男性が家事・育児をすることに対する家族や周囲の理解と協力
- 16. 女性自身の自覚・意欲・能力の向上
- 17. 男性の意識の変化
- 18. 経営者・管理職の意識の変化
- 19. 男は仕事、女は家庭という性別による固定的な役割分担意識を持つ人が減る
- 20. その他（ ）
- 21. 特になし
- 22. わからない

問7 現在、配偶者等パートナーと暮らしている方にうかがいます。

過去の経験を含めてお答えください。あなたの家庭では、①～⑩にあげるような家事等を、主にどなたがしていますか。(または、していましたか。) 実態と理想について、それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。(女性から見て「夫」には配偶者以外の男性パートナーを、男性から見て「妻」には配偶者以外の女性パートナーを含むものとします。)

【実 態】

項 目	ほとん ど妻	ほとん ど夫	ど ち ら か と い え ば 妻	ど ち ら か と い え ば 夫	夫 婦 と も 同 じ 程 度	夫 婦 以 外 の 人	該 当 な し
① 食事のしたく・あとかたづけ	1	2	3	4	5	6	
② 掃除・洗濯	1	2	3	4	5	6	
③ 食料品・日用品等の買い物	1	2	3	4	5	6	
④ 不動産等高価な買い物	1	2	3	4	5	6	
⑤ 家計費の管理	1	2	3	4	5	6	
⑥ 乳児・幼児の世話	1	2	3	4	5	6	7
⑦ 子どもの学校の委員や行事等への参加	1	2	3	4	5	6	7
⑧ 介護や看護を要する家族の世話	1	2	3	4	5	6	7
⑨ 自治会や地域活動への参加	1	2	3	4	5	6	7
⑩ 自治会や地域活動の役員、責任者	1	2	3	4	5	6	7

【理想】

項目	ほとんど妻	ほとんど夫	どちらかといえは妻	どちらかといえは夫	夫婦とも同じ程度	夫婦以外の人	該当なし
① 食事のしたく・あとかたづけ	1	2	3	4	5	6	
② 掃除・洗濯	1	2	3	4	5	6	
③ 食料品・日用品等の買い物	1	2	3	4	5	6	
④ 不動産等高価な買い物	1	2	3	4	5	6	
⑤ 家計費の管理	1	2	3	4	5	6	
⑥ 乳児・幼児の世話	1	2	3	4	5	6	7
⑦ 子どもの学校の委員や行事等への参加	1	2	3	4	5	6	7
⑧ 介護や看護を要する家族の世話	1	2	3	4	5	6	7
⑨ 自治会や地域活動への参加	1	2	3	4	5	6	7
⑩ 自治会や地域活動の役員、責任者	1	2	3	4	5	6	7

災害時の避難についておうかがいします。

問8 万一、自然災害のために避難しなければならなくなった場合、どのようなことが心配ですか。あてはまるものを3つまで選んで、○をつけてください

1. 情報の入手
2. 家族との連絡
3. 家族の合流集合
4. 子ども、高齢者、病気・障がいのある家族の安全な避難
5. 避難所での食事
6. トイレ、入浴など避難所での衛生面
7. 防犯など避難所の安全、更衣室、パーティションなど人権・プライバシーへの配慮
8. 子ども、高齢者、病気・障がいのある家族の避難所での生活
9. 仕事・職場への対応
10. 避難生活でのストレス
11. その他（具体的に _____)

女性の就業のあり方や現状についておうかがいします。

問9 (1) あなた(男性の場合は「妻・パートナー」)の働き方として理想とする形はどれですか。あなたの考えに最も近いもの1つを選んで○をつけてください。

1. 結婚して子どもができて、職業を持ち続ける
2. 子どもが生まれたりいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職業に就く
3. 子どもが生まれるまでは職業に就き、子どもが生まれたり家事や育児に専念する
4. 結婚するまでは職業に就き、結婚したら家事に専念する
5. わからない
6. その他(具体的に)

問9 (2) **現実**にあなた自身(男性の場合は「妻・パートナー」)の働き方はどれにあたりますか。(単身の方は、パートナーと暮らす場合どの形になると思われますか。)あなたの考えに最も近いもの1つを選んで○をつけてください。

1. 結婚して子どもができて、職業を持ち続ける
2. 子どもが生まれたりいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職業に就く
3. 子どもが生まれるまでは職業に就き、子どもが生まれたり家事や育児に専念する
4. 結婚するまでは職業に就き、結婚したら家事に専念する
5. その他(具体的に)

問9 (3) 次世代の女性の働き方として、望ましいと思われる形はどれですか。あなたの考えに最も近いもの1つを選んで○をつけてください。

1. 結婚して子どもができて、職業を持ち続ける
2. 子どもが生まれたりいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職業に就く
3. 子どもが生まれるまでは職業に就き、子どもが生まれたり家事や育児に専念する
4. 結婚するまでは職業に就き、結婚したら家事に専念する
5. わからない
6. その他(具体的に)

問 10 現在、仕事をしている方にうかがいます。

あなたの職場では次に掲げるようなことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 募集や採用に性別による格差がある
2. 賃金・昇給で性別による格差がある
3. 昇進、昇格で性別による格差がある
4. 雇用形態に性別による偏りがある
5. 時間外労働に性別による格差がある
6. 定年に性別による格差がある
7. 深夜業に性別による格差がある
8. 住宅資金の貸付に性別による格差がある
9. 配置や仕事の与え方に性別による格差がある
10. 教育訓練や研修等に性別による格差がある
11. 結婚退職や出産退職の慣例・慣行がある、または居づらい雰囲気がある
12. 性別による格差は感じない

子育てについておうかがいします。

問 11 あなたは子どもの性別と子育てのあり方についてどう思いますか。①～⑤の各項目について、あなたの考えに最も近いものを1つずつ選んで○をつけてください。

項 目	そう思う	どちらかといえば そう思う	そう思わない	どちらかといえば そう思わない	どちらとも言えない
① 男の子には、女の子以上に、責任感、勇気、決断力、実行力、向上心を備えることを求めたい	1	2	3	4	5
② 子どもには、性別に関係なく、炊事・洗濯・掃除等生活に必要な技術を身につけさせたい	1	2	3	4	5
③ 女の子には、男の子以上に、細やかな気配り、人への思いやり優しさ等を備えることを求めたい	1	2	3	4	5
④ 性別に関係なく、子どもの個性と意思を大事に伸ばしたい	1	2	3	4	5
⑤ 男の子には、女の子以上に高い学歴を身につけさせたい	1	2	3	4	5

女性の人権についておうかがいします。

問 12 「女性の人権が侵害されている」と感じるのはどのような場合ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. レイプ（強姦）、痴漢等の犯罪
2. 職場や学校等でのセクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）
3. ストーカー等の女性へのつきまとい行為
4. 家庭内での夫（男性パートナー）からの妻（女性パートナー）への暴力
5. 買春・売春・援助交際
6. 夫婦間での一方的な性関係の強要
7. 風俗店等の性産業
8. ポルノグラフィ、雑誌や広告のヌード写真等、女性を性的対象とするような表現
9. 職場での男性との待遇の差
10. 家事労働の女性への偏り
11. 「婦人」「未亡人」「女流」等女性にだけ用いられる言葉
12. その他（具体的に)

問 13 セクシュアル・ハラスメントについてうかがいます。お答え頂ける方のみ、回答をお願いします。

セクシュアル・ハラスメントは、社会的な力関係を濫用して相手の心と身体を傷つけ、ひいては、働く権利や学ぶ権利をも脅かす行為です。次に示す①～⑩は、セクシュアル・ハラスメントと見なされます。あなたは、これまでに、職場、学校、地域それぞれの場面において、①～⑩のような経験をして不快・苦痛な思いをしたことがあれば、あてはまるものすべてに○をつけてください。

項 目	職 場 で 経 験 し た	学 校 で 経 験 し た	た 場 地 で 域 経 活 験 動 動 動 し の
① 不必要に体を触られた	1	2	3
② 交際や性的関係をせまられた	1	2	3
③ 交際や性的関係を拒否して、不当な扱いや嫌がらせを受けた	1	2	3
④ 宴会でお酌やデュエットを強要された	1	2	3
⑤ ノード写真等を故意に見せられた	1	2	3
⑥ 性的なうわさを流された	1	2	3
⑦ しつこく容姿のことを言われた	1	2	3
⑧ 異性との交際関係や結婚、出産についてたびたび聞かれた	1	2	3
⑨ 性的な冗談や会話につきあわされた	1	2	3
⑩ メールに、「かわいいね」とか「食事に付き合って」といったことが送られてきた	1	2	3

問 14 ドメスティック・バイオレンス（DV）についてうかがいます。お答え頂ける方のみ、回答をお願いします。

ドメスティック・バイオレンスは、夫婦や恋人等近い関係の中での暴力、すなわち相手を傷つける強制を言います。あなたは配偶者や恋人から暴力を受けたことがありますか。①～④の各項目について、1つずつ選んで○をつけてください。

項 目	い る	頻 繁 に 受 け て	あ る 何 度 か 経 験 が	た が 今 は な い	過 去 に 経 験 し	経 験 が な い
① 精神的な暴力（無視する、なじる、おとしめる、おどす、嫌がらせをする、つきまとう、行動や交友関係等を監視したり、禁止する等）	1	2	3	4		
② 肉体的な暴力（殴る、蹴る、ものを壊す等）	1	2	3	4		
③ 性的な暴力（望まない性行為の強要、避妊への非協力等）	1	2	3	4		

男女共同参画に関する法律やことば等についておうかがいします。

問 15 あなたが、見たり聞いたりしたことがあるものについて、①～⑬の各項目について、1つずつ選んで○をつけてください。

項 目	い 知 る こ と を	あ こ 聞 ま る こ と を	い 知 ら な い
① 男女共同参画社会基本法	1	2	3
② DV防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律）	1	2	3
③ 男女雇用機会均等法（雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律）	1	2	3
④ 国の「男女共同参画基本計画（第3次）」	1	2	3
⑤ 千葉県男女共同参画計画（第3次）	1	2	3
⑥ 千葉県女性サポートセンター	1	2	3
⑦ 千葉県男女共同参画センター	1	2	3
⑧ 千葉県男女共同参画苦情処理委員制度	1	2	3
⑨ 四街道市男女共同参画推進計画	1	2	3
⑩ ファミリー・サポート・センター	1	2	3
⑪ 配偶者暴力相談支援センター	1	2	3
⑫ 家族経営協定	1	2	3
⑬ 女子差別撤廃条約（女子に対するあらゆる形態の差別を撤廃する条約）	1	2	3

◆おわりに、男女共同参画の実現に向けて、ご意見やご要望がありましたらお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。お手数ですがアンケート用紙は同封の封筒に入れ、切手を貼らずに、11月29日（木）までに、最寄りの郵便ポストに投函してください。

四街道市男女共同参画市民意識調査報告書

四街道市経営企画部政策推進課

〒284-8555

四街道市鹿渡無番地

(電話) 043-421-2111(代表)

環境に配慮し、古紙を含んだ再生紙を使用しています。